

市町村別鳥類生息密度調査報告書

第 13 次鳥獣保護管理事業計画（令和 4 年度～令和 8 年度）第一次報告

令和 5 年 9 月

群馬県

序

群馬県は三方を山に囲まれ、県土の約3分の2を森林が占め、利根川水系を中心とした河川は網の目のように流れ、関東平野につながっています。このような群馬県には、数多くの野鳥の生息が確認されていますが、生息する野鳥の種や数は、生息環境の変化に伴い、次第に変わりつつあります。

このような中、野鳥の生息状況の調査を行うことは、単に野鳥の生息状況を知るだけでなく、私たちを取り巻く環境の変化を知るうえでも極めて大切なことであります。

この生息密度調査は、県内を河川の流域別に5つのブロックに分け、昭和47年度から「市町村別鳥獣生息調査」として始まりましたが、昭和57年度からは「市町村別鳥類生息密度調査」と名称を変え、現在に至っております。調査は、「鳥獣保護管理事業計画」に基づき5か年で県内全体を一巡する形となっております。

本報告書は、「第13次鳥獣保護管理事業計画」に基づき実施する調査の第一次報告で、令和4年度において、神流川及び鐺川両流域を調査した結果をまとめたものです。野鳥保護のための基礎資料となるものですが、広く県民の皆様が野鳥に親しむための一助となれば幸いです。

なお、本調査の実施にあたり、日本野鳥の会群馬をはじめとする多くの関係者の皆様に御協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

令和5年9月

群馬県環境森林部自然環境課長

石井 年香

目 次

1. はじめに	1
2. 調査メッシュ区画図	3
3. 調査結果	
1) 藤岡市〔高崎b、藤岡a・c・d、上野吉井b、神ヶ原a〕	5
2) 藤岡市（旧鬼石町）〔鬼石c〕	21
3) 高崎市（旧吉井町）〔上野吉井a、富岡b〕	27
4) 神流町（旧万場町）〔万場a・c・d、神ヶ原b〕	35
5) 神流町（旧中里村）〔両神山a、神ヶ原d〕	47
6) 上野村〔両神山c、十石峠b・d、浜平a・c〕	55
7) 富岡市〔富岡d、松井田b、下仁田a・c〕	69
8) 富岡市（旧妙義町）〔松井田d〕	81
9) 下仁田町〔神ヶ原c、下仁田d、荒船山a・c、南軽井沢b・d〕	87
10) 南牧村〔十石峠a・c、荒船山b・d〕	103
11) 甘楽町〔上野吉井c・d、下仁田b〕	115

※市町村区分については、調査実施単位である旧市町村を基準とした。

はじめに

本調査は、鳥類の生息数および生息環境等を把握するため、県内を流域別に5ブロックに分け、順次ブロックごとに繁殖期の生息密度および越冬期における生息状況について、メッシュ調査をおこなうものである。調査は、日本野鳥の会群馬に委託して実施した。

1. 調査地

国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を縦横各2等分し、4分割となった1区画（東西約6.0km×南北約4.5km）を1メッシュとし、各メッシュの中で鳥類の生息が比較的良好と思われる地域に4kmの調査コースを設けた。安全な調査ルートが確保できず調査できない場所を除外し、今回は38メッシュの調査を実施した。

2. 調査方法

各メッシュに設けた4kmの調査コース上を時速約2kmで歩き、コースの左右25m（全幅50m）の範囲で、観察または鳴声等により確認された鳥の種類および個体数等を記録した。さらに、この範囲外（左右25m以遠）で確認できた鳥がいた場合には、種類のみを記録した。調査時期は、繁殖期の5月～7月と越冬期の11月～1月である。調査回数は、繁殖期に4回（2往復）と越冬期に2回（1往復）の計6回とした。調査対象種は、外来種を含めた鳥類全種である。また、繁殖鳥の全国調査と同様の基準で、調査中に繁殖に関係する行動などを記録した。

3. 結果の集計方法

結果は調査メッシュごとに集計し、旧市町村ごとに、調査コースの環境の概要、繁殖期と越冬期の結果、および過去の記録との比較について簡潔にまとめた。その際、越冬期の調査回数は第10次計画以前が1回、第11次計画以降が2回であるため、個体数の比較には調査1回あたりの平均を用いた。1メッシュが2つ以上の旧市町村にまたがる場合は、面積の一番多い旧市町村に区分するか、旧市町村名を併記した。各メッシュの集計表には調査日ごとの記録種とその個体数を示し、繁殖期・越冬期とも、合計と平均個体数を示した。調査範囲外で記録されたものについては○で示し、個体数の集計からは除外した。また、

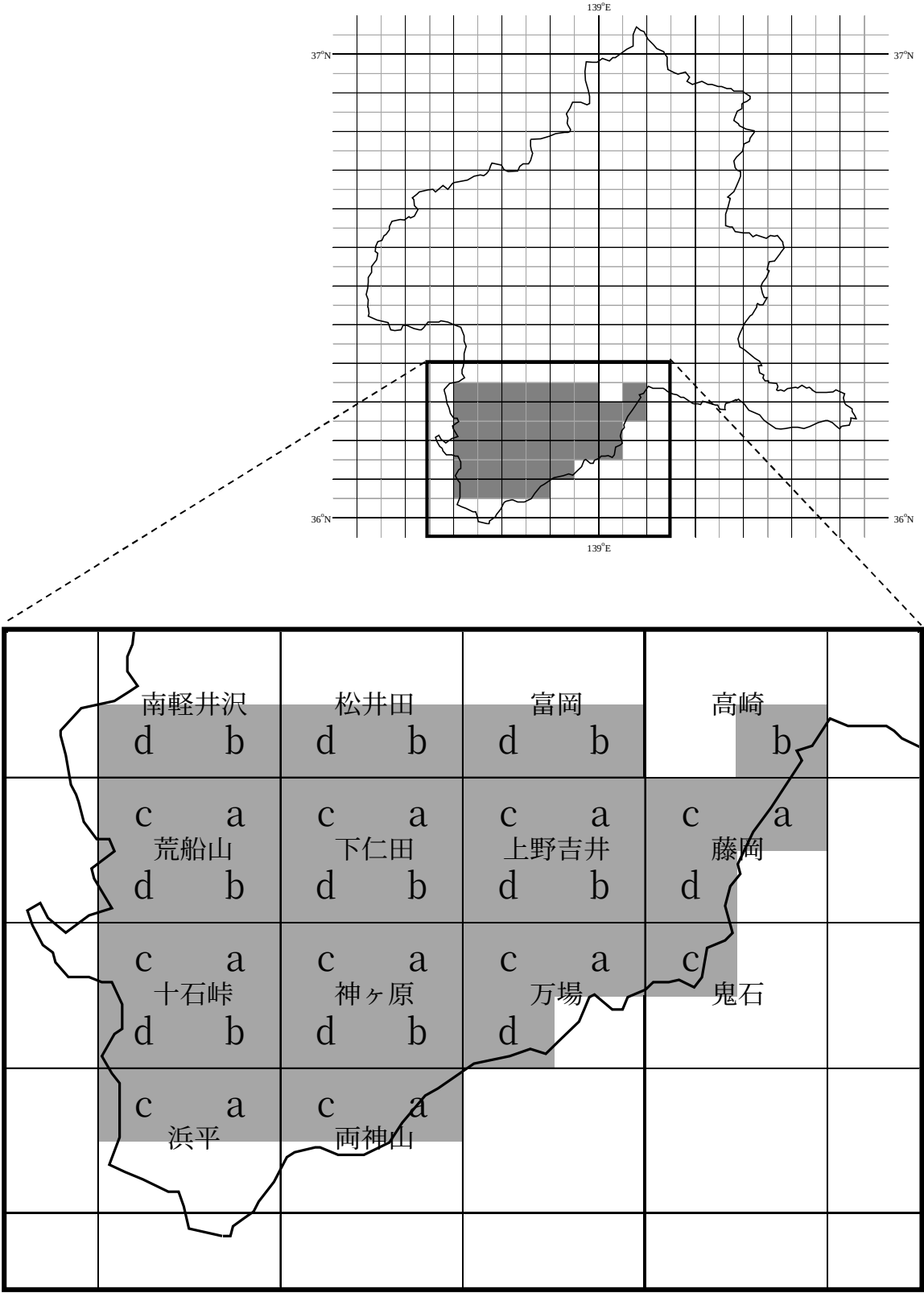
繁殖期に関しては、密度、種優占度、相対出現頻度を算出し、繁殖可能性ランクを示した。
密度等の計算方法は次のとおりである。繁殖可能性ランクについては、環境省が定める繁殖状態の判定基準のうち、繁殖に直接関わる行動を観察したAランクと、繁殖は確認できなかったが繁殖の可能性が高いBランクのみを示した。過去の記録との比較では、越冬期の調査回数が過去の調査と異なるため、繁殖期・越冬期とも平均個体数を比較に用いた。

- ① 1時間当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査時間}}$
- ② 1ha 当たり密度 = $\frac{\text{観察個体数}}{\text{調査面積}}$
- ③ 種 優 占 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{全種類の観察個体数}} \times 100 (\%)$ (その種がその地域で占める
個体数の割合)
- ④ 相 対 出 現 頻 度 = $\frac{\text{その種の観察個体数}}{\text{最多出現種の個体数}} \times 100 (\%)$ (最多出現種の観察個体数を
100としたときの相対値)

4. 第13次鳥獣保護管理事業計画（令和4年度～令和8年度）の調査概要

対 象 鳥 獣 名	調 査 年 度	調 査 方 法 内 容	調 査 地 域			調 査 時 期
			流域別	市町村 (旧区分)	メッシュ数	
外 来 種 を 含 む 全 て の 鳥 類	令 和 4 年 度 (第一次報告)	市町村別に2万5千分の1地形図を4分割したメッシュごとに現地調査をおこなう。 調査結果は報告書として印刷製本する。	神 流 川 鎚 川	藤岡市、鬼石町、吉井町、万場町、中里村、上野村、富岡市、妙義町、下仁田町、南牧村、甘楽町 11市町村	38	繁殖期 (5～7月) に4回 越冬期 (12～1月) に2回
	碓 氷 川 烏 川 利 根 川 (中 流)		渋川市、子持村、小野上村、伊香保町、榛東村、吉岡町、高崎市、安中市、榛名町、倉渕村、箕郷町、群馬町、松井田町 13市町村	33		
	吾 妻 川		中之条町、(吾) 東村、吾妻町、長野原町、嬬恋村、草津町、六合村、高山村 8市町村	44		
	利 根 川 (上 流)		沼田市、利根村、白沢村、片品村、川場村、月夜野町、水上町、新治村、昭和村 9市町村	43		
	利 根 川 渡 良 瀬 川		前橋市、桐生市、玉村町、太田市、館林市、北橋村、赤城村、富士見村、大胡町、宮城村、粕川村、黒保根村、(勢) 東村、大間々町、赤堀町、新田町、藪塚本町、笠懸町、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町 23市町村	61		
			合 計 64市町村			219

調査メッシュ区画図



藤岡市（旧藤岡市）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

藤岡市（旧藤岡市）に含まれる調査地は下表の 6 メッシュである。神ヶ原 a は山地帯に属するが、その他の 5 メッシュは平地から低山帯に属する。また、高崎 b は市街地に隣接する烏川の堤防上であるが、それ以外は植林地や広葉樹の里山的環境である。6 コースとも周辺の環境に大きな変化はなく、前回と同じ、またはほぼ同じコースで調査を実施した。

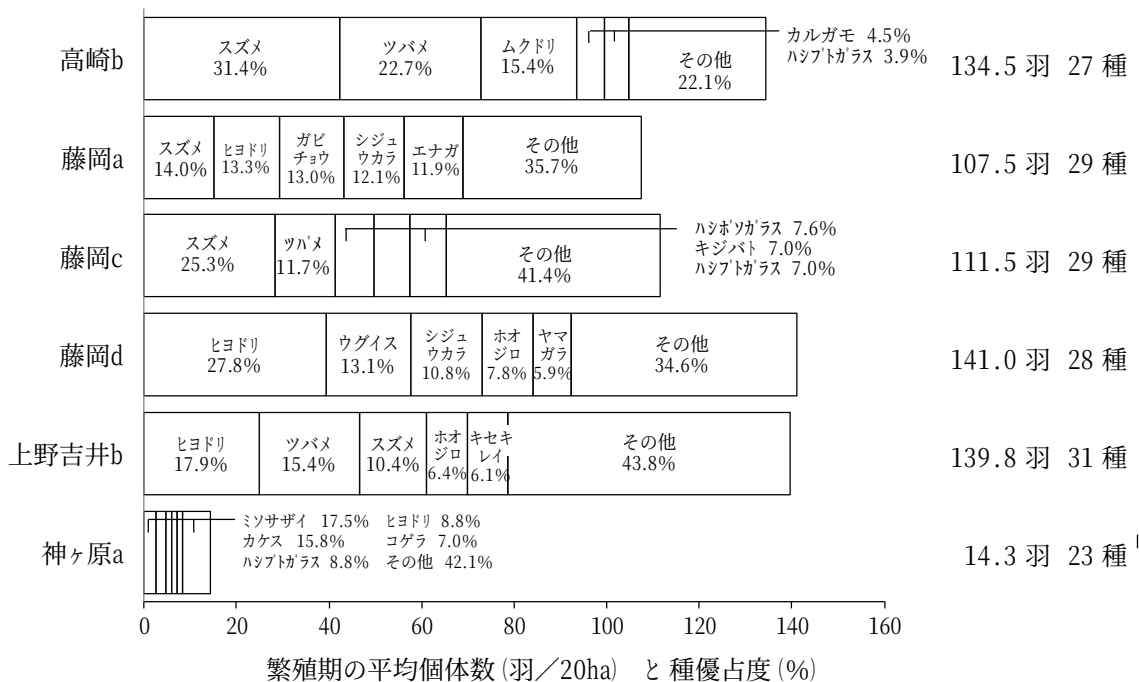
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
高崎b	60 ～ 72	—	—	—	—	○	—	◎	○	前回と同じ
藤岡a	90 ～ 190	◎	○	◎	—	—	○	—	○	前回とほぼ同じ
藤岡c	140 ～ 150	○	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
藤岡d	245 ～ 465	○	—	◎	○	○	◎	—	—	前回と同じ
上野吉井b	210 ～ 265	◎	—	◎	—	○	◎	—	○	前回と同じ
神ヶ原a	756 ～ 1065	○	○	◎	—	—	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、藤岡市（旧藤岡市）全体で繁殖期に 53 種、越冬期に 52 種、年間では 72 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 83 種、前回（平成 29 年度実施）は年間 85 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。神ヶ原 a 以外は市街地や集落に近いので、スズメやヒヨドリ、ツバメ、キジバト、カラス類といった人里に生息する種が優占した。神ヶ原 a は標高が高いため、その他のメッシュに比較して個体数が少なかった。特筆すべき種として、2022 年に改訂された群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種のアオバト、ツ



ツドリ、サンコウチョウ、オナガ、コサメビタキの5種が記録された。これらは良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物に指定されているガビチョウが、標高が高い神ヶ原 a を含む全メッシュで記録され、藤岡 a ではカオジログビチョウも記録された。県内にガビチョウ類が定着して久しいが、現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていない。ただし、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。高崎 b ではダイサギの群れが記録されたほか、河川や貯水池などを含むメッシュではカモ類が優占種に入ったが、その他は繁殖期と同様に人里の種が優占した。県 RDB 掲載種はハイタカとカシラダカ、コガモの3種が記録された。また、外来種のガビチョウは、越冬期にも藤岡 a・c・d、神ヶ原 a で記録された。

調査メッシュ	優占種（上位5種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
高崎b	ダイサギ	スズメ	カルガモ	ハシブトガラス	ハシボソガラス	85.0	12
藤岡a	コガモ	ヒヨドリ	マガモ	スズメ	シメ	110.5	22
藤岡c	スズメ	マガモ	ヒヨドリ	ハシボソガラス	ハシブトガラス	130.0	30
藤岡d	ヒヨドリ	シジュウカラ	カシラダカ	ホオジロ	ツグミ	120.0	23
上野吉井b	ヒヨドリ	メジロ	ホオジロ	シジュウカラ	カシラダカ	64.0	24
神ヶ原a	エナガ	シジュウカラ	カケス	ヤマガラ	ハシブトガラス	27.5	14

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

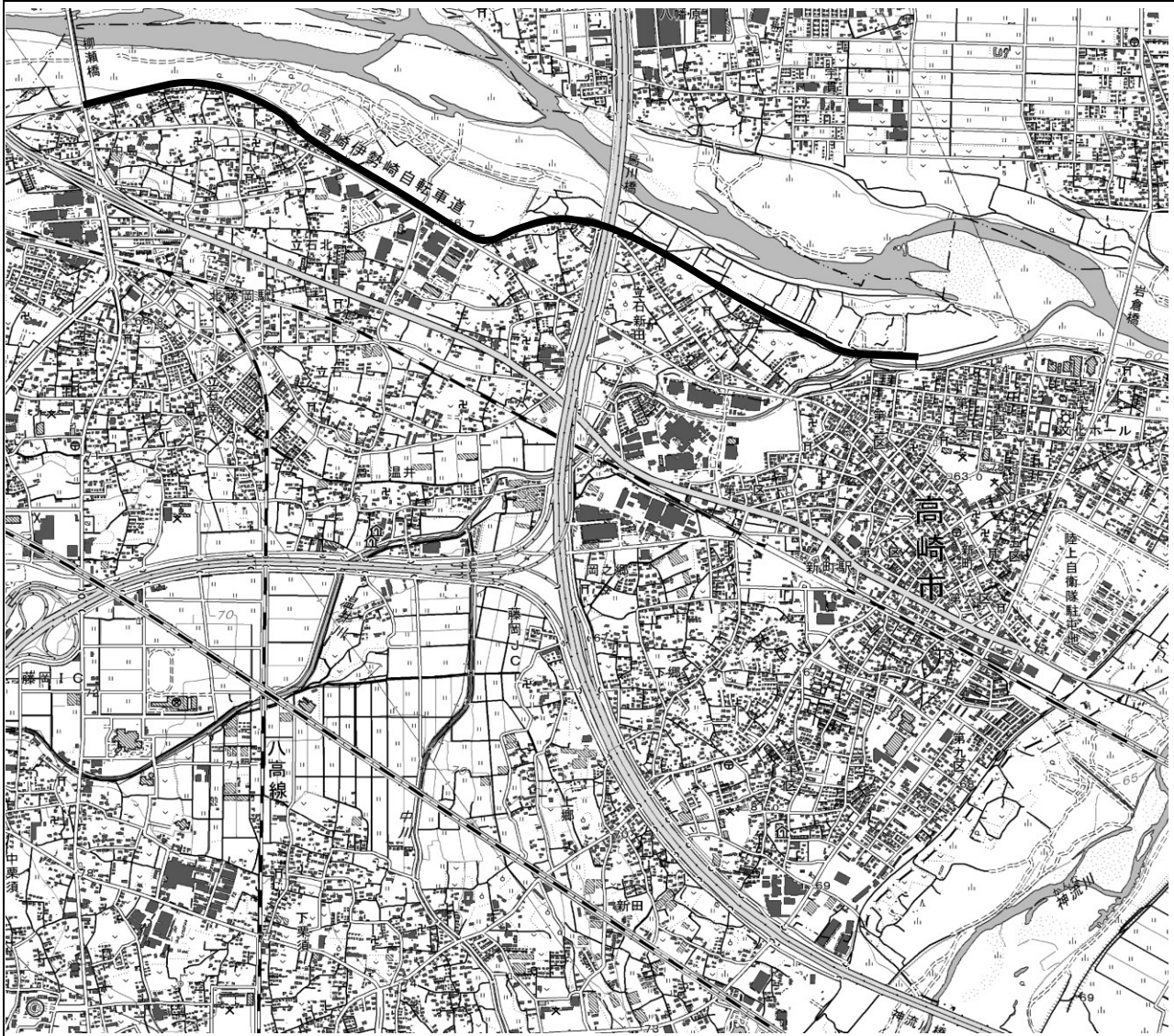
最近3回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期は、カラ類とウグイス、ホオジロが減少した神ヶ原 a で個体数が少なかったが、減少の原因は不明である。越冬期はカラ類が減少した神ヶ原 a とカモ類が減少した藤岡 c で個体数が少なかった。冬季のカラ類は群れで移動するため、また、カモ類は水面上の調査範囲に入るかどうかで、記録数の変動が大きいことが一因と考えられる。

過去2回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ハシビロガモとカオジログビチョウの2種であった。一方、過去2回とも記録があるのに今回記録されなかったのはオナガガモ、ホシハジロ、カッコウ、アマツバメ、コチドリ、コアジサシ、オオタカ、センダイムシクイ、カヤクグリ、ビンズイ、マヒワの11種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
高崎b	29	29	27	205.0	150.5	134.5	24	19	12	172.0	162.0	85.0
藤岡a	25	22	29	113.0	91.0	107.5	25	23	22	218.5	161.0	110.5
藤岡c	34	30	29	182.0	164.8	111.5	32	39	30	470.5	433.0	130.0
藤岡d	29	30	28	84.0	98.3	141.0	29	23	23	87.5	48.0	120.0
上野吉井b	31	29	31	89.8	96.5	139.8	26	19	24	94.0	61.0	64.0
神ヶ原a	24	22	23	67.3	43.3	14.3	12	13	14	66.0	46.5	27.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	藤岡市（旧藤岡市）	地形図名	高崎b	調 査 者	三上 金次
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）= 20 ha			調査地の標高	60 ～ 72 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

—	広葉樹林（自然林・雑木林）
—	針葉樹林（自然林）
—	植林地（人工林）
—	草地・草原・ヨシ原
○	農耕地（田・畑・果樹園）
—	里山・疎らな民家
◎	市街地・工業団地
○	河川湖沼・河川敷

調査コースは、烏川右岸の柳瀬橋から関越道の下を通過して岩倉橋までの堤防上の高崎伊勢崎自転車道である。岩倉橋手前で温井川が烏川に合流する平坦な地形で、堤防外の河川敷にはグラウンド・畑・草地およびニセアカシアやタケの狭い林がある。水辺までは200～600mある。一方、堤防内は旧国道17号の県道178号と並行し、住宅地・工場・畑および寺社林がある。

今回の調査では、営巢中のハシブトガラスが記録され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

高崎b

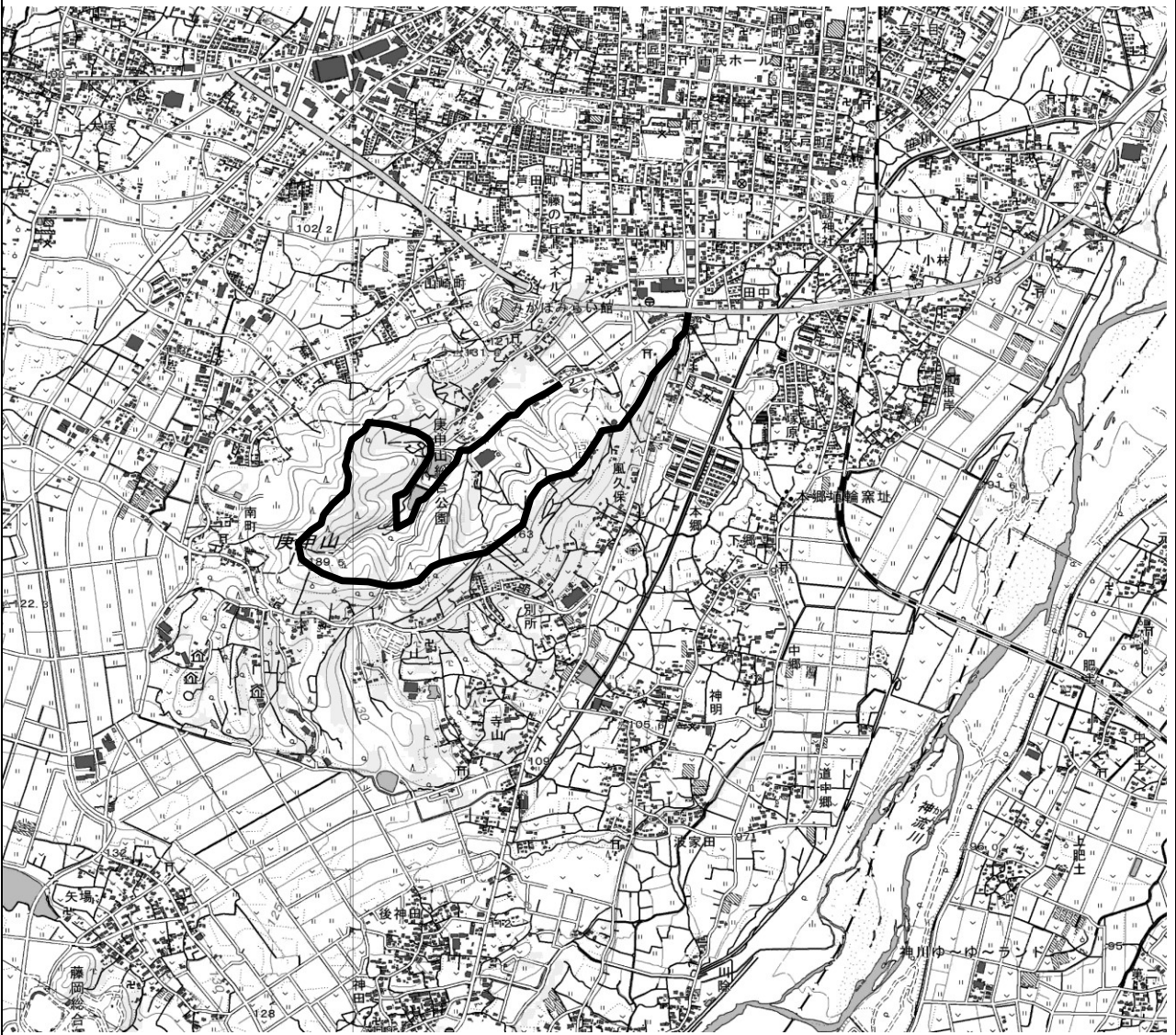
調査者

三上 金次

調 査 年 月 日	R4. 5. 23	R4. 5. 23	R4. 6. 21	R4. 6. 21	R4. 12. 14	R4. 12. 14	繁殖期							越冬期	
	4 : 45 〆 6 : 50 (125分)	7 : 15 〆 9 : 05 (110分)	4 : 35 〆 6 : 20 (105分)	6 : 35 〆 8 : 20 (105分)	7 : 55 〆 9 : 30 (95分)	9 : 35 〆 11 : 10 (95分)	合計	平均	密度		種優 占度	相 対 出 現 頻 度	繁殖 可 能 性 ラ ン ク	合計	平均
調 査 時 間							Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
天 候	曇	曇	曇	曇	晴	晴	⑦				(%)	(%)		⑧	
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
キジ	2	2	〇				4	1.00	0.54	0.05	0.7	2.4	B		
カルガモ	11	9	1	3	13	5	24	6.00	3.24	0.30	4.5	14.2		18	9.00
キジバト	2	1	2	3	4	10	8	2.00	1.08	0.10	1.5	4.7		14	7.00
カワウ				1	2		1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6		2	1.00
5 アオサギ			2	2	2		4	1.00	0.54	0.05	0.7	2.4		2	1.00
ダイサギ	〇	1		〇	53	8	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6		61	30.50
トビ		1		2	2	2	3	0.75	0.40	0.04	0.6	1.8		4	2.00
オナガ	5			5			10	2.50	1.35	0.13	1.9	5.9			
ハシボソガラス	9	4	4	2	11	4	19	4.75	2.56	0.24	3.5	11.2		15	7.50
10 ハシブトガラス	7	5	6	3	7	8	21	5.25	2.83	0.26	3.9	12.4	A	15	7.50
シジュウカラ	2	2					4	1.00	0.54	0.05	0.7	2.4			
ヒバリ	〇	2	〇	〇			2	0.50	0.27	0.03	0.4	1.2	B		
ツバメ	22	24	28	48			122	30.50	16.45	1.53	22.7	72.2			
ヒヨドリ	4	1	1	2	6	7	8	2.00	1.08	0.10	1.5	4.7		13	6.50
15 ウグイス	3	1	〇	〇			4	1.00	0.54	0.05	0.7	2.4	B		
メジロ	〇	1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6			
オオヨシキリ	〇	〇	2	〇			2	0.50	0.27	0.03	0.4	1.2	B		
セッカ	〇	〇	〇				〇						B		
ムクドリ	13	26	5	39			83	20.75	11.19	1.04	15.4	49.1			
20 スズメ	39	62	37	31	15	8	169	42.25	22.79	2.11	31.4	100.0	B	23	11.50
ハクセキレイ	7	3	3	2		1	15	3.75	2.02	0.19	2.8	8.9		1	0.50
セグロセキレイ				2			2	0.50	0.27	0.03	0.4	1.2			
カワラヒワ	5	2	6	4			17	4.25	2.29	0.21	3.2	10.1			
ホオジロ	2	2	〇	2			6	1.50	0.81	0.08	1.1	3.6	B		
25 コジュケイ		1		〇			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6			
カワラバト (ドバト)		1				2	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6		2	1.00
ガビチョウ	1	1	2	2			6	1.50	0.81	0.08	1.1	3.6			
30															
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	134	152	99	153	115	55	538	134.50	72.54	6.73		170	85.00
		種 数	16	21	13	17	10	10	26					12	
		全 種 数	21	23	18	22	10	10	27					12	

調 査 地 の 概 況

市町村名	藤岡市（旧藤岡市）	地形図名	藤岡a	調 査 者	木村 紀久
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	90 ～ 190 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	庚申山周辺のコースである。ふじの丘から頂上までは、雑木林・アカマツ・ヒノキ林及び竹林がある。シイタケ栽培用のコナラ林があちこちで伐採され木がない場所もある。南側はさくら山、つつじ山など人の手が入った公園になっている。谷津には2カ所に池があり水場は十分である。公園として整備されすぎた感があり、餌になる草木などが夏のうちに刈られてしまうので、冬鳥のホオジロ科の小鳥などへの影響が懸念される。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

前回までの調査コースとほぼ同じであるが、一部の遊歩道に迂回路が設定されていて、この迂回路に従って調査した。ごく短距離の迂回なので調査距離や調査範囲はほぼ同じである。2つの池では繁殖期にウシガエルを多数確認した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

藤岡a

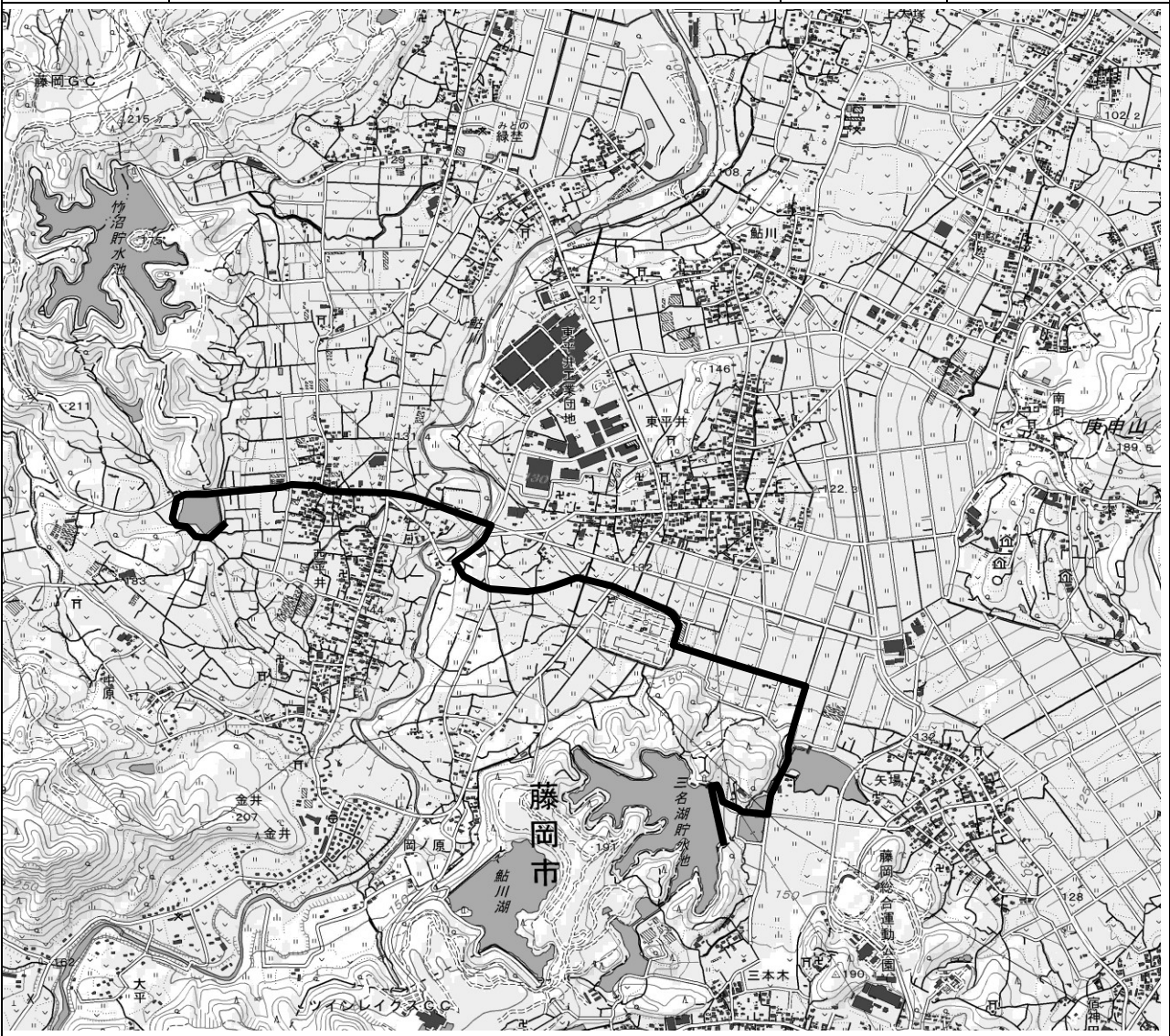
調査者

木村 紀久

調 査 年 月 日		R4. 5. 20	R4. 5. 20	R4. 6. 17	R4. 6. 17	R4. 12. 24	R4. 12. 24	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 00 〃 7 : 05 (125分)	7 : 05 〃 8 : 50 (105分)	5 : 10 〃 7 : 15 (125分)	7 : 15 〃 8 : 55 (100分)	8 : 00 〃 9 : 50 (110分)	9 : 55 〃 11 : 45 (110分)	合 計	平 均 (114分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (110分)
天 候 種類 / 結果		曇 羽数	曇 羽数	曇 羽数	曇 羽数	曇 羽数	曇 羽数	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	キジ	〇						〇								
	オカヨシガモ					〇	2								2	1.00
	マガモ					12	16								28	14.00
	コガモ					26	19								45	22.50
	キジバト	5	2	〇	〇			7	1.75	0.92	0.09	1.6	11.7	B		
10	アオバト		〇		〇			〇						B		
	アオサギ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7			
	トビ						1								1	0.50
	カワセミ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7			
	コゲラ	7	4	6	2	2	2	19	4.75	2.51	0.24	4.4	31.7		4	2.00
15	アオゲラ			1	〇	〇		1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7		〇	
	モズ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7			
	ハシボソガラス	〇	3	2	2			7	1.75	0.92	0.09	1.6	11.7			
	ハシブトガラス	7	5	1	2	5	5	15	3.75	1.98	0.19	3.5	25.0		10	5.00
	ヤマガラ	3	2	4	2	2	3	11	2.75	1.45	0.14	2.6	18.3	B	5	2.50
20	ヒガラ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7			
	シジュウカラ	12	13	11	16	10	5	52	13.00	6.86	0.65	12.1	86.7	B	15	7.50
	ツバメ	1	〇		1			2	0.50	0.26	0.03	0.5	3.3			
	ヒヨドリ	17	17	13	10	19	16	57	14.25	7.52	0.71	13.3	95.0	B	35	17.50
	ウグイス	8	7	8	6	〇	3	29	7.25	3.82	0.36	6.7	48.3	B	3	1.50
25	ヤブサメ	1	3	1	〇			5	1.25	0.66	0.06	1.2	8.3	B		
	エナガ	11	6	15	19	7	2	51	12.75	6.73	0.64	11.9	85.0	B	9	4.50
	メジロ	4	9	4	9	6	2	26	6.50	3.43	0.33	6.0	43.3	B	8	4.00
	ムクドリ			2	〇			2	0.50	0.26	0.03	0.5	3.3			
	ツグミ					1	1								2	1.00
30	ジョウビタキ					1	1								2	1.00
	キビタキ	3	4	2	1			10	2.50	1.32	0.13	2.3	16.7	B		
	スズメ	15	17	17	11	10	13	60	15.00	7.91	0.75	14.0	100.0	B	23	11.50
	キセキレイ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.7			
	ハクセキレイ		〇				〇	〇							〇	
35	カワラヒワ	4	2	3	1	〇		10	2.50	1.32	0.13	2.3	16.7	B	〇	
	シメ					15	5								20	10.00
	ホオジロ		1	1	〇			2	0.50	0.26	0.03	0.5	3.3	B		
	アオジ					5	2								7	3.50
	コジュケイ	〇		〇	〇	〇		〇						B	〇	
40	ガビチョウ	13	14	16	13	2		56	14.00	7.38	0.70	13.0	93.3	B	2	1.00
	カオジロガビチョウ	1		2				3	0.75	0.40	0.04	0.7	5.0			
45																
50																
計	範囲内	個体数	114	110	109	97	123	98	430	107.50	56.70	5.38			221	110.50
		種 数	18	17	18	16	15	17	25						18	
		全 種 数	21	20	20	23	20	18	29						22	

調査地の概況

市町村名	藤岡市（旧藤岡市）	地形図名	藤岡c	調査者	谷畑 藤男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	140 ～ 150 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☐ 広葉樹林（自然林・雑木林） ☐ 針葉樹林（自然林） ☐ 植林地（人工林） ☐ 草地・草原・ヨシ原 ☒ 農耕地（田・畑・果樹園） ☐ 里山・疎らな民家 ☐ 市街地・工業団地 ☐ 河川湖沼・河川敷 三名湖から大神場池までの平坦なコースである。池沼・耕地・里山雑木林など多様な環境があり、耕地の多くは麦と稲の二毛作である。三名湖堤に隣接する林にはアオサギの繁殖コロニーがあったが、5年前に分散して巣数が減少し、今年はコロニーが消滅していた。当地では毎回アオバトが記録され、今回も三名湖堤上空を南東に飛ぶ13羽の群れを確認した。アオバトは塩水を摂取するため、周辺に塩分供給地があるのかもしれない。矢場池と大神場池はカモ類の越冬地であるが、今回は大神場池では繁殖期と越冬期ともに水鳥が記録されなかった。 今回の調査では、営巣中のツバメと、巣立ち雛が観察されたシジュウカラとスズメの3種で繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。		

<備考>

調査コースは前回と同じ。三名湖は堤の工事は終了した。夏は満水になったが、冬には水が抜かれ、わずかな水量の湖底にマガモの群れが見られた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

藤岡c

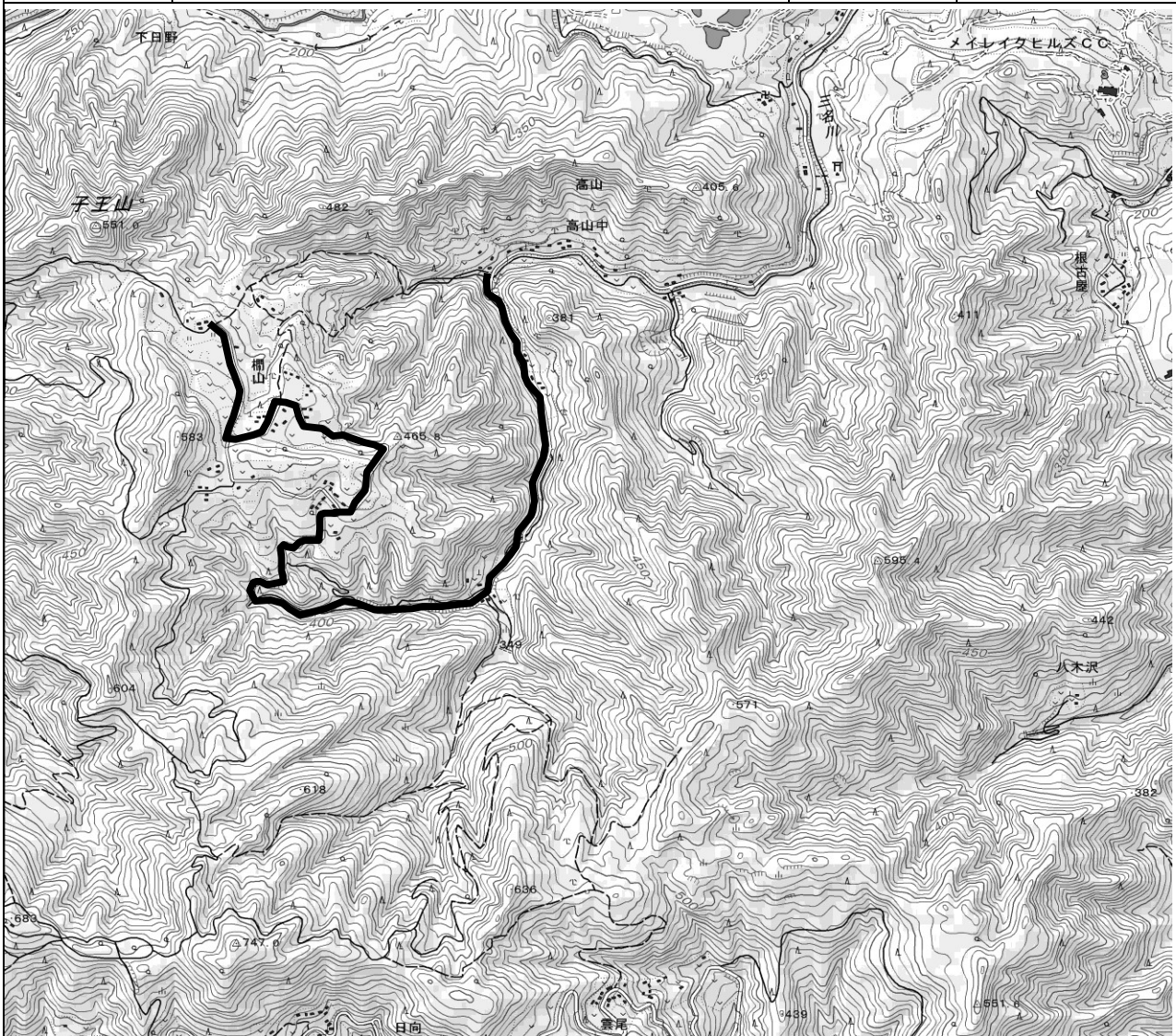
調査者

谷畑 藤男

調 査 年 月 日	R4. 5. 22	R4. 5. 22	R4. 6. 10	R4. 6. 10	R4. 12. 8	R4. 12. 8	繁殖期							越冬期	
	5 : 45 〆 7 : 45 (120分)	8 : 00 〆 10 : 00 (120分)	5 : 45 〆 7 : 45 (120分)	8 : 00 〆 10 : 00 (120分)	7 : 00 〆 9 : 00 (120分)	9 : 10 〆 11 : 10 (120分)	合計	平均 (120分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合計	平均 (120分)
天 候	曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	4	2		1			7	1.75	0.88	0.09	1.6	6.2	B		
オカヨシガモ						○								○	
ヨシガモ						1								1	0.50
ヒドリガモ						○								○	
5 マガモ			1		20	10	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		30	15.00
カルガモ		6	7		2	3	13	3.25	1.63	0.16	2.9	11.5		5	2.50
ハシビロガモ					1	2								3	1.50
コガモ						○								○	
キンクロハジロ						5								5	2.50
10 カイツブリ						2								2	1.00
キジバト	9	4	11	7	1	2	31	7.75	3.88	0.39	7.0	27.4	B	3	1.50
アオバト				13			13	3.25	1.63	0.16	2.9	11.5			
カワウ	1		1	4	10	5	6	1.50	0.75	0.08	1.3	5.3		15	7.50
アオサギ	1	2		1	3	5	4	1.00	0.50	0.05	0.9	3.5		8	4.00
15 ダイサギ				1	4	4	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		8	4.00
オオバン					2	2								4	2.00
ホトトギス				2			2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.8			
トビ	1	2				1	3	0.75	0.38	0.04	0.7	2.7		1	0.50
ノスリ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9			
20 カワセミ		1	1				2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.8			
チョウゲンボウ						1								1	0.50
モズ					2	2								4	2.00
ハシボソガラス	10	6	8	10	10	12	34	8.50	4.25	0.43	7.6	30.1	B	22	11.00
ハシブトガラス	8	11	8	4	14	8	31	7.75	3.88	0.39	7.0	27.4		22	11.00
25 シジュウカラ	3	4	2			4	9	2.25	1.13	0.11	2.0	8.0	A	4	2.00
ヒバリ	3	6	4	4	2		17	4.25	2.13	0.21	3.8	15.0	B	2	1.00
ツバメ	10	13	14	15			52	13.00	6.50	0.65	11.7	46.0	A		
ヒヨドリ	2	3	2	5	15	13	12	3.00	1.50	0.15	2.7	10.6		28	14.00
ウグイス	6	6	8	4			24	6.00	3.00	0.30	5.4	21.2	B		
30 メジロ				4	3	2	4	1.00	0.50	0.05	0.9	3.5		5	2.50
ムクドリ	2	2	10		2	18	14	3.50	1.75	0.18	3.1	12.4		20	10.00
スズメ	30	25	37	21	24	30	113	28.25	14.13	1.41	25.3	100.0	A	54	27.00
キセキレイ					2									2	1.00
ハクセキレイ	1		2	1	3	3	4	1.00	0.50	0.05	0.9	3.5		6	3.00
35 セグロセキレイ		1	1		1	1	2	0.50	0.25	0.03	0.4	1.8		2	1.00
カワラヒワ	3	6		5			14	3.50	1.75	0.18	3.1	12.4			
ホオジロ			3	2			5	1.25	0.63	0.06	1.1	4.4			
アオジ					1									1	0.50
コジュケイ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9			
40 カワラバト (ドバト)	4	3					7	1.75	0.88	0.09	1.6	6.2			
ガビチョウ	6	3	6	4		2	19	4.75	2.38	0.24	4.3	16.8	B	2	1.00
45															
50															
計	範囲内	個体数	105	107	126	108	122	138	446	111.50	55.75	5.58		260	130.00
		種 数	19	20	18	19	20	24	29					27	
		全 種 数	19	20	18	19	20	27	29					30	

調 査 地 の 概 況

市町村名	藤岡市（旧藤岡市）	地形図名	藤岡d	調 査 者	奥 浩之
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	245 ～ 465 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☒ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☐ 農耕地（田・畑・果樹園）☒ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

山や沢、畑、人家などがあり、環境は変化に富んでいる。スギを中心とした植林地と、いわゆる里山と呼ばれる広葉樹の雑木林が混在している。竹林があるが荒れている。コースの半分は沢に沿っており水量も豊富である。

今回の調査では、営巣中のノスリ、巣立ち雛が観察されたシジュウカラとエナガの3種で繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。繁殖期は2日とも雨上がりで沢音が大きく、越冬期は太陽光発電施設の刈り払い作業の音が大きく、鳥の声を聞き取りにくい場所があった。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

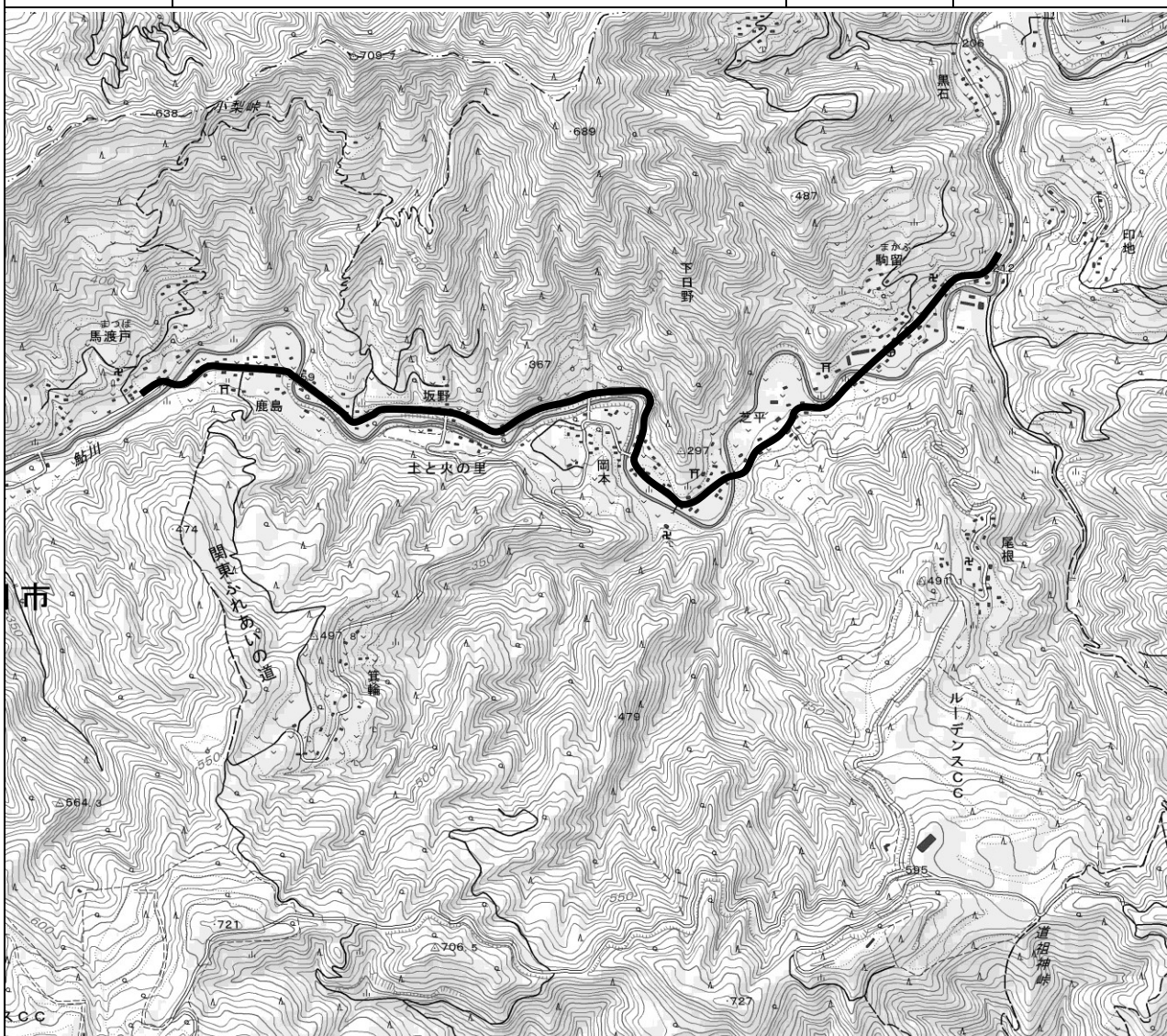
藤岡d

調査者

奥 浩之

調 査 年 月 日	R4. 6. 18	R4. 6. 18	R4. 6. 25	R4. 6. 25	R4. 12. 29	R4. 12. 29	繁殖期							越冬期	
	5 : 15 5 : 35 7 : 25 (130分)	7 : 35 5 : 35 9 : 35 (120分)	5 : 35 5 : 35 7 : 35 (120分)	7 : 45 5 : 35 9 : 45 (120分)	7 : 55 5 : 35 9 : 45 (110分)	9 : 55 5 : 35 11 : 55 (120分)	合計	平均 (123分)	密度		種優 占度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合計	平均 (115分)
天 候	晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.6			
キジバト	6	6	11	2		5	25	6.25	3.06	0.31	4.4	15.9	B	5	2.50
アオバト	1	1	○	○			2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.3			
ホトトギス	4	6	1	5			16	4.00	1.96	0.20	2.8	10.2	B		
5 トビ															
ノスリ				2			2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.3	A		
コゲラ	5		3	2	5	4	10	2.50	1.22	0.13	1.8	6.4		9	4.50
アカゲラ					1	1								2	1.00
サンコウチョウ		2		1			3	0.75	0.37	0.04	0.5	1.9	B		
10 カケス	3		1	3	2	2	7	1.75	0.86	0.09	1.2	4.5		4	2.00
ハシボソガラス	○	2	2	○			4	1.00	0.49	0.05	0.7	2.5			
ハシブトガラス	6	2	1	4	5	1	13	3.25	1.59	0.16	2.3	8.3		6	3.00
コガラ		6					6	1.50	0.73	0.08	1.1	3.8			
ヤマガラ	21	3	5	4	○	7	33	8.25	4.04	0.41	5.9	21.0	B	7	3.50
15 ヒガラ	2	1	2	1			6	1.50	0.73	0.08	1.1	3.8	B		
シジュウカラ	29	5	10	17	11	17	61	15.25	7.47	0.76	10.8	38.9	A	28	14.00
ツバメ				3			3	0.75	0.37	0.04	0.5	1.9			
ヒヨドリ	33	29	47	48	52	28	157	39.25	19.22	1.96	27.8	100.0		80	40.00
ウグイス	20	17	21	16	8	1	74	18.50	9.06	0.93	13.1	47.1	B	9	4.50
20 ヤブサメ		3	3	1			7	1.75	0.86	0.09	1.2	4.5	B		
エナガ	19	4			5	5	23	5.75	2.82	0.29	4.1	14.6	A	10	5.00
メジロ	3	2	5	6	2		16	4.00	1.96	0.20	2.8	10.2		2	1.00
ゴジュウカラ			1				1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.6			
シロハラ						1								1	0.50
25 ツグミ					11	1								12	6.00
ルリビタキ					1	1								2	1.00
ジョウビタキ					3	5								8	4.00
コサメビタキ	1		1				2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.3			
キビタキ	2	3	3	5			13	3.25	1.59	0.16	2.3	8.3	B		
30 オオルリ			1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.3			
キセキレイ					1									1	0.50
カワラヒワ	1		3		5	2	4	1.00	0.49	0.05	0.7	2.5	B	7	3.50
ベニマシコ					2									2	1.00
シメ						2								2	1.00
35 ホオジロ	13	15	11	5	8	8	44	11.00	5.39	0.55	7.8	28.0	B	16	8.00
カシラダカ					17	4								21	10.50
アオジ					2									2	1.00
コジュケイ	2	1	1				4	1.00	0.49	0.05	0.7	2.5			
ガビチョウ	4	8	9	4	2	2	25	6.25	3.06	0.31	4.4	15.9		4	2.00
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	176	116	142	130	143	97	564	141.00	69.06	7.05		240	120.00
		種 数	20	19	21	19	19	19	28					23	
		全 種 数	21	19	22	21	20	19	28					23	

市町村名	藤岡市 (旧藤岡市)	地形図名	上野吉井b	調 査 者	葛 生 淳一
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	210 ~ 265 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	県道175号、鮎川の溪谷に沿ったコースである。地域の主要道であり、全線舗装されている。ルート上には人家、農耕地が点在する。コース周辺は針葉樹の植林地が多いが、広葉樹林も散見される。鮎川は水量が豊富である。人家周辺の植栽植物（カキ、ツルウメモドキ、ナンテン等）が多く、冬期の食餌植物として利用されている。 今回の調査では、営巢中のツバメ、イワツバメ、キセキレイ、セグロセキレイの4種が記録され、繁殖が確認された。また、個体数が少ないサンコウチョウが6ヵ所で記録された。増加傾向にあるように思われる。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
◎	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野吉井b

調査者

葛生 淳一

調 査 年 月 日		R4. 6. 1	R4. 6. 1	R4. 7. 1	R4. 7. 1	R4. 12. 2	R4. 12. 2	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 50 6 : 40 (110分)	6 : 50 8 : 40 (110分)	4 : 55 6 : 40 (105分)	6 : 50 8 : 40 (110分)	7 : 55 9 : 40 (105分)	9 : 50 11 : 40 (110分)	合 計	平 均 (109分)	密 度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (108分)
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	キジ	1	1					2	0.50	0.28	0.03	0.4	2.0			
	キジバト	1	1	4	2			8	2.00	1.10	0.10	1.4	8.0			
	カワウ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.2	1.0			
	アオサギ	3	1	2	1	1		7	1.75	0.97	0.09	1.3	7.0		1	0.50
	ホトトギス	1		4				5	1.25	0.69	0.06	0.9	5.0	B		
10	トビ	1	3	2	1	1	1	7	1.75	0.97	0.09	1.3	7.0		2	1.00
	ハイタカ						1								1	0.50
	ノスリ						1								1	0.50
	コゲラ	3	2	1	2	2		8	2.00	1.10	0.10	1.4	8.0		2	1.00
	アオゲラ	2			1			3	0.75	0.41	0.04	0.5	3.0			
15	サンコウチョウ	2	6	3	1			12	3.00	1.66	0.15	2.1	12.0	B		
	カケス						1								1	0.50
	ハシボソガラス	5	1	2		1	2	8	2.00	1.10	0.10	1.4	8.0		3	1.50
	ハシブトガラス	3	3	8	8	1		22	5.50	3.03	0.28	3.9	22.0		1	0.50
	ヤマガラ			1			3	1	0.25	0.14	0.01	0.2	1.0		3	1.50
20	シジュウカラ	7		2	1	6		10	2.50	1.38	0.13	1.8	10.0	B	6	3.00
	ツバメ	12	15	22	37			86	21.50	11.86	1.08	15.4	86.0	A		
	イワツバメ	6	5	9	11			31	7.75	4.28	0.39	5.5	31.0	A		
	ヒヨドリ	25	20	33	22	26	23	100	25.00	13.79	1.25	17.9	100.0	B	49	24.50
	ウグイス	7	8	6	7	3	2	28	7.00	3.86	0.35	5.0	28.0	B	5	2.50
25	ヤブサメ		1					1	0.25	0.14	0.01	0.2	1.0			
	エナガ	8				3		8	2.00	1.10	0.10	1.4	8.0		3	1.50
	メジロ	4	2		9	3	10	15	3.75	2.07	0.19	2.7	15.0	B	13	6.50
	カワガラス					2	2								4	2.00
	ジョウビタキ						1								1	0.50
30	キビタキ	4	3		2			9	2.25	1.24	0.11	1.6	9.0	B		
	オオルリ		1		1			2	0.50	0.28	0.03	0.4	2.0	B		
	スズメ	12	5	28	13	2		58	14.50	8.00	0.73	10.4	58.0	B	2	1.00
	キセキレイ	5	7	13	9	3	2	34	8.50	4.69	0.43	6.1	34.0	A	5	2.50
	ハクセキレイ	3						3	0.75	0.41	0.04	0.5	3.0			
35	セグロセキレイ	2	3	3	1	1	2	9	2.25	1.24	0.11	1.6	9.0	A	3	1.50
	カワラヒワ	12	3	3	5	2	1	23	5.75	3.17	0.29	4.1	23.0		3	1.50
	ベニマシコ						1								1	0.50
	イカル			2	2			4	1.00	0.55	0.05	0.7	4.0			
	ホオジロ	8	13	10	5	5	2	36	9.00	4.97	0.45	6.4	36.0	B	7	3.50
40	カシラダカ					4	2								6	3.00
	アオジ					2	3								5	2.50
	コジュケイ	1	1	1	2			5	1.25	0.69	0.06	0.9	5.0	B		
	ガビチョウ	4	2	6	1			13	3.25	1.79	0.16	2.3	13.0	B		
45																
50																
計	範囲内	個体数	142	107	166	144	68	60	559	139.75	77.10	6.99			128	64.00
		種 数	26	23	23	23	18	18	31						24	
		全 種 数	26	23	23	23	18	18	31						24	

調 査 地 の 概 況

市町村名	藤岡市（旧藤岡市）	地形図名	神ヶ原a	調 査 者	五十嵐 寛
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	756 ～ 1065 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは鮎川上流沿いの林道である。コースの東側半分の約2kmは舗装道路で、更に上流部への未舗装林道が約2kmである。最上流部の送電線手前から林道が新設されているが、ゲートで閉ざされている。コース沿いはほぼスギとヒノキの植林地である。未舗装の林道は雨水の流れで荒れており、歩行するだけで疲労度が大きい。コース西端手前約200m地点で北斜面が崩落しており、林道が塞がっていたため、落石を乗り越えて調査を実施した。鮎川は水量が豊富で水場には困らない。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。急峻な沢地形のため、視界が効く上空の範囲が狭く、飛翔する鳥類は観察しづらい。繁殖期1日目は前日の雨による増水で水音が、2日目はハルゼミがうるさかった。調査コース東端の分岐点には駐車できないが、少し手前に道路の膨らみがある。

五十嵐 寛

-19-

藤岡市（旧鬼石町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

藤岡市（旧鬼石町）に含まれる調査地は下表の1メッシュである。標高からは低山帯に属する。神流湖から峠を越えて三波川までのコースであり、三波川沿い以外はスギ・ヒノキの植林地となっている。周辺の環境に大きな変化はなく、調査は前回と同じコースで実施した。

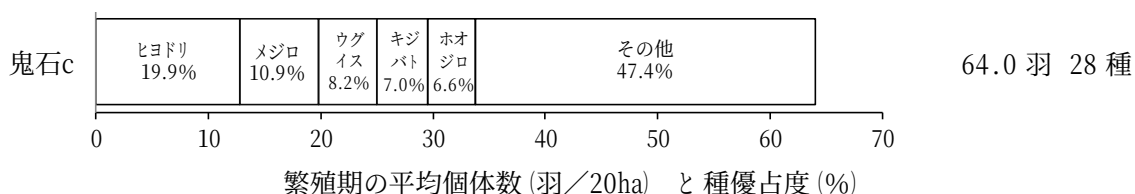
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
鬼石c	220 ～ 470	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、藤岡市（旧鬼石町）全体で繁殖期に28種、越冬期に25種、年間では38種が記録された。なお、前々回（平成24年度実施）は年間47種、前回（平成29年度実施）は年間31種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。植林地を中心とした環境のため、そういった環境に多いヒヨドリやホオジロなどが優占した。全体的に、個体数・種数とも、近隣の調査メッシュと比較して平均的な値であった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県RDB）掲載種のアオバト、コサメビタキが記録された。このうちアオバトは毎回記録され、周辺での繁殖が考えられた（繁殖可能性Bランク）。一方、特定外来生物に指定されているガビチョウも複数個体が記録された。県内にガビチョウ類が定着して久しいが、現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていない。ただし、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。また、人里の普通種であるスズメが、前々回（10年前）の調査から記録されなくなり、今回の調査でも記録されなかった。スズメの減少は過疎化との関係が指摘されているが、スズメと同様に人家周辺で繁殖するツバメが継続して記録されているため、スズメが記録されなくなった原因は不明である。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。繁殖期と同様に、植林地などに多いメジロやシジュウカラ、ヒヨドリなどが優占した。また、県RDBで準絶滅危惧種に指定されているカシラダカが記録された。カシラダカはIUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで絶滅危惧II類に指定され、世界的に個体数の減少が指摘されている種である。県内では、かつては各地で多数が記録されていたが、近年、個体数が著しく減少している。一方、特定外来生

物のガビチョウが越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位5種*）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
鬼石c	メジロ	シジュウカラ	ヒヨドリ	エナガ	ヤマガラ	57.0	25

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

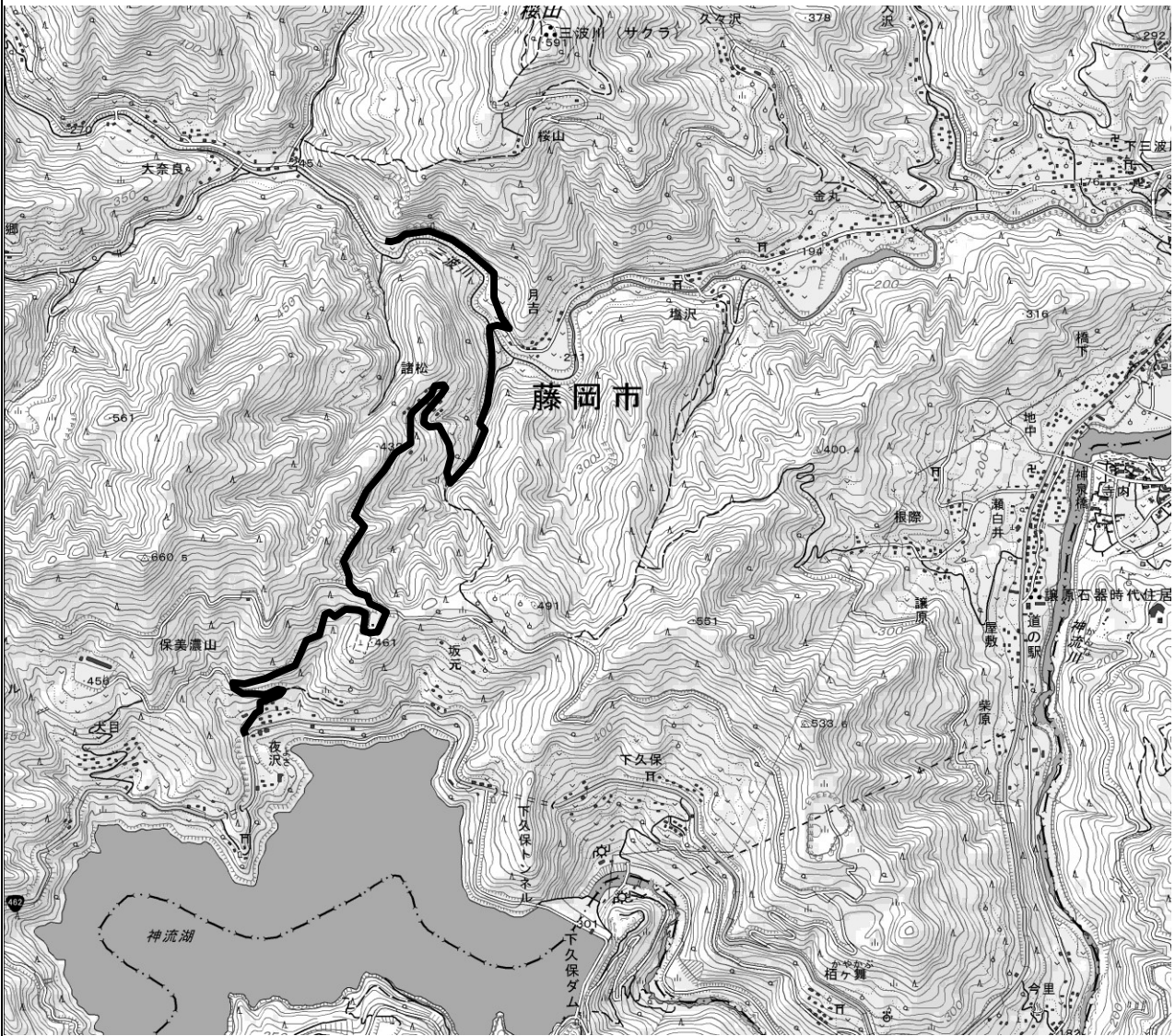
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期、越冬期ともに種数に大きな変化はないが、個体数が減少傾向にあるように見える。繁殖期はシジュウカラとヒヨドリ、メジロ、ホオジロが、越冬期はホオジロがやや減少したことが一因であるが、これらの種が減少した原因は不明である。藤岡町（旧鬼石町）は調査メッシュが1つしか含まれていないため調査回数が少なく、調査地の環境に大きな変化も見られないため、これらの減少傾向が直ちに鳥類の生息環境の悪化を示すものとは言えない。前述のように、前回の調査に引き続き、今回の調査でもスズメが年間を通じて記録されなかった。本種は人家周辺で繁殖するが、人口減少や家屋の変化から繁殖環境が悪化し、全国的に減少している。当調査地に限らず、県内全域での今後の動向に注目したい。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ノスリ、カワセミ、トラツグミ、ツグミ、コサメビタキ、アトリの6種であった。一方、過去2回とも記録があるのに今回記録されなかったのはコガラ1種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
鬼石c	34	27	28	128.5	96.0	64.0	27	21	25	94.0	72.0	57.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	藤岡市（旧鬼石町）	地形図名	鬼石c	調 査 者	飯塚 浩
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	220 ～ 470 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○	広葉樹林（自然林・雑木林）
—	針葉樹林（自然林）
◎	植林地（人工林）
—	草地・草原・ヨシ原
○	農耕地（田・畑・果樹園）
○	里山・疎らな民家
—	市街地・工業団地
○	河川湖沼・河川敷

神流湖から峠を越えて三波川までのコースである。三波川沿い以外はスギ、ヒノキの植林地である。沢は冬でも涸れることはない。コースの南端と中ほどに集落があり、周辺にわずかな畑がある。
今回の調査では、巣立ち雛が観察されたことによりツバメの繁殖が確認された。一方、前回も今回の調査でもスズメが記録されなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	鬼石c	調査者	飯塚 浩
------	-----	-----	------

調 査 年 月 日			R4. 6. 4	R4. 6. 4	R4. 7. 24	R4. 7. 24	R4. 12. 18	R4. 12. 18	繁殖期								越冬期	
			5 : 50 ㄱ 7 : 40 (110分)	8 : 00 ㄱ 10 : 00 (120分)	5 : 40 ㄱ 7 : 30 (110分)	7 : 50 ㄱ 9 : 50 (120分)	6 : 30 ㄱ 8 : 40 (130分)	8 : 55 ㄱ 10 : 50 (115分)	合計	平均 (115分)	密度		種優 占度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合計	平均 (123分)	
天 候	曇	曇	曇	曇	晴	晴	㉑㉒㉓㉔	㉕ / 4	1h当り	1ha当り	㉖㉗㉘㉙	㉚ / 2						
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	㉑	㉕										
	①	②	③	④	⑤	⑥	㉑						㉖					
キジバト	2	7	5	4	1		18	4.50	2.35	0.23	7.0	35.3		1	0.50			
アオバト	1	1	3	1			6	1.50	0.78	0.08	2.3	11.8	B					
ホトトギス			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0						
トビ					○									○				
5 ノスリ		1			1		1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0		1	0.50			
カワセミ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0						
コゲラ			3	1	3		4	1.00	0.52	0.05	1.6	7.8		3	1.50			
アカゲラ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0						
アオゲラ	2						2	0.50	0.26	0.03	0.8	3.9						
10 モズ					1									1	0.50			
カケス				4	1		4	1.00	0.52	0.05	1.6	7.8		1	0.50			
ハシボソガラス	2	1	○	3		1	6	1.50	0.78	0.08	2.3	11.8		1	0.50			
ヤマガラ	5	4	4	3	5	4	16	4.00	2.09	0.20	6.3	31.4	B	9	4.50			
ヒガラ	3		2		1	5	5	1.25	0.65	0.06	2.0	9.8		6	3.00			
15 シジュウカラ	5	1	5	1	8	6	12	3.00	1.57	0.15	4.7	23.5	B	14	7.00			
ツバメ	3	2	○	10			15	3.75	1.96	0.19	5.9	29.4	A					
ヒヨドリ	12	11	14	14	9	3	51	12.75	6.65	0.64	19.9	100.0	B	12	6.00			
ウグイス	4	3	9	5	2		21	5.25	2.74	0.26	8.2	41.2	B	2	1.00			
ヤブサメ	1	1					2	0.50	0.26	0.03	0.8	3.9						
20 エナガ					6	5								11	5.50			
メジロ	4	7	9	8	10	5	28	7.00	3.65	0.35	10.9	54.9	B	15	7.50			
ミソサザイ					5									5	2.50			
トラツグミ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0						
クロツグミ			3				3	0.75	0.39	0.04	1.2	5.9						
25 ツグミ					1									1	0.50			
ルリビタキ					1	1								2	1.00			
ジョウビタキ					1	3								4	2.00			
コサメビタキ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.0						
キビタキ	7	4					11	2.75	1.43	0.14	4.3	21.6						
30 オオルリ	1	1					2	0.50	0.26	0.03	0.8	3.9						
キセキレイ	1	1			1	1	2	0.50	0.26	0.03	0.8	3.9		2	1.00			
アトリ					○									○				
カワラヒワ	4	7	4		9		15	3.75	1.96	0.19	5.9	29.4		9	4.50			
イカル				○			○											
35 ホオジロ	8	5	4		2	2	17	4.25	2.22	0.21	6.6	33.3	B	4	2.00			
カシラダカ					4	2								6	3.00			
アオジ					2									2	1.00			
ガビチョウ	1	2	7		2		10	2.50	1.30	0.13	3.9	19.6	B	2	1.00			
40																		
45																		
50																		
計	範囲内	個体数	66	60	75	55	76	38	256	64.00	33.39	3.20				114	57.00	
		種 数	18	18	16	12	22	12	27							23		
		全 種 数	18	18	18	13	24	12	28							25		

高崎市（旧吉井町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

高崎市（旧吉井町）に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。どちらも平地から低山帯に属する。ゴルフ場に隣接する丘陵地で、調査コース周辺は雑木林や植林地を主体とした里山的環境である。周辺の環境に大きな変化はなく、2 メッシュとも前回と同じコースで調査を実施した。

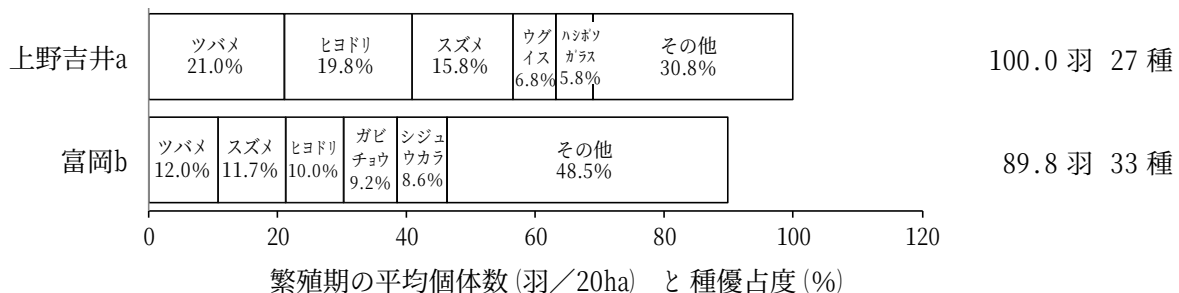
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
上野吉井a	140 ～ 250	◎	—	○	—	◎	○	—	○	前回と同じ
富岡b	120 ～ 200	◎	—	○	○	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、高崎市（旧吉井町）全体で繁殖期に 39 種、越冬期に 39 種、年間では 52 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 52 種、前回（平成 29 年度実施）は年間 44 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。雑木林と植林地を中心とした里山的環境のため、そういった場所に多いツバメやスズメ、ヒヨドリなどが優占した。近隣の調査メッシュと比較して、両メッシュとも種数は平均的であったが、個体数がやや多かった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種のサシバ、オナガ、ゴイサギが記録された。このうちサシバ（上野吉井 a）は環境省のレッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されており、良好な環境の指標として重要である。今回は 5 月下旬と 6 月中旬に記録されたことから通過個体ではない可能性が高いが、繁殖の有無については不明である。一方、特定外来生物に指定されているガビチョウが今回も両メッシュで記録された（繁殖可能性 B ランク）。県内にガビチョウ類が定着して久しいが、現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていない。ただし、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。調査コースの環境を反映して、繁殖期と同様にスズメやヒヨドリ、シジュウカラ、ハシボソガラスなどが優占した。また、県 RDB 掲載種

のコガモ、オナガ、カシラダカが記録された。3種とも普通種ではあるが、継続的な調査により、近年個体数が減少していることが判明したため、県 RDB に掲載された種である。特にカシラダカは世界的に減少が著しい種として、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで絶滅危惧 II 類に指定されている。一方、特定外来生物のガビチョウが越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位5種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
上野吉井a	ヒヨドリ	スズメ	メジロ	シジュウカラ	ハシボソガラス	64.5	18
富岡b	コガモ	ヒヨドリ	スズメ	メジロ	マガモ	229.5	35

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

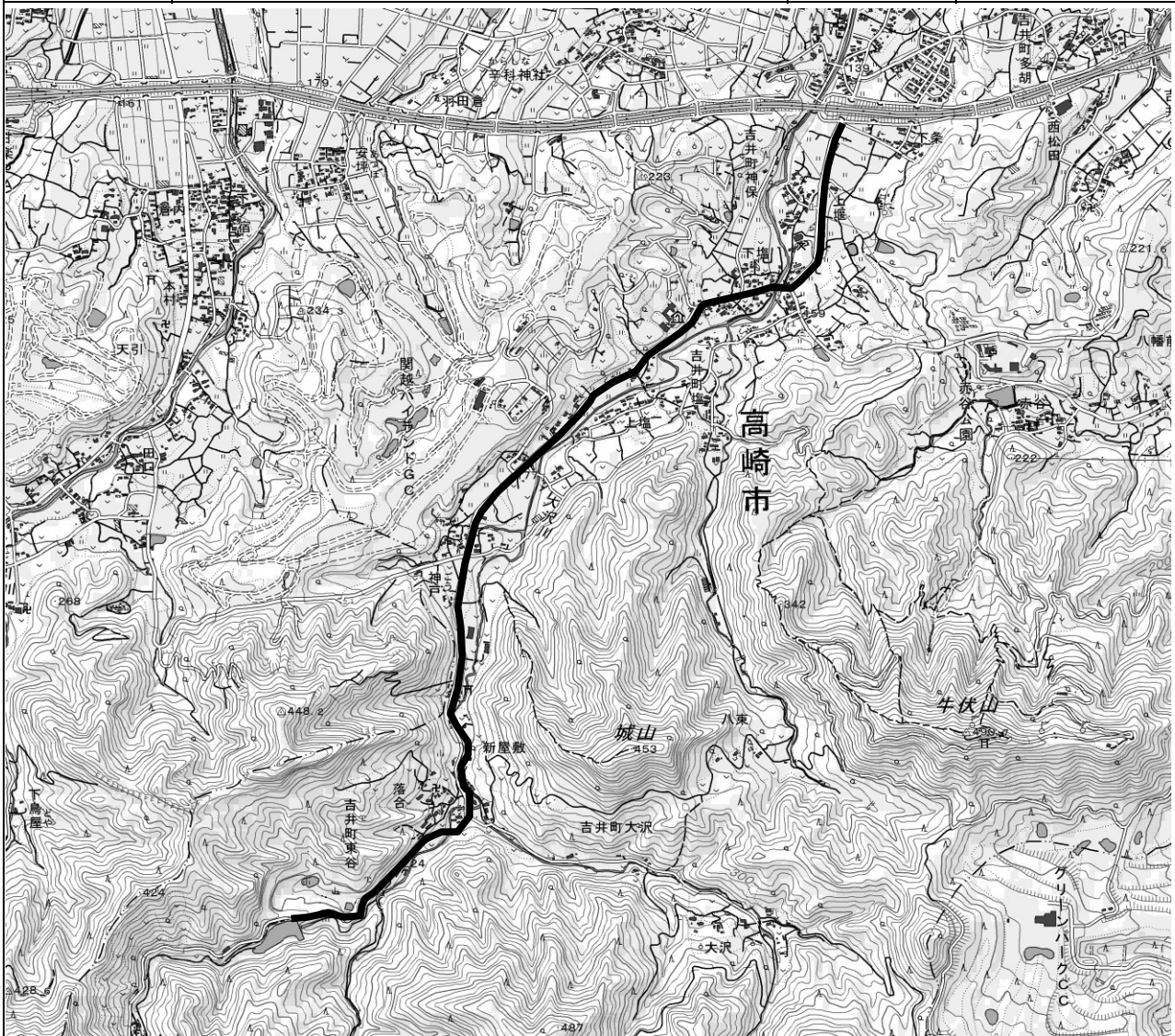
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。上野吉井 a では越冬期の個体数が減少傾向にある。スズメとカシラダカが減少したことが一因であるが、減少した原因は不明である。一方、富岡 b では越冬期の個体数が増加した。カモ類とヒヨドリが増加したことが原因である。カモ類は気象条件等による渡来数の変動が大きいいため、単純な増加とは判断できない。ヒヨドリが多かった原因は不明である。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、オカヨシガモ、マガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、ダイサギ、オオバン、サシバ、カワセミ、オオムシクイの 9 種であった。このうち、サシバは谷津田を含む里山を代表する猛禽類で、全国的に減少が著しい。今回記録された上野吉井 a では、9 次調査以来 20 年ぶりの記録となった。また、オオムシクイは過去の調査では記録がなく、今回が初めての記録であった。本種は北海道以北で繁殖するため、今回の記録は通過個体と考えられるが、4 羽も同時に記録されることは珍しい。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはオオタカ、サンコウチョウ、ヒガラ、シロハラ、オオルリの 5 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)			種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
上野吉井a	34	28	27	125.3	107.8	100.0	28	17	18	165.0	98.5	64.5
富岡b	25	24	33	90.3	40.8	89.8	36	33	35	124.5	101.5	229.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧吉井町）	地形図名	上野吉井a	調 査 者	高橋 悦男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	140 ～ 250 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

◎ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

上信越自動車道の下から東谷の砂防ダムまでの、長い緩斜面のコースである。コース周辺は農耕地が多いため見通しが良く、スズメやツバメ等飛翔する鳥がよく見える。谷筋ではホトトギスの声がよく響いていた。

今回の調査では、ツバメの巣立ち雛が記録され、繁殖が確認された。コース沿いの民家で繁殖しているものと考えられた。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

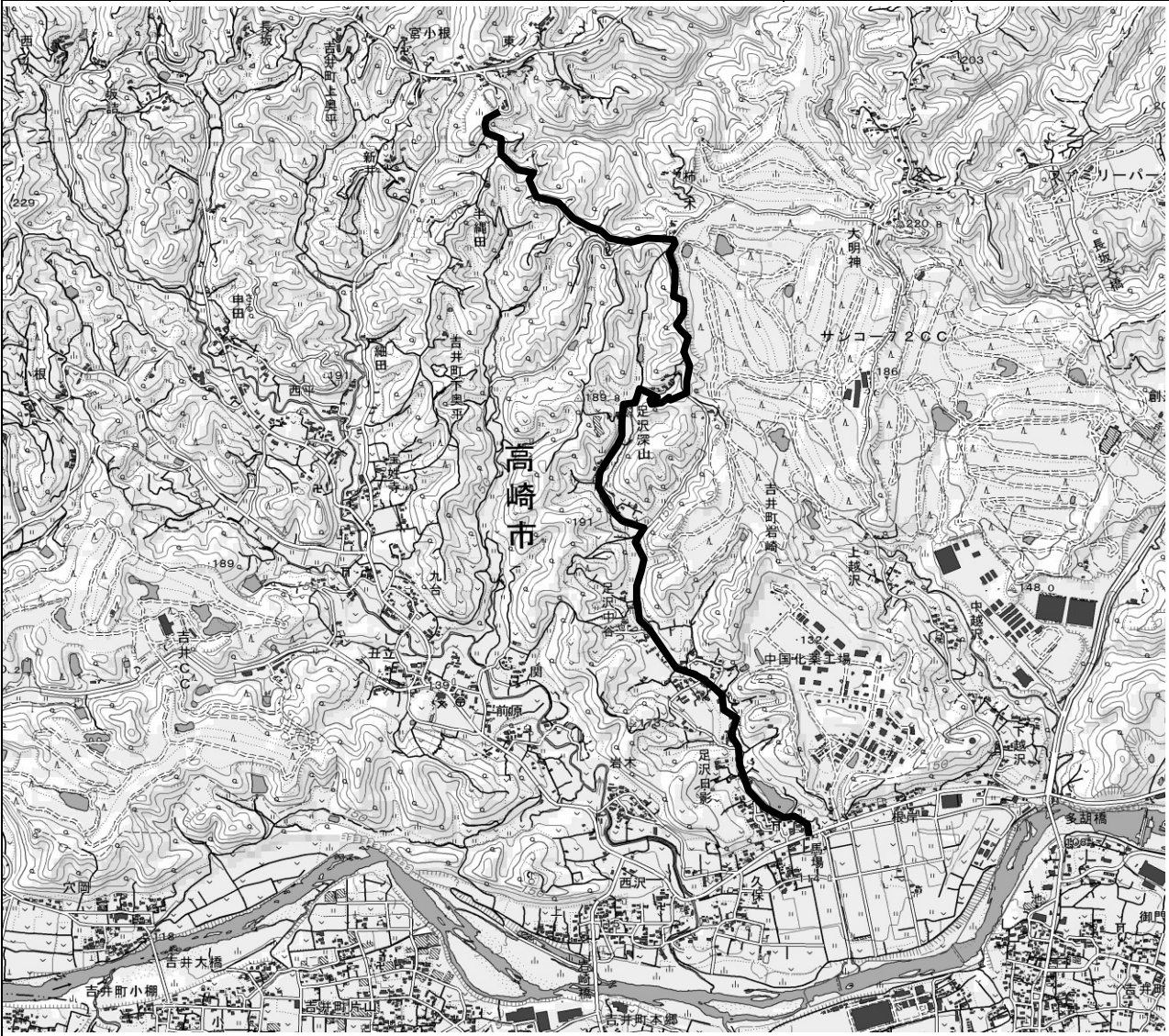
調査コースは前回と同じである。朝8時以降は、通勤またはゴルフ場へ向かう車両が急に増えて、調査エリアの鳥の確認数が減少したように感じる。道路が狭いので道路脇に出て車両の通過を待つことが増えた。安全に気を付けて調査を実施する必要がある。

高橋 悦男

-31-

調 査 地 の 概 況

市町村名	高崎市（旧吉井町）	地形図名	富岡b	調 査 者	浅川 千佳夫
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	120 ～ 200 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）
—	針葉樹林（自然林）
○	植林地（人工林）
○	草地・草原・ヨシ原
○	農耕地（田・畑・果樹園）
○	里山・疎らな民家
—	市街地・工業団地
○	河川湖沼・河川敷

コース南端の馬場から足沢深山までは、溜池、農業用水路、水田、畑、民家、耕作放棄地と思われる湿地などが沢谷いに点在する。そこから上奥平までは尾根を通るコースで、雑木林が主となるが、一部にヒノキの植林地が混在し、竹林や、周辺がやぶになっている場所もある。またコースの一部はゴルフ場に隣接している。コースの北端近くには民家や畑がわずかにある。
今回の調査では、営巢中のツバメとスズメが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

富岡b

調査者

浅川 千佳夫

調 査 年 月 日		R4. 5. 28	R4. 5. 28	R4. 6. 10	R4. 6. 10	R4. 12. 10	R4. 12. 10	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		5 : 30 〆 7 : 00 (90分)	7 : 05 〆 8 : 50 (105分)	5 : 25 〆 7 : 10 (105分)	7 : 15 〆 9 : 00 (105分)	7 : 10 〆 9 : 00 (110分)	9 : 00 〆 11 : 00 (120分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥									
5	キジ			○				○								
	オカヨシガモ					3	3								6	3.00
	マガモ					12	2								14	7.00
	カルガモ	4	1	8		10	2	13	3.25	1.93	0.16	3.6	30.2		12	6.00
	ハシビロガモ					6	4								10	5.00
10	オナガガモ					5	5								10	5.00
	コガモ					64	66								130	65.00
	キジバト	6	4	13	2	10	2	25	6.25	3.70	0.31	7.0	58.1		12	6.00
	カワウ			○	1	5	5	1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3		10	5.00
	ゴイサギ			○				○								
15	アオサギ			4	○	1	1	4	1.00	0.59	0.05	1.1	9.3		2	1.00
	ダイサギ		1			1	1	1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3		2	1.00
	オオバン						1								1	0.50
	ホトトギス	○	○	1	2			3	0.75	0.44	0.04	0.8	7.0	B		
	トビ		○				2	○							2	1.00
20	ノスリ	1					○	1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3		○	
	カワセミ				1			1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3			
	コゲラ			1	1		1	2	0.50	0.30	0.03	0.6	4.7		1	0.50
	アカゲラ			○				○								
	アオゲラ	1						1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3			
25	モズ						1								1	0.50
	カケス					8									8	4.00
	オナガ					5	6								11	5.50
	ハシボソガラス	4	2	1	2	2	1	9	2.25	1.33	0.11	2.5	20.9		3	1.50
	ハシブトガラス	3	1	1	1	5	○	6	1.50	0.89	0.08	1.7	14.0		5	2.50
30	ヤマガラ	8	1		9	9	4	18	4.50	2.67	0.23	5.0	41.9	B	13	6.50
	シジュウカラ	11	4	8	8	1	3	31	7.75	4.59	0.39	8.6	72.1	B	4	2.00
	ツバメ	7	10	11	15			43	10.75	6.37	0.54	12.0	100.0	A		
	ヒヨドリ	6	10	11	9	43	34	36	9.00	5.33	0.45	10.0	83.7		77	38.50
	ウグイス	2	5	6	4	5	7	17	4.25	2.52	0.21	4.7	39.5	B	12	6.00
35	エナガ				5			5	1.25	0.74	0.06	1.4	11.6			
	オオムシクイ	4	2					6	1.50	0.89	0.08	1.7	14.0			
	メジロ	2	6	9	1	19	17	18	4.50	2.67	0.23	5.0	41.9	B	36	18.00
	ツグミ					○									○	
	ジョウビタキ					2	4								6	3.00
40	キビタキ	4	2	1	3			10	2.50	1.48	0.13	2.8	23.3	B		
	スズメ	8	7	8	19	40	3	42	10.50	6.22	0.53	11.7	97.7	A	43	21.50
	キセキレイ	3	3	2	1	1	1	9	2.25	1.33	0.11	2.5	20.9		2	1.00
	ハクセキレイ				1			1	0.25	0.15	0.01	0.3	2.3			
	セグロセキレイ					2	2								4	2.00
45	カワラヒワ		2	4	○			6	1.50	0.89	0.08	1.7	14.0			
	ベニマシコ						1								1	0.50
	シメ					1	1								2	1.00
	イカル		2					2	0.50	0.30	0.03	0.6	4.7			
	ホオジロ	8	3	4		2	1	15	3.75	2.22	0.19	4.2	34.9	B	3	1.50
50	カシラダカ					1	12								13	6.50
	アオジ						1								1	0.50
	コジュケイ			○				○								
	ガビチョウ	8	4	13	8	2	○	33	8.25	4.89	0.41	9.2	76.7	B	2	1.00
計	範囲内	個体数	90	70	106	93	265	194	359	89.75	53.19	4.49			459	229.50
	種 数	種 数	18	19	18	19	27	30	28						33	
	全 種 数	全 種 数	19	21	23	21	28	33	33						35	

神流町（旧万場町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

神流町（旧万場町）に含まれる調査地は下表の4メッシュである。4メッシュとも低山帯から山地帯に属する。万場a・cは、御荷鉾山の尾根沿いと南斜面の林道が調査コースとなっており、雑木林や植林地を中心とした環境である。一方、万場dと神ヶ原bは集落や農耕地を含む沢筋の環境である。周辺の環境に大きな変化はなく、4メッシュとも前回と同じコースで実施した。

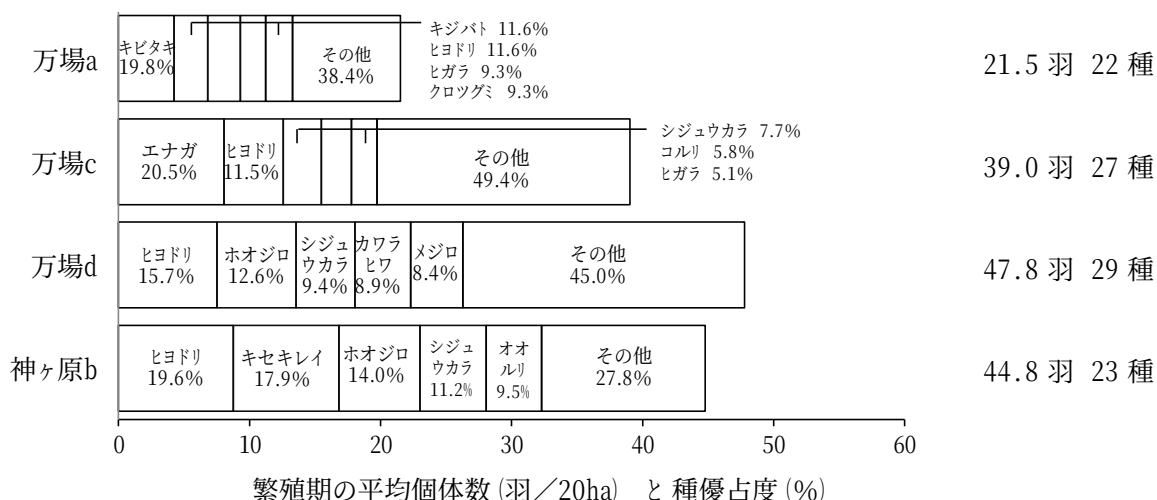
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
万場a	700 ～ 900	○	○	◎	—	—	—	—	—	前回と同じ
万場c	690 ～ 1100	◎	○	○	—	—	—	—	○	前回と同じ
万場d	370 ～ 560	○	○	◎	○	◎	○	—	○	前回と同じ
神ヶ原b	470 ～ 750	◎	—	○	—	—	○	—	◎	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、神流町（旧万場町）全体で繁殖期に41種、越冬期に34種、年間では51種が記録された。なお、前々回（平成24年度実施）は年間70種、前回（平成29年度実施）は年間59種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。4メッシュとも、植林地や雑木林などが主な環境要素であるため、ヒヨドリやカラ類と、林縁部に多いホオジロなどが優占した。沢沿いの環境を含む神ヶ原bはキセキレイも優占種となった。近隣の調査メッシュと比較して、万場aは種数と個体数が、神ヶ原bは種数がやや少なかった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県RDB）掲載種が、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、クマタカ、アカハラの5種記録された。このうちクマタカ（神ヶ原b）は環境省のレッドリストでも絶滅危惧ⅠB類に指定されている。生態系食物連鎖の最上位種である大型の猛禽類が生息することから、当地の環境が良好な状態に保たれていることが示唆された。



一方、特定外来生物に指定されているガビチョウが今回も 4 メッシュ全てで記録された。標高が高い万場 a・c ではまだ個体数が少ないが、当地域に広く定着しているものと思われる。現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていないが、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様、調査コースの環境を反映してシジュウカラなどのカラ類、ヒヨドリ、ホオジロ、メジロが優占した。県 RDB 掲載種は、カシラダカが記録された。カシラダカは IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで絶滅危惧 II 類に指定され、世界的に個体数の減少が指摘されている種である。県内では、かつては各地で多数が記録されていたが、近年、個体数が著しく減少している。また、本県では個体数があまり多くないミヤマホオジロが記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
万場a	エナガ	カワラヒワ	シジュウカラ	ルリビタキ	ヒヨドリ	43.0	17
万場c	ツグミ	シジュウカラ	エナガ	ヒガラ	カケス	22.0	11
万場d	カワラヒワ	ヒヨドリ	カシラダカ	エナガ	メジロ	78.0	24
神ヶ原b	シジュウカラ	ヒヨドリ	メジロ	ミソサザイ	ガビチョウ	42.0	20

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

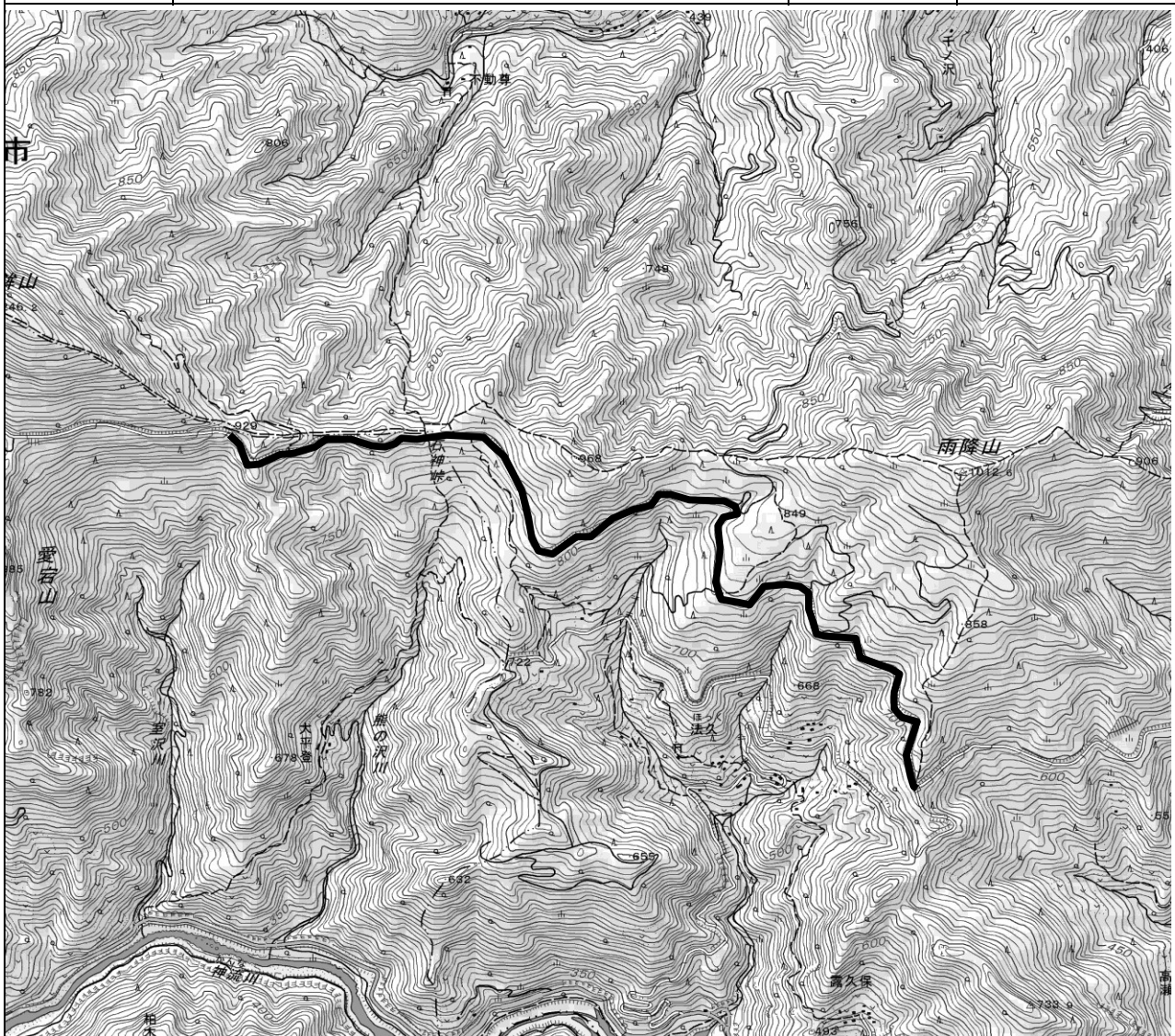
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期の万場 a・c で個体数が減少したが、著しく減少した種はなかった。越冬期の万場 c の個体数の減少はマヒワが記録されなかったことが主な原因である。マヒワは群れで行動するため、個体数の記録は変動しやすい。その他のメッシュでも、種数と個体数に変動はみられるが、全体として大きな変化はなかった。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、イワツバメ 1 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはヤマドリ、アオサギ、モズ、ハシボソガラス、キクイタダキ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、コジュケイの 9 種であった。このうちモズ、ハシボソガラス、キクイタダキ、ベニマシコの 4 種は、過去 8 回の調査で毎回記録されていた。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
万場a	28	30	22	46.3	88.3	21.5	18	18	17	50.0	72.5	43.0
万場c	35	33	27	100.0	47.0	39.0	29	14	11	147.0	40.5	22.0
万場d	36	34	29	86.5	120.0	47.8	33	26	24	116.0	152.0	78.0
神ヶ原b	27	30	23	60.3	48.8	44.8	29	24	20	96.0	56.0	42.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	神流町（旧万場町）	地形図名	万場a	調 査 者	山田 典彦
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝20ha			調査地の標高	700 ～ 900 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☒ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☐ 農耕地（田・畑・果樹園）☐ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

調査コースは雨降山から東御荷鉾山に至る尾根の南面の林道である。コースの両側はほとんどがスギとヒノキの植林地および雑木林である。尾根筋に近い場所を通る林道であるが、沢が多く、冬も涸れない水場がある。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

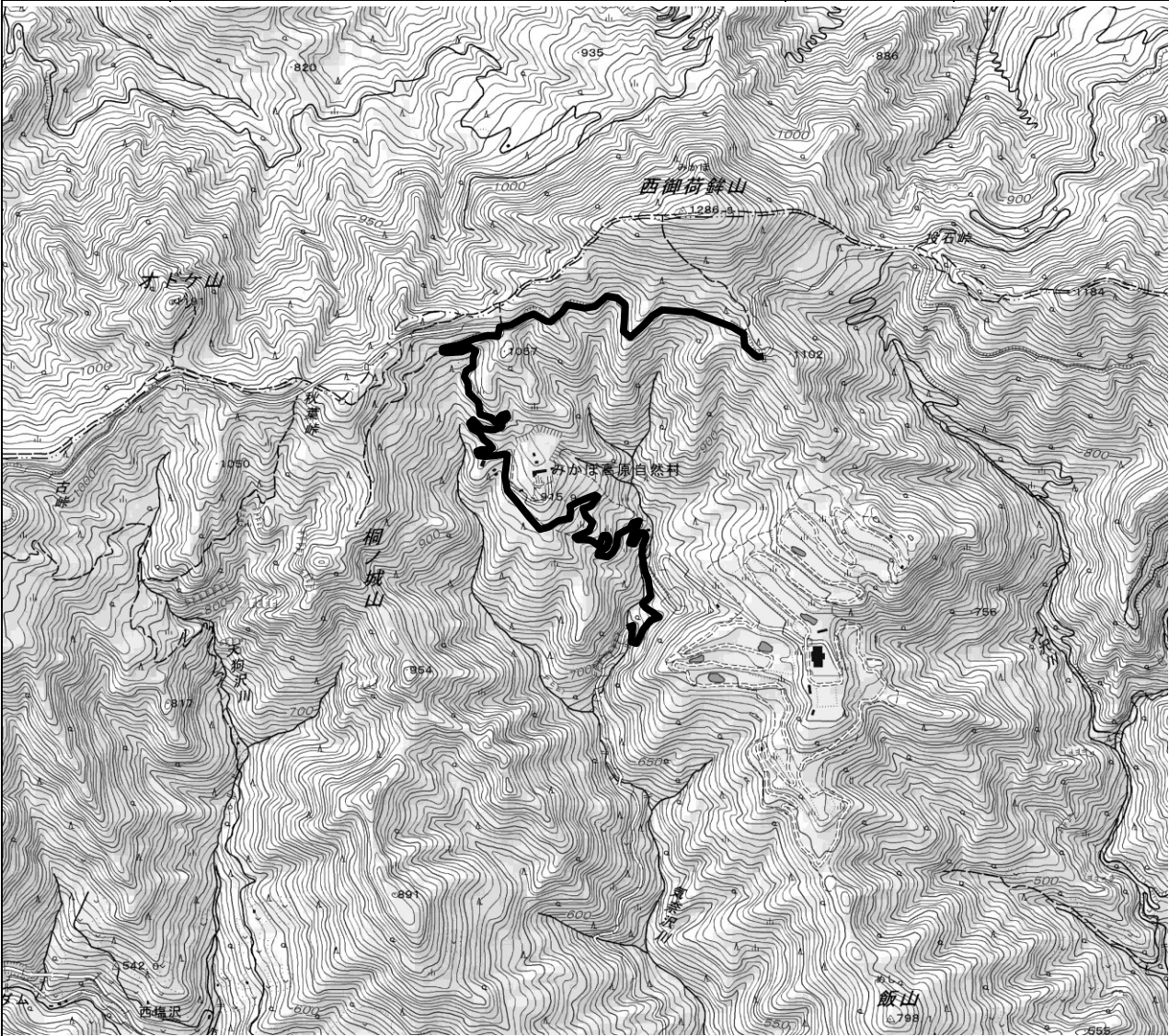
調査コースは前回と同じである。

地形図名	万場a	調査者	山田 典彦
------	-----	-----	-------

-39-

調 査 地 の 概 況

市町村名	神流町（旧万場町）	地形図名	万場c	調 査 者	善如寺 功
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	690 ～ 1100 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	西御荷鉾山の南面の林道を通るコースである。コース上には植林地と雑木林が混在し、ゴルフ場跡がある。みかぼ高原荘より上部は稜線に近いので、水場はない。越冬期に上空を通過する猛禽を1羽観察したが、種を確認できなかった。
○	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

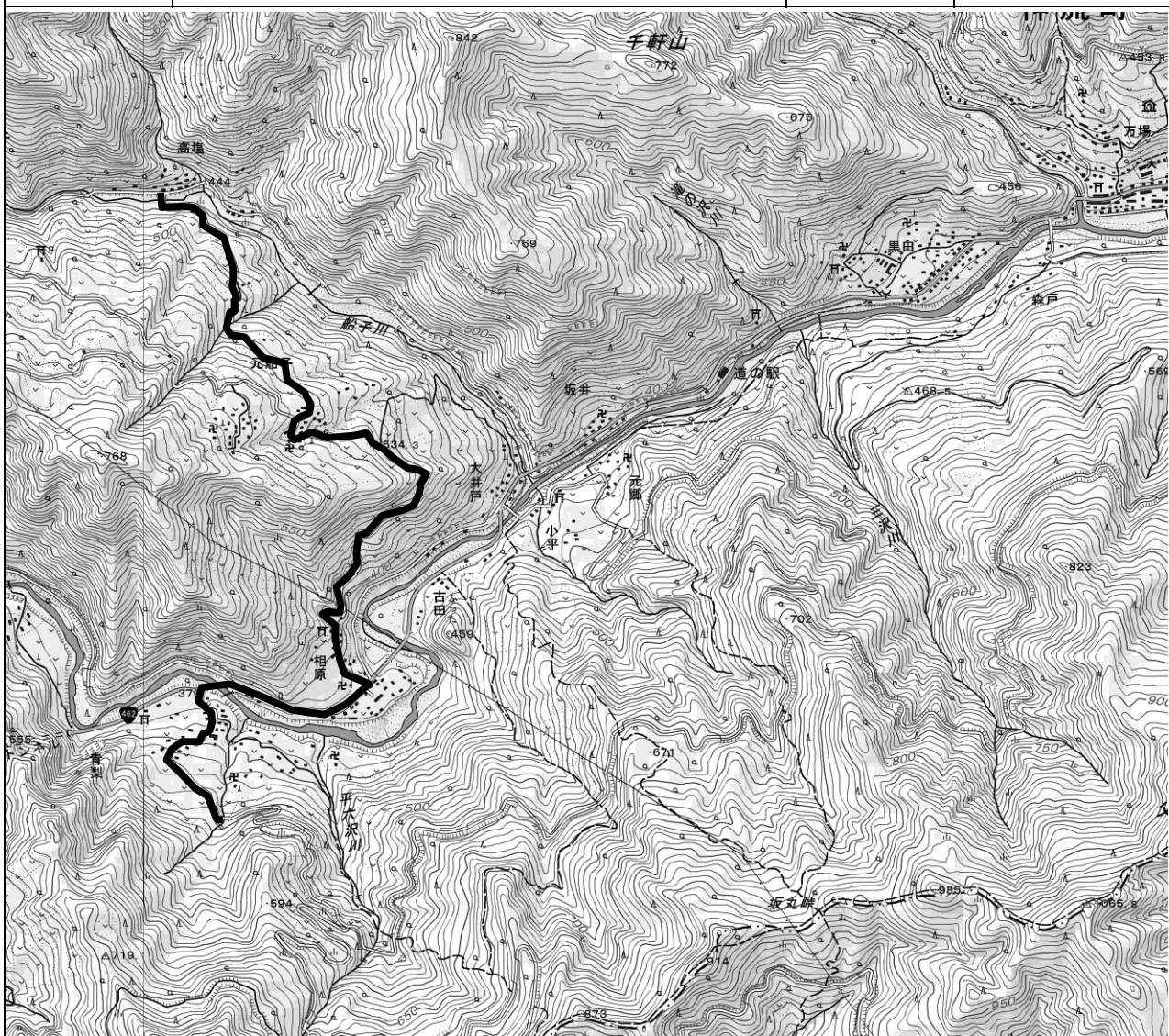
<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期には神流町役場方面からの道が工事で通行止めであったため、塩沢峠へ迂回して調査コースへ向かうことになった。越冬期には工事中であったが、通行止めは解除されていた。繁殖期・越冬期とも複数のニホンジカを観察した。

善如寺 功

-41-

市町村名	神流町(旧万場町)	地形図名	万場d	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	370 ~ 560 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは緩傾斜地にあり、集落、農耕地、杉の植林地等を通る。農耕地は畑であるが、休耕地が多い。コースにはいくつかの沢があり、野鳥の水場となっている。また、集落には大きなカキの木があり、冬季の食餌に利用されている。 今回の調査では、営巢中のヤマガラ、ツバメ、ホオジロが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	
☐ 針葉樹林（自然林）		
☒ 植林地（人工林）		
☐ 草地・草原・ヨシ原		
☒ 農耕地（田・畑・果樹園）		
☐ 里山・疎らな民家		
☐ 市街地・工業団地		
☐ 河川湖沼・河川敷		
<備考> 調査コースは前回と同じである。		

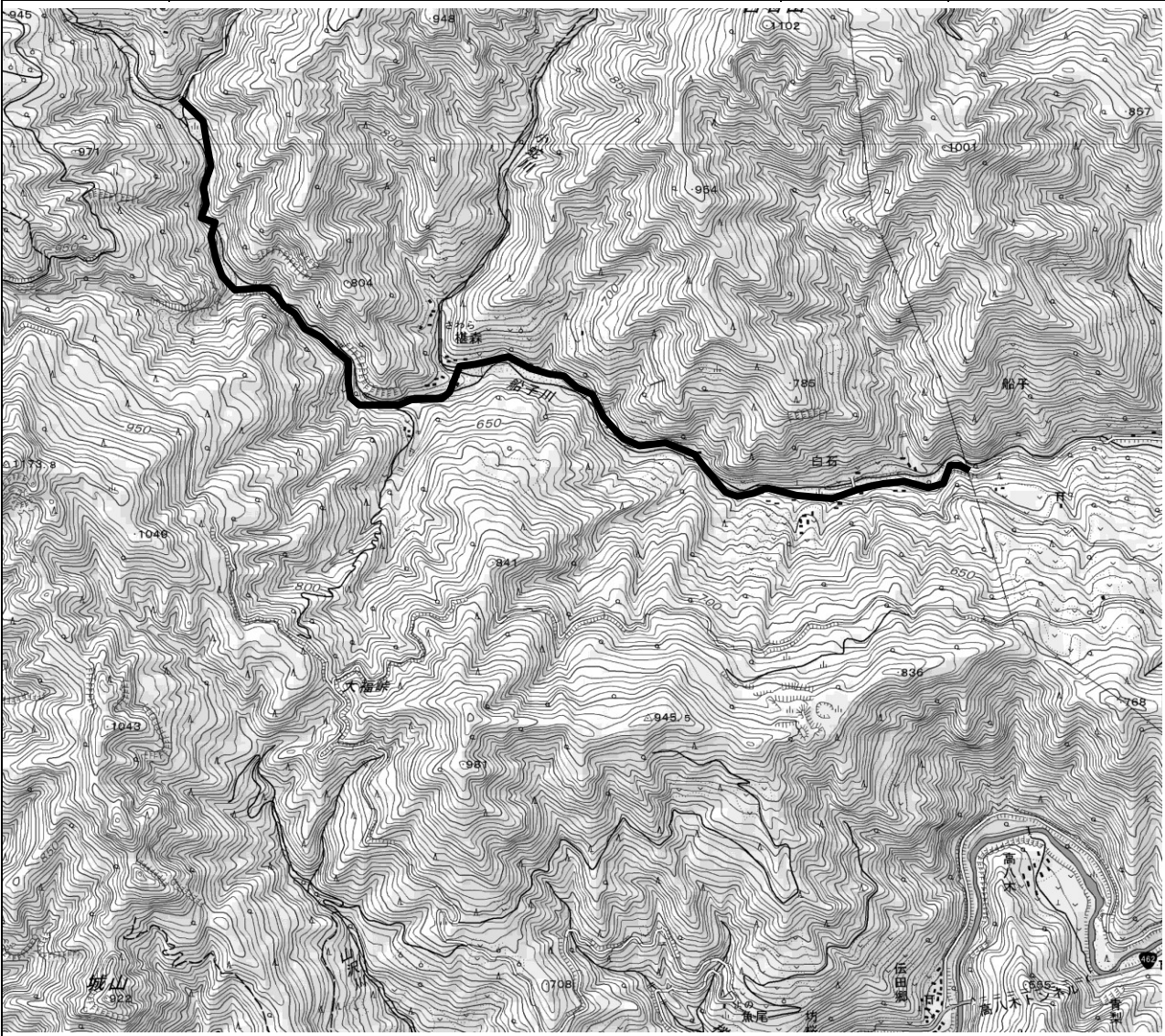
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	万場d	調査者	瀧川 二士男
------	-----	-----	--------

調 査 年 月 日	R4. 5. 28	R4. 5. 28	R4. 6. 24	R4. 6. 24	R4. 12. 24	R4. 12. 24	繁殖期							越冬期	
	5 : 40 ㄱ	7 : 30 ㄱ	5 : 30 ㄱ	7 : 30 ㄱ	8 : 45 ㄱ	10 : 25 ㄱ	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
	7 : 20 (100分)	9 : 10 (100分)	7 : 20 (110分)	9 : 15 (105分)	10 : 15 (90分)	12 : 00 (95分)									
	天 候	晴	晴	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	○	○	○			1	○						B	1	0.50
キジバト	1	○	○		3	3	1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.3	B	6	3.00
アオバト	○	○					○								
ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
5 ツツドリ	○						○								
トビ		○	○	○		○	○							○	
ノスリ				○			○								
コゲラ	○	○	2	2	1	1	4	1.00	0.58	0.05	2.1	13.3		2	1.00
アカゲラ						1								1	0.50
10 カケス	○		1		○		1	0.25	0.14	0.01	0.5	3.3		○	
ハシブトガラス	1	1	○	○	○	○	2	0.50	0.29	0.03	1.0	6.7		○	
ヤマガラ		1	1	1	2	2	3	0.75	0.43	0.04	1.6	10.0	A	4	2.00
ヒガラ	○						○								
シジュウカラ	2	3	7	6	8	1	18	4.50	2.60	0.23	9.4	60.0	B	9	4.50
15 ツバメ	3	2	3	7			15	3.75	2.17	0.19	7.9	50.0	A		
イワツバメ	1	1	3	2			7	1.75	1.01	0.09	3.7	23.3			
ヒヨドリ	6	12	6	6	11	14	30	7.50	4.34	0.38	15.7	100.0		25	12.50
ウグイス	3	4	3	1	1	1	11	2.75	1.59	0.14	5.8	36.7	B	2	1.00
ヤブサメ		1	1				2	0.50	0.29	0.03	1.0	6.7	B		
20 エナガ					15	5								20	10.00
メジロ	4	6	4	2	8	3	16	4.00	2.31	0.20	8.4	53.3	B	11	5.50
クロツグミ	○	○	○				○						B		
ツグミ						3								3	1.50
ルリビタキ						○								○	
25 ジョウビタキ					3	2								5	2.50
キビタキ	3	1	2	7			13	3.25	1.88	0.16	6.8	43.3	B		
オオルリ			○				○								
スズメ	2		3	3			8	2.00	1.16	0.10	4.2	26.7	B		
キセキレイ	2	3	4	2	2	1	11	2.75	1.59	0.14	5.8	36.7		3	1.50
30 セグロセキレイ	1			1	1		2	0.50	0.29	0.03	1.0	6.7		1	0.50
カワラヒワ	1	3	6	7	27		17	4.25	2.46	0.21	8.9	56.7		27	13.50
シメ					1									1	0.50
イカル	3	○	○	○	○		3	0.75	0.43	0.04	1.6	10.0	B	○	
ホオジロ	5	7	5	7	4	3	24	6.00	3.47	0.30	12.6	80.0	A	7	3.50
35 カシラダカ					9	16								25	12.50
アオジ					3									3	1.50
ガビチョウ	2	1		○			3	0.75	0.43	0.04	1.6	10.0	B		
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	40	46	51	54	99	57	191	47.75	27.61	2.39		156	78.00
		種 数	16	14	15	14	16	15	20					19	
		全 種 数	24	22	23	20	19	18	29					24	

調 査 地 の 概 況

市町村名	神流町（旧万場町）	地形図名	神ヶ原b	調 査 者	関口 裕
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	470 ～ 750 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）			調査コース 
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは、神流町高塩の送電線の下を起点としてキャンプ施設「ようらく」の北の三吉橋までである。コースは一般県道で全区間アスファルト舗装されている。コースに沿って一級河川船子川が流れ、植生はスギの植林地と広葉樹林からなる混合林であるが、単調である。船子川の水量は1年を通して豊富に流れ、周囲から湧き水の流入も多い。餌となる植物は人家周辺にカキやナンテンの実などが見られるが、樹林帯には実のなる木はあまり見られない。前回より空き家がさらに多くなり、スズメ、ツバメは観察できなかった。また冬鳥は、カキや水場に集まるものを確認したが、全体にかなり少なかった。 今回の調査では、営巣中のホオジロが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。	
—	針葉樹林（自然林）		
○	植林地（人工林）		
—	草地・草原・ヨシ原		
—	農耕地（田・畑・果樹園）		
○	里山・疎らな民家		
—	市街地・工業団地		
◎	河川湖沼・河川敷		
<備考> 調査コースは前回と同じである。			

閨口 裕

-45-

神流町（旧中里村）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

神流町（旧中里村）に含まれる調査地は下表の 2 メッシュである。標高からは低山帯から山地帯下部に属する。両メッシュとも沢沿いの調査コースであり、一部に集落があるが、雑木林や植林地を中心とした環境である。周辺の環境に大きな変化はなく、両メッシュとも前回と同じコースで調査を実施した。

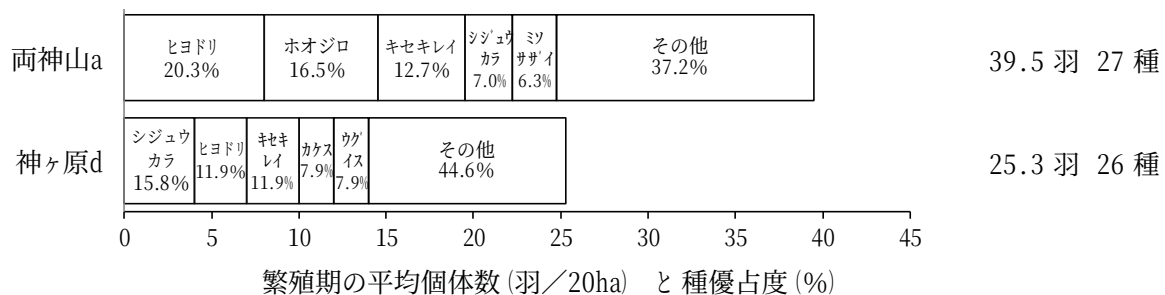
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広 葉 樹 林	針 葉 樹 林	植 林 地	草 地 草 原	農 耕 地	里 山 集 落	市 街 地	河 川 湖 沼	
両神山a	490 ～ 800	○	—	◎	—	—	○	—	◎	前回と同じ
神ヶ原d	460 ～ 750	◎	—	◎	—	—	○	—	◎	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、神流町（旧中里村）全体で繁殖期に 31 種、越冬期に 23 種、年間では 37 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 36 種、前回（平成 29 年度実施）は年間 41 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。沢沿いの雑木林と植林地を中心とした環境のため、そういった環境に多いヒヨドリやホオジロ、シジュウカラ、キセキレイなどが優占した。近隣の調査メッシュと比較して、両メッシュとも個体数がやや少なかった。その原因は不明であるが、両側が急峻な谷底の沢沿いの調査コースであるため、見通し距離が短いことや沢音などが調査の支障となり、鳥類の発見率が多少低下した可能性もある。特筆すべき種としては、群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種のアオバト、ジュウイチ、アカシヨウビンが記録され、特定外来生物に指定されているガビチョウも記録された。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は次表のとおりであった。繁殖期と同様、植林地などに多いヒヨドリやエナガ、シジュウカラなどのカラ類、林縁部に多いホオジロ、沢沿いに多いミソサザイが優占した。県 RDB 掲載種は、クマタカとカシラダカが記録された。このうち、大型の猛禽類であるクマタカは生態系における食物連鎖の最上位種であることから、良好な環境の指標として重要である。また、カシラダカは IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで絶滅危惧 II 類に指定され、世界的に個体数の減少が指摘されている種である。県内では、かつて

は各地で多数が記録されていたが、近年、個体数が著しく減少している。

調査メッシュ	優占種（上位5種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
両神山a	エナガ	ホオジロ	シジュウカラ	ヒヨドリ	ミソサザイ	27.5	17
神ヶ原d	ヒヨドリ	エナガ	ホオジロ	ヒガラ	ミソサザイ	27.5	18

＊同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

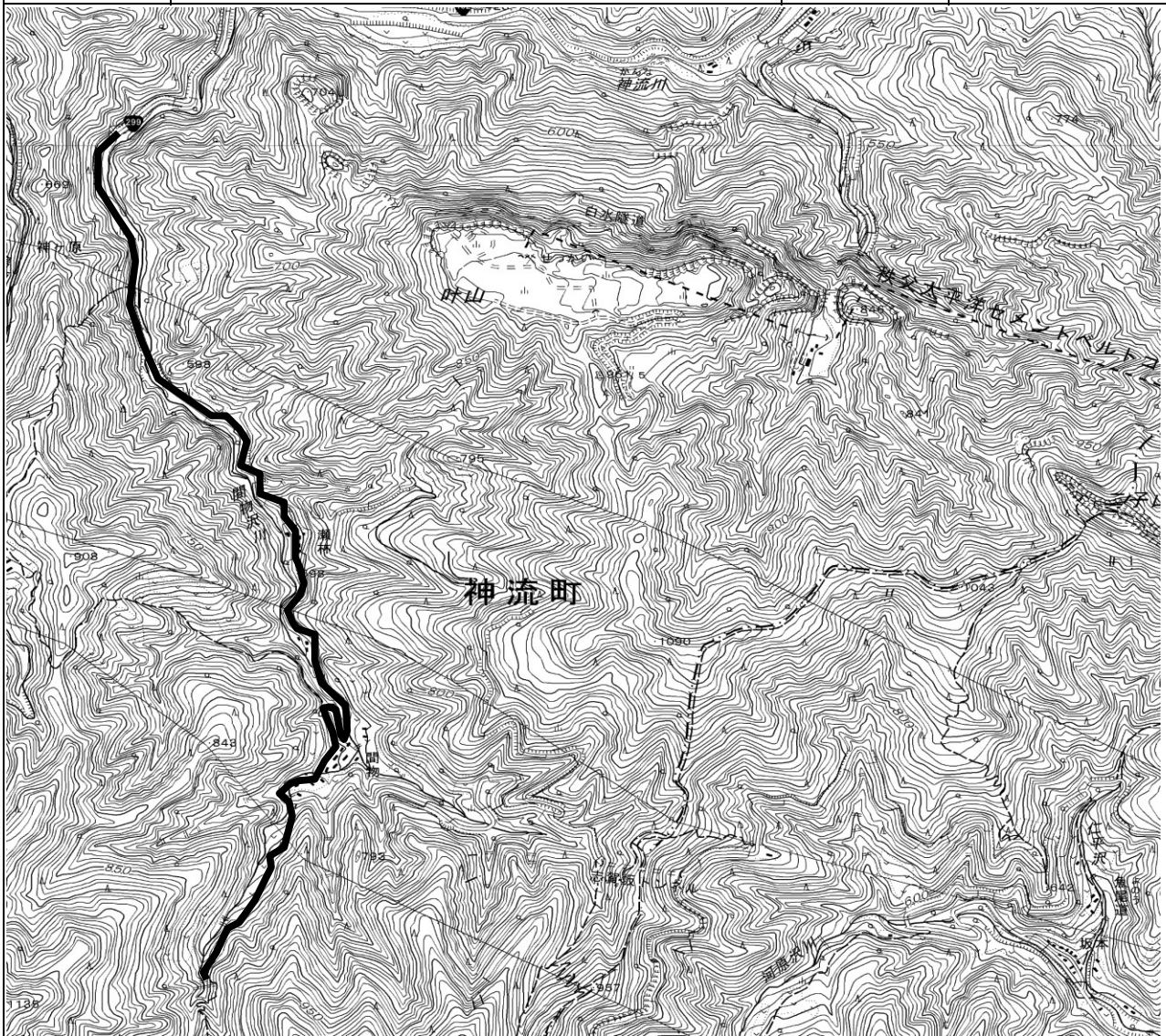
最近3回分の調査結果は下表のとおりである。過去の調査と比較して、前回は繁殖期・越冬期ともに神ヶ原 d の個体数が多かったが、今回は前々回と同程度まで減少した。前回個体数が多かったのはヒヨドリが多数記録されたためであるが、前回ヒヨドリが多かった理由は不明である。その他は大きな変化はない。

過去2回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、アカショウビンとアオゲラの2種であった。一方、過去2回とも記録があるのに今回記録されなかったのはハシボソガラスであった。ハシボソガラスは、今回と同じ方法で調査を開始した第5次調査からほぼ毎回記録されてきた。今回記録されなかった原因は不明である。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
両神山a	21	25	27	33.8	31.0	39.5	9	14	17	16.5	24.0	27.5
神ヶ原d	24	21	26	27.8	83.5	25.3	17	22	18	30.5	83.0	27.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	神流町（旧中里村）	地形図名	両神山a	調 査 者	深井 宣男
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	490 ～ 800 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

間物沢川沿いの国道を進み、間物の集落から諏訪山登山口の砂防ダムまで沢沿いの林道を進む調査コースである。コース周辺は植林地が多く、雑木林が点在する。民家の周りにはわずかに農耕地がある。急峻な沢地形の谷底を進むコースであるため、見通せる上空の範囲は広くない。

今回の調査では、営巢中のホオジロと、巣立ち雛を連れたミソサザイが観察され、2種の繁殖が確認された。調査範囲外であるが、神流川にかかる古鉄橋下にはイワツバメの繁殖コロニーがあり、30羽ほどが観察された。5/28には未明に現地入りしてコース上を自動車で探索したが、周辺でヨタカやフクロウ類の声を確認することはできなかった。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。ただし、コース南端の砂防堰堤下の駐車場で登山道が閉鎖されていたため、コース全体を30mほど北側にスライドして実施した。繁殖期は2日とも沢音が気になった。ニホンジカ、カモシカ、ハクビシン、ヤマアカガエル、カジカガエル、ヒキガエルを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

両神山a

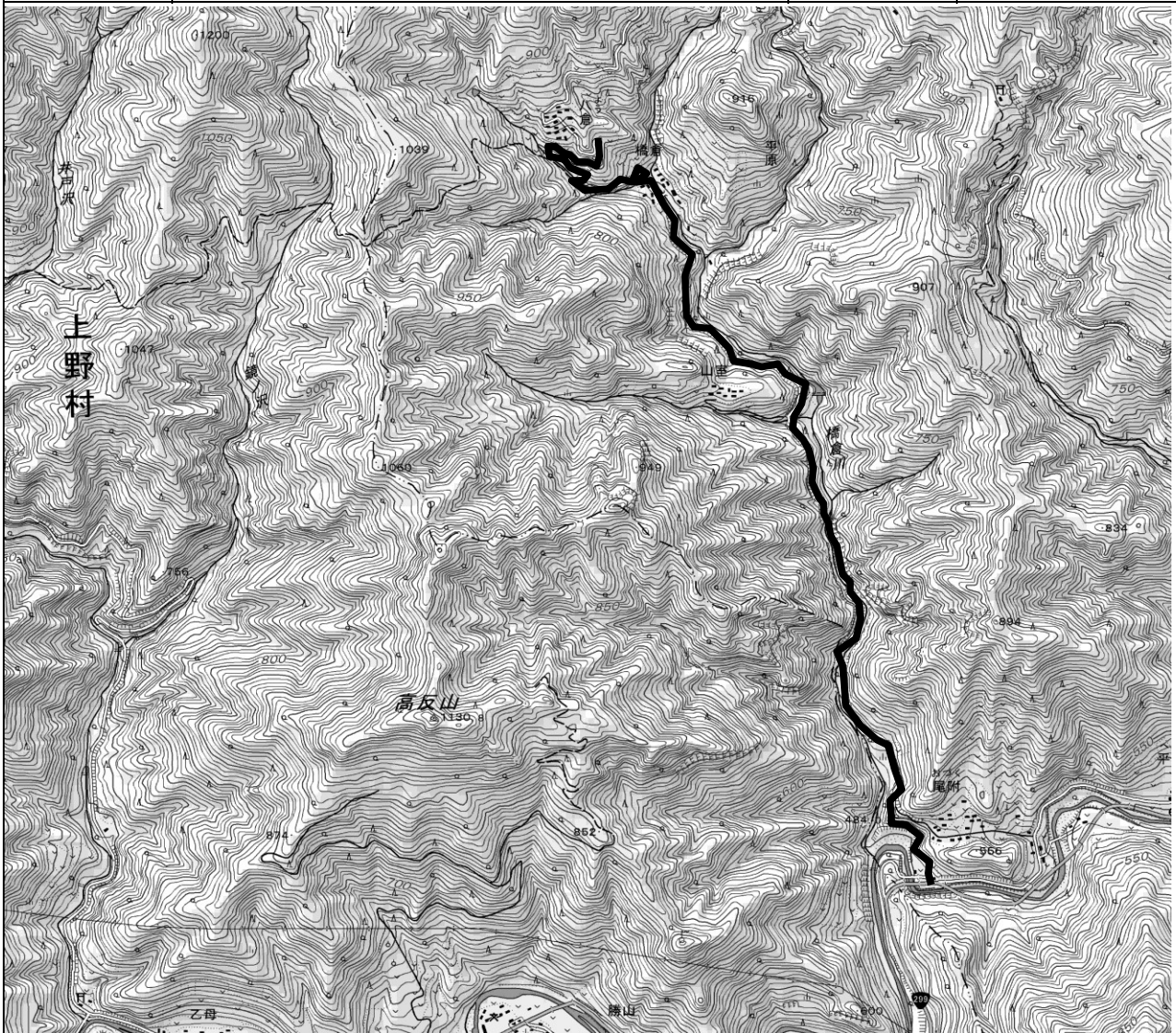
調査者

深井 宣男

調 査 年 月 日			R4. 5. 22	R4. 5. 22	R4. 5. 28	R4. 5. 28	R4. 12. 3	R4. 12. 3	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 00 ＼ 6 : 50 (110分)	6 : 55 ＼ 8 : 25 (90分)	4 : 05 ＼ 5 : 40 (95分)	5 : 45 ＼ 7 : 15 (90分)	7 : 55 ＼ 9 : 30 (95分)	9 : 35 ＼ 11 : 20 (105分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧		
5	天 　 候			雨	曇	晴	晴	晴	晴									
	キジバト			4	1	1	1			7	1.75	1.09	0.09	4.4	21.9	B		
	アオバト				○	○	2			2	0.50	0.31	0.03	1.3	6.3	B		
	ジュウイチ						○			○								
	クマタカ								○							○		
10	コゲラ								3							3	1.50	
	アカゲラ				○	○				○								
	アオゲラ			1	○	○	○			1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1			
	カケス			2		1	1		○	4	1.00	0.62	0.05	2.5	12.5	○		
	ハシブトガラス			○		1		○	○	1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1	○		
15	コガラ				○				1	○						1	0.50	
	ヤマガラ			1	2	1		1	1	4	1.00	0.62	0.05	2.5	12.5	B	2	
	ヒガラ			1	○	1	1	2	○	3	0.75	0.47	0.04	1.9	9.4	B	2	
	シジュウカラ			3	5	1	2	2	6	11	2.75	1.71	0.14	7.0	34.4	B	8	
	ツバメ						1			1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1			
20	ヒヨドリ			9	10	8	5	1	3	32	8.00	4.99	0.40	20.3	100.0		4	
	ウグイス			2	1	○	1			4	1.00	0.62	0.05	2.5	12.5	B		
	ヤブサメ			1		1	1			3	0.75	0.47	0.04	1.9	9.4	B		
	エナガ								13							13	6.50	
	メジロ				4	3	1			8	2.00	1.25	0.10	5.1	25.0			
25	ミソサザイ			2	2	4	2	4	○	10	2.50	1.56	0.13	6.3	31.3	A	4	
	カワガラス						1	1		1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1		1	
	トラツグミ			○			○			○						B		
	クロツグミ			1		○				1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1	B		
	ルリビタキ							1								1	0.50	
30	ジョウビタキ							1	1							2	1.00	
	キビタキ			1	1	1	2			5	1.25	0.78	0.06	3.2	15.6	B		
	オオルリ			4	2	2	1			9	2.25	1.40	0.11	5.7	28.1	B		
	キセキレイ			5	6	4	5		2	20	5.00	3.12	0.25	12.7	62.5	B	2	
	カワラヒワ					1				1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1			
35	イカル			1	○	○	○			1	0.25	0.16	0.01	0.6	3.1	B		
	ホオジロ			4	5	8	9	5	5	26	6.50	4.05	0.33	16.5	81.3	A	10	
	カシラダカ								2							2	1.00	
	ガビチョウ			○	1	1	1			3	0.75	0.47	0.04	1.9	9.4	B		
40																		
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	42	40	39	37	18	37	158	39.50	24.62	1.98				55	27.50	
		種 数	16	12	16	17	9	10	23							14		
		全 種 数	19	18	22	21	10	15	27							17		

調 査 地 の 概 況

市町村名	神流町（旧中里村）	地形図名	神ヶ原d	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	460 ～ 750 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

－ 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

－ 草地・草原・ヨシ原

－ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

－ 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

橋倉川沿いに尾附から橋倉集落の先までのコースである。雑木林と人工林が混在し、橋倉には人家と農耕地も少しある。橋倉川には小さな沢も流れ込んでおり、水場は多い。餌となる昆虫類や植物もみられる。

今回の調査では、営巣中のキセキレイが記録され、繁殖が確認された。12月に範囲外で観察したクマタカは3羽で、そのうちの1羽は下面が白く幼鳥と思われた。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。6月の調査では、八倉集落手前でニホンジカとテンを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

神ヶ原d

調査者

瀧川 二士男

調 査 年 月 日								繁殖期								越冬期	
調 査 時 間		R4. 5. 22	R4. 5. 22	R4. 6. 10	R4. 6. 10	R4. 12. 11	R4. 12. 11	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁殖 可能性 ラ ン ク	合 計	平 均	
		5:50 ㄱ	7:40 ㄱ	5:30 ㄱ	7:30 ㄱ	8:25 ㄱ	10:10 ㄱ										(98分)
天 候		雨	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧／ 2	
種 類 　／　 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
キジバト		3	3	○	○	1	2	6	1.50	0.92	0.08	5.9	37.5	B	3	1.50	
アオバト		1	○					1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3				
トビ			○	○	○		1	○							1	0.50	
クマタカ							○								○		
5	アカショウビン				○			○									
コゲラ			2	1	2			5	1.25	0.77	0.06	5.0	31.3				
アカゲラ					2			2	0.50	0.31	0.03	2.0	12.5				
アオゲラ			○		1			1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3	B			
カケス		2	○	5	1	1		8	2.00	1.23	0.10	7.9	50.0		1	0.50	
10	ハシブトガラス	○		○	○	○	○	○							○		
コガラ				1				1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3				
ヤマガラ		1						1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3				
ヒガラ		○	○				6	○							6	3.00	
シジュウカラ		3	1	7	5	2	2	16	4.00	2.46	0.20	15.8	100.0	B	4	2.00	
15	ヒヨドリ	2	3	3	4	3	5	12	3.00	1.85	0.15	11.9	75.0		8	4.00	
ウグイス		3	2	2	1	1		8	2.00	1.23	0.10	7.9	50.0	B	1	0.50	
ヤブサメ			1					1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3				
エナガ			3			○	7	3	0.75	0.46	0.04	3.0	18.8		7	3.50	
メジロ						2									2	1.00	
20	ミソサザイ	2	○	1	2	3	2	5	1.25	0.77	0.06	5.0	31.3	B	5	2.50	
カワガラス		1		1	1	1		3	0.75	0.46	0.04	3.0	18.8		1	0.50	
クロツグミ			○		○			○						B			
ジョウビタキ						2	1								3	1.50	
キビタキ		1	2	1	1			5	1.25	0.77	0.06	5.0	31.3	B			
25	オオルリ	2	1	2	2			7	1.75	1.08	0.09	6.9	43.8	B			
カヤクグリ						1	○								1	0.50	
キセキレイ		4	4	2	2	1	3	12	3.00	1.85	0.15	11.9	75.0	A	4	2.00	
カワラヒワ				○				○									
ホオジロ		1		1	1	4	3	3	0.75	0.46	0.04	3.0	18.8	B	7	3.50	
30	アオジ						1								1	0.50	
ガビチョウ		1						1	0.25	0.15	0.01	1.0	6.3				

上野村鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

上野村に含まれる調査地は下表の 5 メッシュである。標高からは全メッシュとも山地帯に属し、そのうち十石峠 d は山地帯上部に位置する。十石峠 d は長野県境の十石峠を起点として東側斜面を下るコースであるが、それ以外の 4 メッシュはいずれも沢沿いのコースである。全メッシュとも、雑木林と植林地を中心とした環境で、一部に里山的環境要素を含んでいる。調査コースは全メッシュとも前回と同じである。

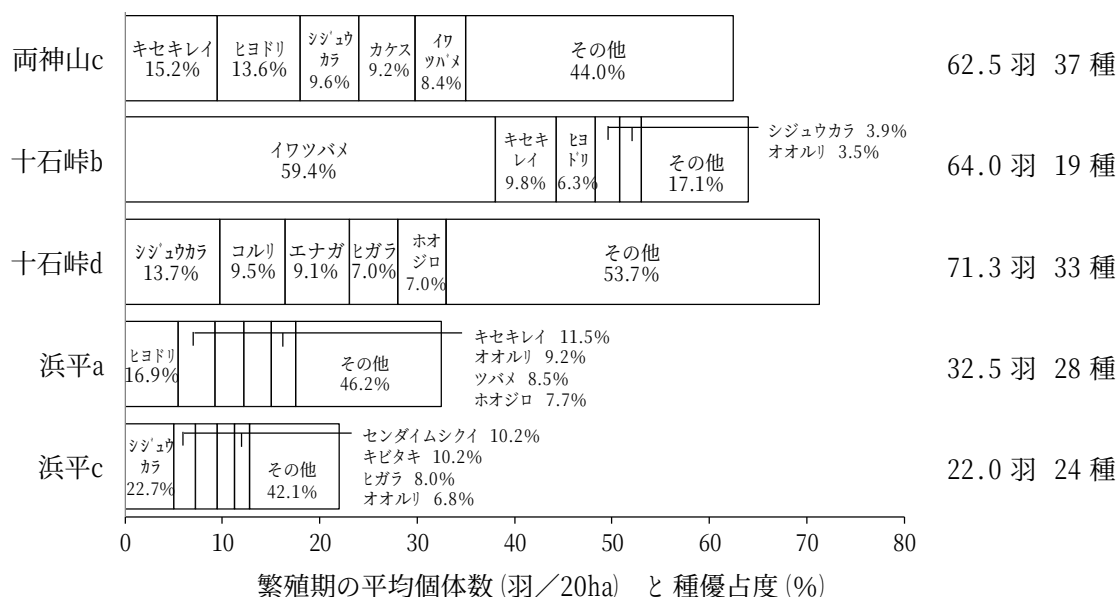
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
両神山c	480 ～ 780	◎	—	○	—	○	○	—	○	前回と同じ
十石峠b	610 ～ 780	○	—	◎	—	—	○	—	○	前回と同じ
十石峠d	1195 ～ 1351	◎	○	○	○	—	—	—	—	前回と同じ
浜平a	650 ～ 730	◎	◎	○	—	—	○	—	◎	前回と同じ
浜平c	780 ～ 990	◎	—	○	—	—	—	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、上野村全体で繁殖期に 52 種、越冬期に 30 種、年間では 60 種が記録された。前々回（平成 24 年度実施）は年間 59 種、前回（平成 24 年度実施）は年間 64 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。沢沿いの植林地を通るコースのため、ヒヨドリやキセキレイ、オオルリ、シジュウカラなどのカラ類が優占した。十石峠 b では、採食飛翔するイワツバメの群れが記録されたため最優占種となっている。標高が高い十石峠 d ではヒガラやコルリが上位に入った。近隣の調査メッシュと比較して、十石峠 b は種数が、浜平 c は種数と個体数がやや少なく、両神山 c では種数が多かった。特筆すべき種として、群馬



県レッドデータブック（県 RDB）掲載種が、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、アカショウビン、キバシリ、アカハラ、コマドリ、クロジの 9 種記録された。これらは良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物のガビチョウが前回に引き続き確認されたが、ソウシチョウは記録されなかった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様、シジュウカラなどのカラ類や植林地などに多いヒヨドリ、林縁部に多いホオジロなどが優占したほか、亜高山帯で繁殖し標高の低い地域で越冬するカヤクグリが上位に入った。また、県 RDB 掲載種のクマタカ、ヤマセミ、カシラダカが記録された。今回の調査では、越冬期に外来種のガビチョウは記録されなかった。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
両神山c	カシラダカ	ヒヨドリ	シジュウカラ	エナガ	キセキレイ	57.0	20
十石峠b	シジュウカラ	カケス	ハシブトガラス	メジロ	ジョウビタキ	13.5	11
十石峠d	エナガ	ホオジロ	コガラ	ゴジュウカラ	コゲラ	24.0	9
浜平a	エナガ	カワガラス	ホオジロ	トビ	シジュウカラ	26.0	21
浜平c	カヤクグリ	ホオジロ	コガラ	エナガ	シジュウカラ	23.0	13

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

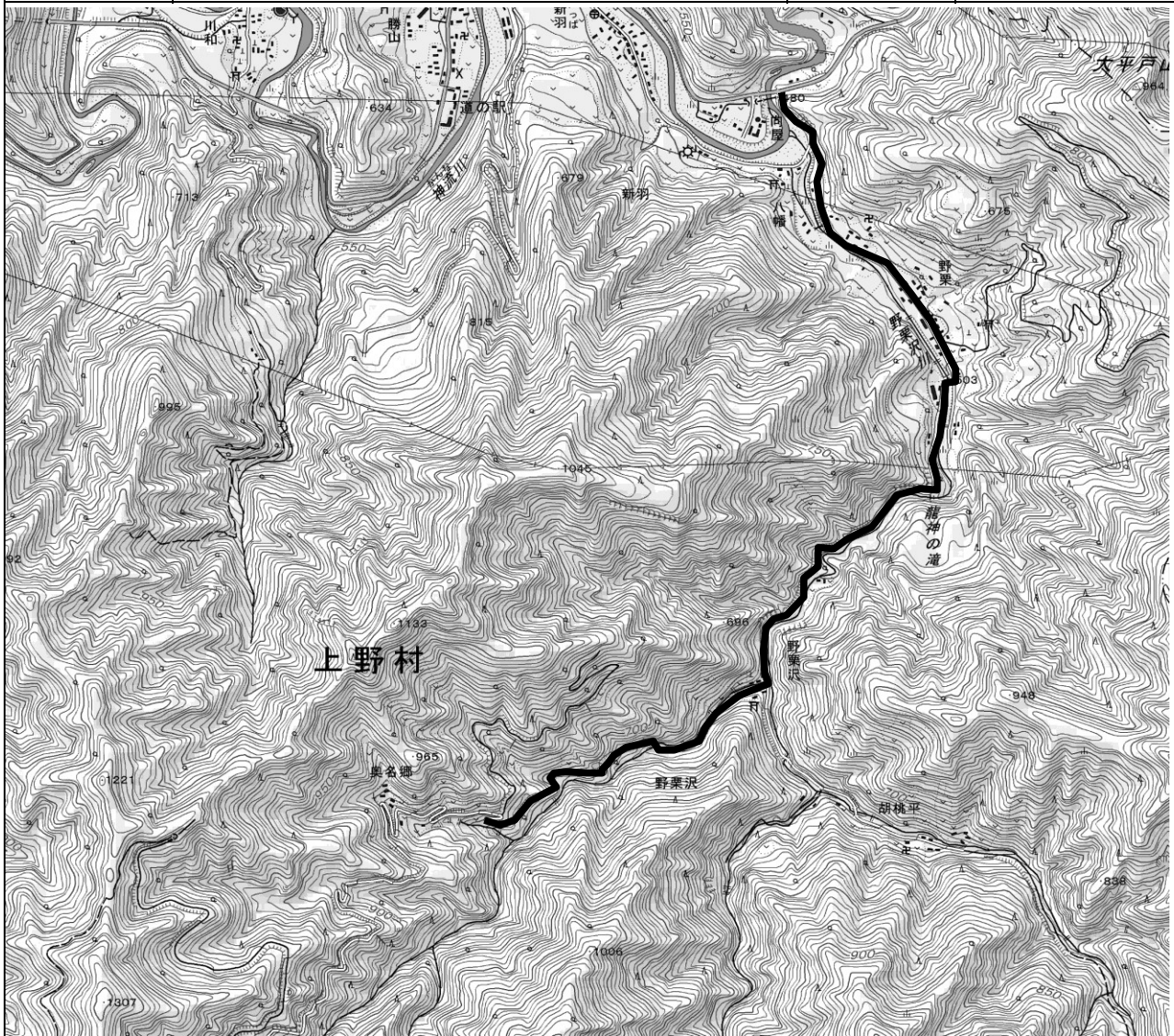
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。越冬期の個体数は、群れで渡来するマヒワなどが調査範囲内で記録されるかどうかで大きく変わる。各メッシュとも、種数と個体数に変動があるものの、環境の変化を示唆するような大きな変化はみられなかった。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ダイサギ、アマツバメ、キバシリ、コマドリ、カシラダカの 5 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはツグミ、ベニマシコ、ウソ、ソウシチョウの 4 種であった。前回の調査に続き、エゾセンニュウが繁殖期に複数個体記録された。本来の繁殖分布域からは大きく外れているが、今回は 5 月と 6 月に記録されており、移動中の個体が記録されたものではない可能性があるため継続して調査が必要である。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)			種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
両神山c	28	30	37	76.8	54.5	62.5	30	21	20	82.0	36.0	57.0
十石峠b	22	19	19	40.3	57.0	64.0	13	12	11	20.5	42.5	13.5
十石峠d	28	33	33	44.0	87.8	71.3	8	11	9	13.0	15.5	24.0
浜平a	30	27	28	70.5	54.0	32.5	21	19	21	55.0	38.0	26.0
浜平c	25	21	24	30.0	22.3	22.0	17	16	13	34.5	24.0	23.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	上野村	地形図名	両神山c	調 査 者	浅川 千佳夫
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	480 ～ 780 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは野栗沢に沿って向屋地区から奥名郷地区の手前まで進む舗装道である。野栗地区と野栗沢地区には人家・畑が点在するが、コースの周辺は大部分が雑木林でスギ・ヒノキの人工林が混じる。

今回の調査では、営巢中のツバメ、イワツバメ、ホオジロが記録され、繁殖が確認された。以前はヤマセミが観察されたが10年前の調査を最後に記録されていない。今回はアカショウビンが記録された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

両神山c

調査者

浅川 千佳夫

調 査 年 月 日			R4. 5. 23	R4. 5. 23	R4. 6. 4	R4. 6. 4	R4. 12. 3	R4. 12. 3	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 30 ＼ 7 : 15 (105分)	7 : 30 ＼ 9 : 20 (110分)	5 : 20 ＼ 7 : 10 (110分)	7 : 20 ＼ 9 : 15 (115分)	8 : 00 ＼ 9 : 50 (110分)	10 : 00 ＼ 11 : 50 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧	⑧／ 2						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	キジバト			5	3	2	1			11	2.75	1.50	0.14	4.4	28.9			
	アオバト			○	○	2	○			2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.3	B		
	アオサギ			1		1				2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.3			
	ダイサギ					○			1	○						1	0.50	
	ジュウイチ			○			○			○						B		
10	ツツドリ			○	○					○								
	トビ			1	2	1	1			5	1.25	0.68	0.06	2.0	13.2			
	ノスリ						1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
	アカショウビン				1	○				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
	コゲラ			○		1			1	1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6	1	0.50	
15	アオゲラ			1		○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
	モズ							1	1							2	1.00	
	カケス			17		3	3	○		23	5.75	3.14	0.29	9.2	60.5	○		
	ハシボソガラス						1			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
	ハシブトガラス			○	1	○	2	○	○	3	0.75	0.41	0.04	1.2	7.9	○		
20	コガラ					3			3	3	0.75	0.41	0.04	1.2	7.9	3	1.50	
	ヤマガラ				1	1	4	1	1	6	1.50	0.82	0.08	2.4	15.8	B	2	
	ヒガラ			○	2	○	2		○	4	1.00	0.55	0.05	1.6	10.5	B	○	
	シジュウカラ			3	2	8	11	5	12	24	6.00	3.27	0.30	9.6	63.2	B	17	
	ツバメ			5	2	2	3			12	3.00	1.64	0.15	4.8	31.6	A		
25	イワツバメ			5	6	7	3			21	5.25	2.86	0.26	8.4	55.3	A		
	ヒヨドリ			5	9	6	14	9	8	34	8.50	4.64	0.43	13.6	89.5		17	
	ウグイス			○	1	1	1			3	0.75	0.41	0.04	1.2	7.9	B		
	ヤブサメ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6			
	エナガ								11							11	5.50	
30	センダイムシクイ			○	○	○	○			○						B		
	メジロ					1		5	2	1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6	7	3.50	
	カワガラス			3	1	1	1	3	2	6	1.50	0.82	0.08	2.4	15.8	B	5	
	クロツグミ			○	○		○			○						B		
	ジョウビタキ							3	3								6	
35	キビタキ					○				○								
	オオルリ			1	2	2	3			8	2.00	1.09	0.10	3.2	21.1	B		
	カヤクグリ							1									1	
	スズメ					1	1			2	0.50	0.27	0.03	0.8	5.3			
	キセキレイ			11	8	7	12	3	4	38	9.50	5.18	0.48	15.2	100.0		7	
40	ハクセキレイ							6									6	
	セグロセキレイ			○		8	○	3		8	2.00	1.09	0.10	3.2	21.1	B	3	
	カワラヒワ					3	3	○		6	1.50	0.82	0.08	2.4	15.8		○	
	イカル			○		○				○						B		
	ホオジロ			6	6	5	4			21	5.25	2.86	0.26	8.4	55.3	A		
45	カシラダカ								25								25	
	コジュケイ			○						○								
	ガビチョウ				1	○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6	B		
50																		
計	範 囲 内	個体数	65	48	66	71	40	74	250	62.50	34.09	3.13				114	57.00	
		種 数	14	16	21	19	11	13	29							16		
		全 種 数	26	20	30	26	14	15	37							20		

調査地の概況

市町村名	上野村	地形図名	十石峠b	調 査 者	土屋 等
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）＝20ha			調査地の標高	610 ～ 780 m



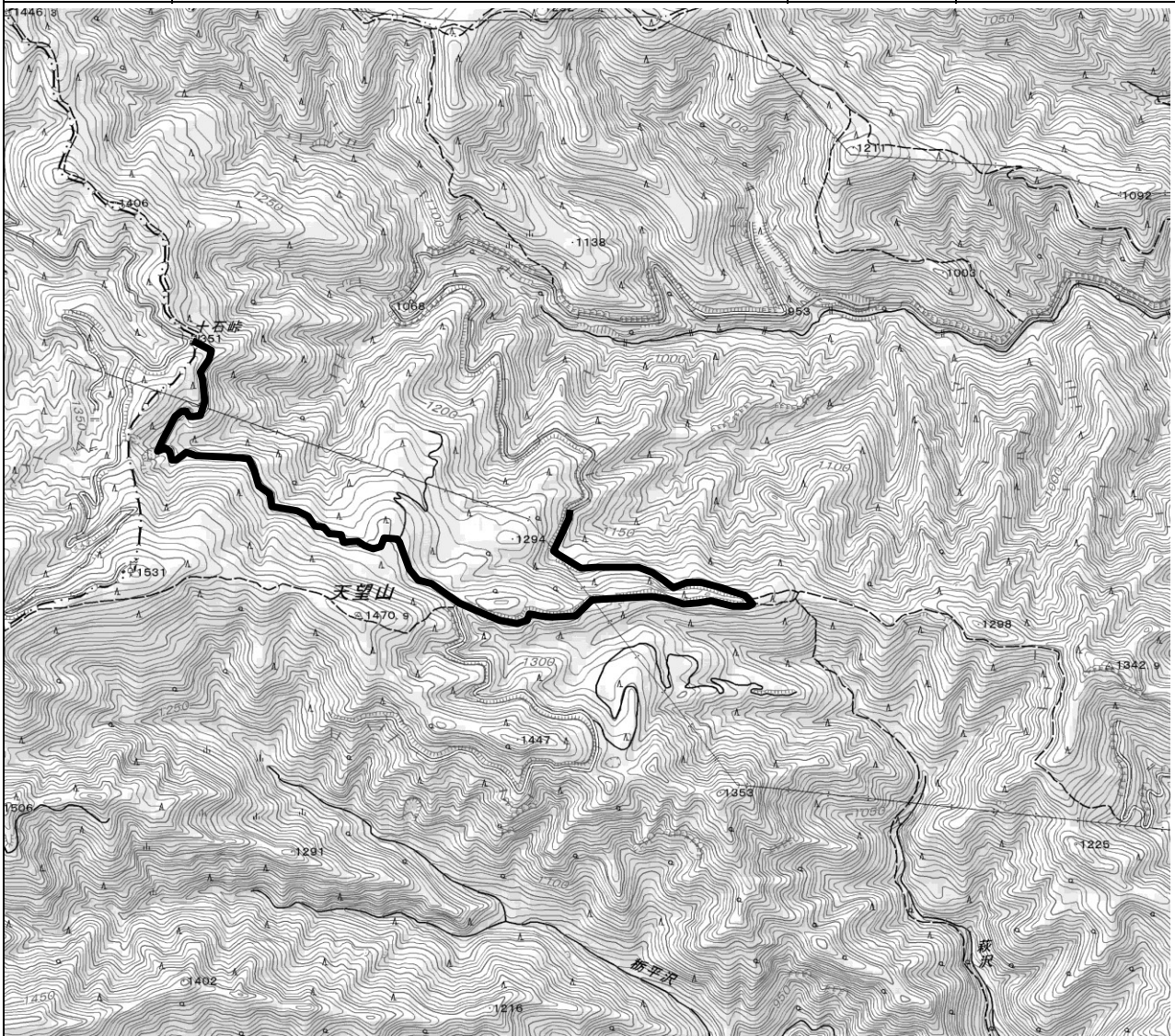
調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○	広葉樹林（自然林・雑木林）	塩ノ沢川沿いの県道から湯の沢トンネル付近で林道へ入るコース。並行する塩ノ沢川は水量が十分で冬でも涸れる事はない。疎らに民家があり、沢沿いに雑木林もみられるため、環境は良好と思われるが、草地が少なくホオジロ類は少ない。寒さが厳しいためか、越冬期は出現個体数が少なかった。 今回の調査では、営巣中のキセキレイが記録され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。湯の沢トンネル付近で道路を工事中で、重機が稼働していた。		

十屋 等

-61-

調 査 地 の 概 況

市町村名	上野村	地形図名	十石峠d	調 査 者	田 口 雅之
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	1195 ~ 1351 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

○ 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

— 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

— 河川湖沼・河川敷

国道299号線の群馬県と長野県の県境から舗装道を歩くコースで、コース沿いに民家や農耕地はない。道路の両側は広葉樹や針葉樹が生い茂っており、遠くまで見通せない。矢弓沢林道との分岐より下方では、スギの植林地で伐採が進んでおり、見晴らしが良かった。苗木が植林されており、林が育ってくればまた見通せなくなるだろう。

前回の調査でエゾセンニュウが記録されたが、今回も複数羽が記録された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。5月の往路は一時霧に包まれ、周囲を見通せなくなった。6月の復路はエゾハルゼミが鳴きだしてうるさくなった。5月にはノウサギとニホンジカを、6月にはアサギマダラを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

十石峠d

調査者

田口 雅之

調査年月日									繁殖期								越冬期	
調査時間		R4. 5. 23 4 : 55 }	R4. 5. 23 7 : 05 }	R4. 6. 20 4 : 45 }	R4. 6. 20 6 : 50 }	R4. 11. 27 8 : 45 }	R4. 11. 27 10 : 20 }	合計	平均 (110分)	密度		種優占度	相対出現頻度 (%)	繁殖可能性 ランク	合計	平均 (98分)		
		6 : 45 (110分)	8 : 55 (110分)	6 : 30 (105分)	8 : 45 (115分)	10 : 15 (90分)	12 : 05 (105分)											
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／2		
種類 / 結果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数											
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧			
5	アオバト	1			1			2	0.50	0.27	0.03	0.7	5.1	B				
	ホトトギス	1		3	3			7	1.75	0.95	0.09	2.5	17.9	B				
	ツツドリ	1	1		○			2	0.50	0.27	0.03	0.7	5.1	B				
	カッコウ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6					
	クマタカ						○								○			
10	コゲラ			4	2	1	2	6	1.50	0.82	0.08	2.1	15.4		3	1.50		
	アカゲラ	4	2	4	2			12	3.00	1.64	0.15	4.2	30.8	B				
	カケス	3	2	3	2			10	2.50	1.36	0.13	3.5	25.6					
	ハシブトガラス		1			2		1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6		2	1.00		
	コガラ	1	3	2	2	6	1	8	2.00	1.09	0.10	2.8	20.5	B	7	3.50		
15	ヤマガラ		1	2				3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7	B				
	ヒガラ	9	3	6	2			20	5.00	2.73	0.25	7.0	51.3	B				
	シジュウカラ	2	13	11	13	○		39	9.75	5.32	0.49	13.7	100.0	B	○			
	ヒヨドリ	2						2	0.50	0.27	0.03	0.7	5.1					
	ウグイス	3	4	4	3			14	3.50	1.91	0.18	4.9	35.9	B				
20	ヤブサメ	2	1	1	3			7	1.75	0.95	0.09	2.5	17.9	B				
	エナガ	7		6	13	12	7	26	6.50	3.55	0.33	9.1	66.7	B	19	9.50		
	センダイムシクイ	4	1	5	6			16	4.00	2.18	0.20	5.6	41.0	B				
	メジロ		1					1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6					
	エゾセンニュウ		1	2				3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7					
25	ゴジュウカラ		1	1	1	1	5	3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7	B	6	3.00		
	キバシリ	1	1					2	0.50	0.27	0.03	0.7	5.1					
	ミソサザイ	2	2	4	3			11	2.75	1.50	0.14	3.9	28.2	B				
	トラツグミ	3						3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7					
	クロツグミ	1	2					3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7					
30	アカハラ	1	1		1			3	0.75	0.41	0.04	1.1	7.7					
	コマドリ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6					
	コルリ	11	5	7	4			27	6.75	3.68	0.34	9.5	69.2	B				
	キビタキ	4	2	3	2			11	2.75	1.50	0.14	3.9	28.2	B				
	オオルリ	6	6	2	1			15	3.75	2.05	0.19	5.3	38.5	B				
35	イカル		2	2				4	1.00	0.55	0.05	1.4	10.3	B				
	ホオジロ	1	5	5	9		10	20	5.00	2.73	0.25	7.0	51.3	B	10	5.00		
	カシラダカ						1								1	0.50		
	クロジ	1						1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6					
	ガビチョウ			1				1	0.25	0.14	0.01	0.4	2.6					
40																		
45																		
50																		
計	範囲内	個体数	73	61	78	73	22	26	285	71.25	38.86	3.56				48	24.00	
		種 数	25	23	21	19	5	6	33							7		
		全 種 数	25	23	21	20	6	7	33							9		

調 査 地 の 概 況

市町村名	上野村	地形図名	浜平a	調 査 者	飯塚 博文
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	650 ~ 730 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

◎ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

三岐地区から神流川に沿って上野ダム直下まで旧道を進むコースである。コース上には三岐と浜平集落があるが、いずれの集落も人口減で空き家が目立ち、浜平集落は数件のみとなっている。わずかな耕地も大半は荒れている。急峻な谷地形で、一部に荒れたスギの植林地もあるが、大半はケヤキ、カエデ、コナラなどの広葉樹林で大木も多い。稜線や山頂付近はモミ、ツガ、アカマツ等の針葉樹の天然林がある。コース上には適度な水場もあり、食餌植物や昆虫類も多く鳥類の生息には良好な環境である。

今回の調査では営巣中のヤマガラ、ツバメ、ホオジロが記録され、繁殖が確認された。全体的に、確認された種数に大きな変化はみられないが、個体数は減少しているように思われる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。6月の調査時、往路の終点400m位手前で対岸からこちら側に渡ろうとしているツキノワグマを確認した。渡る前だったので笛を吹き、ガードレールを石でたたいて追い払った。至近距離で前方25~30mほど。その他、ニホンジカ、アナグマ、ホンドリスを観察した。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

浜平a

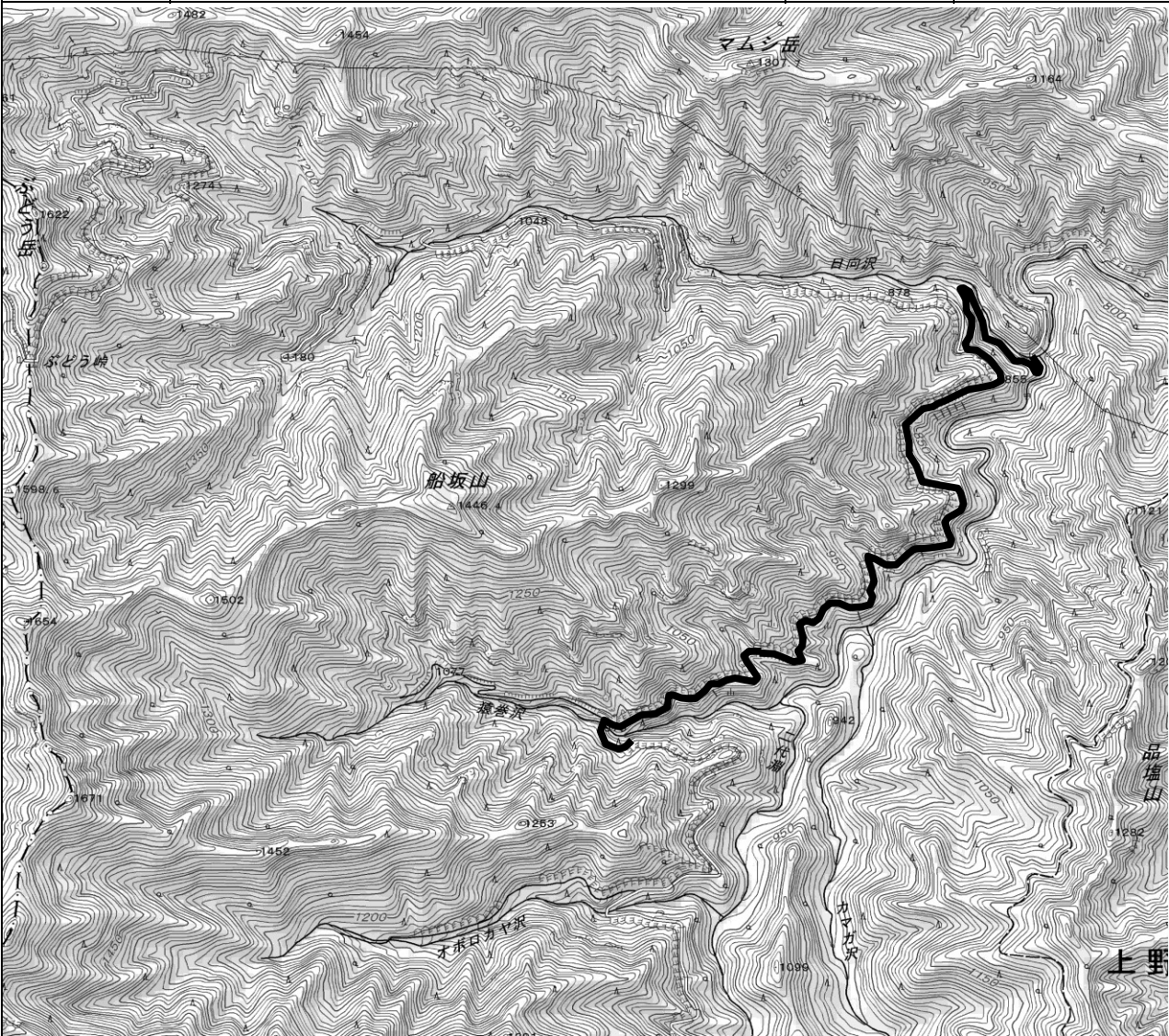
調査者

飯塚 博文

調 査 年 月 日			R4. 5. 24	R4. 5. 24	R4. 6. 13	R4. 6. 13	R4. 12. 2	R4. 12. 2	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			6 : 50 〃 8 : 50 (120分)	9 : 00 〃 11 : 00 (120分)	5 : 20 〃 7 : 20 (120分)	7 : 30 〃 9 : 30 (120分)	8 : 10 〃 10 : 00 (110分)	10 : 10 〃 12 : 00 (110分)	合 計	平 均 (120分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (110分)	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	キジバト							1							1	0.50		
	アオバト					1	1		2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1				
	ジュウイチ			1	1				2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1				
	ツツドリ						○		○									
	トビ			2	3	3	○	4	8	2.00	1.00	0.10	6.2	36.4	B	4	2.00	
10	クマタカ							2							2	1.00		
	アカショウビン			1		1			2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1	B			
	ヤマセミ							2	2						4	2.00		
	コゲラ			1	1	2	1		5	1.25	0.63	0.06	3.8	22.7				
	アカゲラ				1				1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5				
15	アオゲラ						1		1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5				
	カケス			1	1	3	1	○	6	1.50	0.75	0.08	4.6	27.3	○			
	ハシボソガラス			1	2		○	2	2	3	0.75	0.38	0.04	2.3	13.6	4	2.00	
	ハシブトガラス					1		○	1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5	○			
	コガラ			1				2	1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5		2	1.00	
20	ヤマガラ			○	3			○	3	0.75	0.38	0.04	2.3	13.6	A	○		
	ヒガラ			2		1		○	3	0.75	0.38	0.04	2.3	13.6	B	○		
	シジュウカラ			○	4	1	1		4	6	1.50	0.75	0.08	4.6	27.3	B	4	2.00
	ツバメ			3	3	2	3		11	2.75	1.38	0.14	8.5	50.0	A			
	イワツバメ			○	3	○	○		3	0.75	0.38	0.04	2.3	13.6				
25	ヒヨドリ			7	3	5	7		○	22	5.50	2.75	0.28	16.9	100.0	○		
	ウグイス			1		1			2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1				
	エナガ							8	○							8	4.00	
	センダイムシクイ					2	3		5	1.25	0.63	0.06	3.8	22.7				
	ミソサザイ							2	○							2	1.00	
30	カワガラス							2	4							6	3.00	
	クロツグミ			1		○	1		2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1	B			
	ルリビタキ							1	1							2	1.00	
	ジョウビタキ							3	1							4	2.00	
	キビタキ			○		1			1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5	B			
35	オオルリ			3	2	4	3		12	3.00	1.50	0.15	9.2	54.5	B			
	カヤクグリ							1								1	0.50	
	キセキレイ			3	1	6	5	1	15	3.75	1.88	0.19	11.5	68.2	B	1	0.50	
	セグロセキレイ				2			2	2	0.50	0.25	0.03	1.5	9.1		2	1.00	
	イカル			1					1	0.25	0.13	0.01	0.8	4.5				
40	ホオジロ			3	1	3	3	2	3	10	2.50	1.25	0.13	7.7	45.5	A	5	2.50
	ガビチョウ			○					○									
45																		
50																		
計	範 囲 内	個体数	32	31	37	30	25	27	130	32.50	16.25	1.63				52	26.00	
		種 数	16	15	16	12	10	12	26							16		
		全 種 数	21	15	18	16	13	16	28							21		

調 査 地 の 概 況

市町村名	上野村	地形図名	浜平c	調 査 者	瀧川 二士男
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50m (幅) = 20ha			調査地の標高	780 ~ 990 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	日向沢から中之沢林道を猿巻沢方面に進むコースである。落葉広葉樹の中にスギの植林地が点在する。沢の水量は多く、冬も涸れないため、水場には困らない。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
—	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
		← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。6月は7時50分頃からハルゼミが鳴き始めた。ニホンジカが観察された。

瀧川 二士男

-67-

富岡市（旧富岡市）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

富岡市（旧富岡市）に含まれる調査地は下表の4メッシュである。4メッシュとも平地から低山帯に属する。農耕地や集落、雑木林・植林地など、里山的環境を中心とした地域である。周辺の環境に大きな変化はなく、4メッシュとも前回と同じコースで実施した。

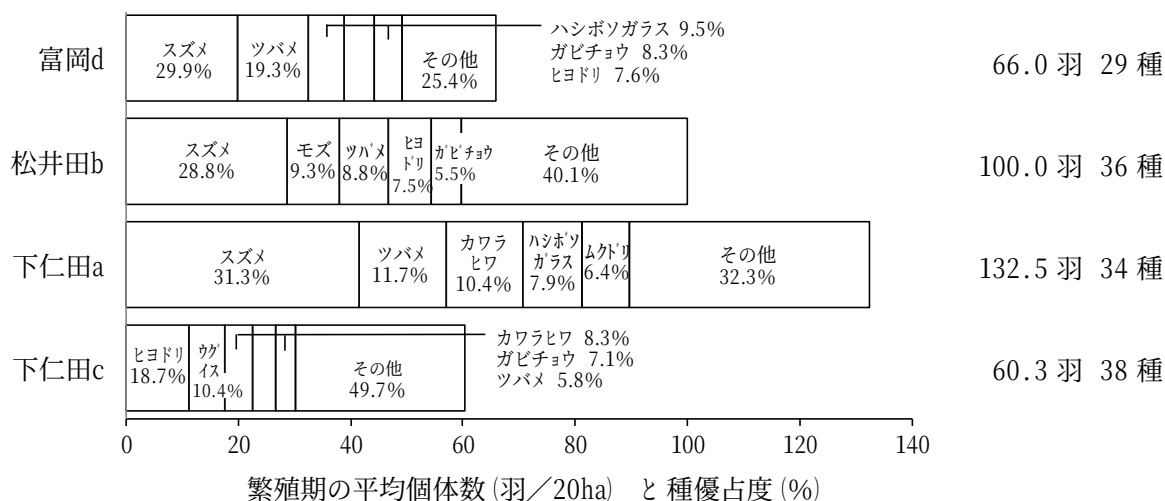
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
富岡d	160 ～ 240	—	—	○	—	○	◎	○	○	前回と同じ
松井田b	210 ～ 260	○	—	○	○	◎	○	—	○	前回と同じ
下仁田a	200 ～ 230	○	—	—	—	◎	—	○	○	前回と同じ
下仁田c	225 ～ 370	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、富岡市（旧富岡市）全体で繁殖期に51種、越冬期に47種、年間では65種が記録された。なお、前々回（平成24年度実施）は年間67種、前回（平成29年度実施）は年間69種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。全メッシュとも環境を反映して、人里に生息するスズメやツバメ、ヒヨドリなどが優占した。近隣の調査メッシュと比較して、下仁田aは個体数がやや多く、松井田bと下仁田cは種数がやや多かった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県RDB）掲載種のアオバト、イカルチドリ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、オナガ、コサメビタキの7種が記録された。これらは、良好な環境の指標として重要である。また、特定外来生物のガビチョウとカオジロガビチョウが記録されたが、前回記録のあるソウシチョウは記録されなかった。ガビチョウは前回より記録された個体数が増え、4メッシュ全てで繁殖可能性がBランクとなった。当地域に広範囲に定着していることが確実である。現時点では在来種への影響は見つかっていないが、今後もその動向に注目していく必要がある。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様、調査コースの環境を反映して、スズメ、ヒヨドリ、シジュウカラ、カラス類などが優占したほか、冬鳥のコガモやカシラダカが上位に入った。県 RDB 掲載種のコガモ、オオタカ、カシラダカの 3 種が記録された。特定外来生物のガビチョウ類は越冬期にも 2 種とも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
富岡d	コガモ	ヒヨドリ	スズメ	エナガ	シジュウカラ	107.0	20
松井田b	ホオジロ	スズメ	ヒヨドリ	カシラダカ	ハシボソガラス	84.0	34
下仁田a	スズメ	カワラバト(ドンバト)	ヒヨドリ	ハシボソガラス	セグロセキレイ	105.5	27
下仁田c	ヒヨドリ	カワラヒワ	シジュウカラ	ハクセキレイ	ヤマガラ	37.5	21

＊同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

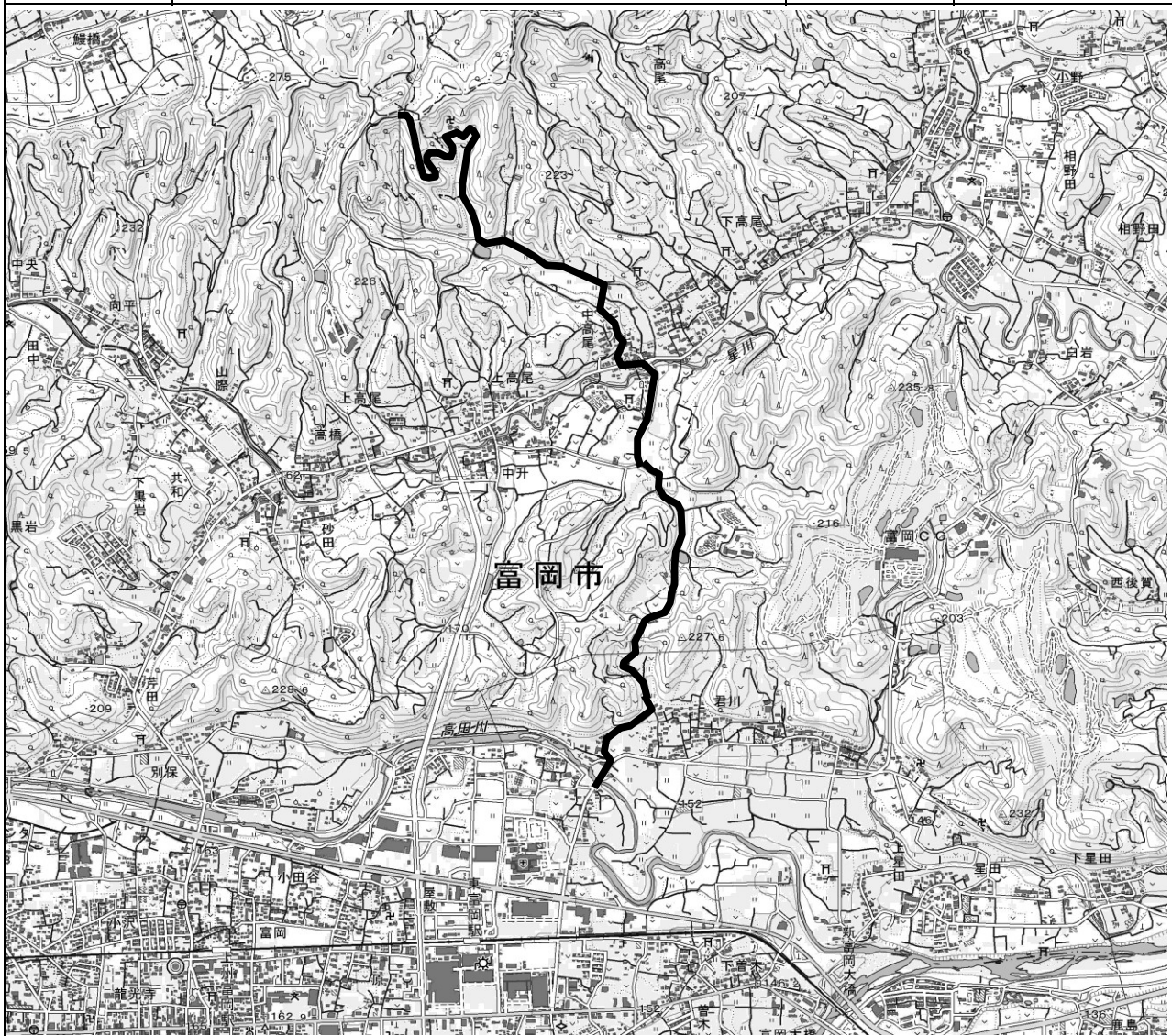
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。繁殖期の富岡 d と下仁田 a・c、越冬期の下仁田 c で減少傾向がみられた。いずれのメッシュでも、繁殖期の個体数の減少は、主にツバメとヒヨドリ、スズメの減少が一因である。周辺の市町村でも、人家周辺で繁殖するツバメやスズメは減少傾向にあり、過疎化などとの関連が考えられる。越冬期は特に大きく減少した種はみられず、全体的に減少した。減少した原因は不明である。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、ヒドリガモ、イカルチドリ、ハヤブサ、サンショウクイ、セッカの 5 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはゴイサギ、オオバン、カワセミ、イワツバメ、カヤクグリ の 5 種であった。このうちゴイサギ、カワセミ、イワツバメは、本調査では 35 年前の第 5 次調査からほぼ毎回記録されていたが、今回記録が途絶えた。ゴイサギは県 RDB において、2022 年の改訂から準絶滅危惧と評価されたことから、今後の動向に注目したい。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
富岡d	31	29	29	128.0	96.5	66.0	26	21	20	165.0	94.0	107.0
松井田b	34	37	36	117.3	115.0	100.0	36	35	34	271.5	80.0	84.0
下仁田a	34	31	34	218.3	190.3	132.5	24	28	27	218.5	134.5	105.5
下仁田c	38	41	38	120.5	79.8	60.3	36	27	21	110.0	50.0	37.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	富岡市（旧富岡市）	地形図名	富岡d	調 査 者	小林 廣喜
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	150 ～ 240 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

—	広葉樹林（自然林・雑木林）	いわゆる里山的環境を通るコースで、コース沿いには集落と農耕地、雑木林が広がる。谷津田の上部にある溜池や河川があるため、水場には困らない。生息環境は比較的良好と思われる。 今回の調査では、営巢中のツバメ、ヒヨドリ、スズメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
○	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
◎	里山・疎らな民家	
○	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	

<備考>

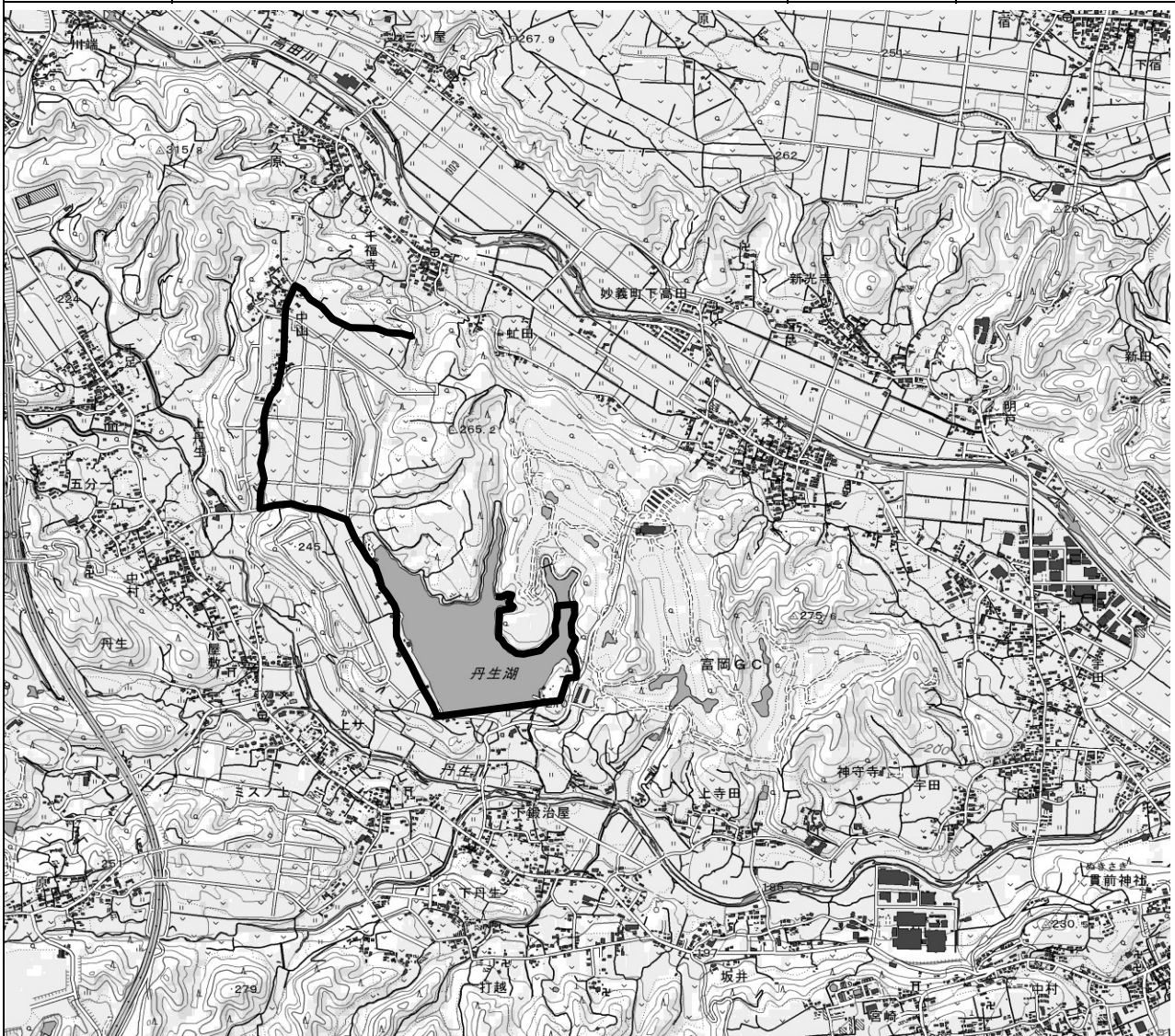
調査コースは前回と同じである。

地形図名	富岡d	調査者	小林 廣喜
------	-----	-----	-------

-73-

調 査 地 の 概 況

市町村名	富岡市（旧富岡市）	地形図名	松井田b	調 査 者	阪本 俊英
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	210 ～ 260 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

- ☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）
- ☐ 針葉樹林（自然林）
- ☐ 植林地（人工林）
- ☐ 草地・草原・ヨシ原
- ☒ 農耕地（田・畑・果樹園）
- ☐ 里山・疎らな民家
- ☐ 市街地・工業団地
- ☐ 河川湖沼・河川敷

調査地は、南を丹生川、北を高田川にはさまれた、東西に延びる丘陵地帯上にある。丹生湖（人工貯水池）の北から東にかけては、ゴルフ場との間に雑木林とスギ林、西から北にかけては圃場整備された農耕地が広がっている。調査コースは、丹生湖沿いと丹生湖北側の農耕地が中心である。丹生湖は、堰堤の強度不足から水が落とされ、一部に水面が残るのみとなっている。むき出しになった湖底の西側は草地が、それ以外はヤナギ類の林が広がり、次第に樹高が増している。

今回の調査では、営巢中のツバメとスズメが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

松井田b

調査者

阪本 俊英

調 査 年 月 日		R4. 5. 28	R4. 5. 28	R4. 6. 4	R4. 6. 4	R5. 1. 9	R5. 1. 9	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間	種類 / 結果	4 : 50 5 6 : 40 (110分)	6 : 50 5 8 : 30 (100分)	5 : 20 5 7 : 10 (110分)	7 : 20 5 9 : 00 (100分)	8 : 00 5 9 : 50 (110分)	10 : 00 5 11 : 45 (105分)	合 計	平 均 (105分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (108分)
		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
5	キジ	1	1	1	○	1		3	0.75	0.43	0.04	0.8	2.6	B	1	0.50
	ヒドリガモ					○	○								○	
	マガモ					○	○								○	
	カルガモ	○		2	○	○	○	2	0.50	0.29	0.03	0.5	1.7		○	
	コガモ					○	○								○	
10	カイツブリ					○									○	
	キジバト	5	5	1	○		1	11	2.75	1.57	0.14	2.8	9.6	B	1	0.50
	アオバト	○	○	○	○			○						B		
	カワウ				○	1	○	○							1	0.50
	アオサギ			○	○	○	○	○							○	
15	ダイサギ	1	○		○			1	0.25	0.14	0.01	0.3	0.9			
	ホトトギス	○	○	1	○			1	0.25	0.14	0.01	0.3	0.9	B		
	イカルチドリ		○		○			○								
	トビ		○					○								
	オオタカ					1									1	0.50
20	ノスリ				○			○								
	コゲラ	1	○	○	○	2	1	1	0.25	0.14	0.01	0.3	0.9	B	3	1.50
	アカゲラ						1								1	0.50
	アオゲラ		1		○	○		1	0.25	0.14	0.01	0.3	0.9		○	
	サンショウクイ				○			○								
25	モズ	8	10	11	8	4	3	37	9.25	5.29	0.46	9.3	32.2	B	7	3.50
	カケス					○									○	
	ハシボソガラス	2	2	7	3	5	5	14	3.50	2.00	0.18	3.5	12.2	B	10	5.00
	ハシブトガラス	1		1	○	○	○	2	0.50	0.29	0.03	0.5	1.7		○	
	シジュウカラ	○	2	○	2	2	1	4	1.00	0.57	0.05	1.0	3.5	B	3	1.50
30	ヒバリ	8	2	1	4			15	3.75	2.14	0.19	3.8	13.0	B		
	ツバメ	4	12	6	13			35	8.75	5.00	0.44	8.8	30.4	A		
	ヒヨドリ	6	12	6	6	9	12	30	7.50	4.29	0.38	7.5	26.1		21	10.50
	ウグイス	3	1	2	2		4	8	2.00	1.14	0.10	2.0	7.0	B	4	2.00
	エナガ	10	5					15	3.75	2.14	0.19	3.8	13.0			
35	メジロ		5	5	5	○	○	15	3.75	2.14	0.19	3.8	13.0	B	○	
	オオヨシキリ	○	2	1	1			4	1.00	0.57	0.05	1.0	3.5	B		
	ムクドリ					○									○	
	ツグミ					6	3								9	4.50
	ジョウビタキ						2								2	1.00
40	コサメビタキ		1	1	1			3	0.75	0.43	0.04	0.8	2.6			
	キビタキ	1		○	○			1	0.25	0.14	0.01	0.3	0.9	B		
	スズメ	48	21	28	18	10	17	115	28.75	16.43	1.44	28.8	100.0	A	27	13.50
	ハクセキレイ	1	1		1	1	2	3	0.75	0.43	0.04	0.8	2.6		3	1.50
	セグロセキレイ	1	2	2	1		1	6	1.50	0.86	0.08	1.5	5.2		1	0.50
45	カワラヒワ	4	3	2	4	7	1	13	3.25	1.86	0.16	3.3	11.3	B	8	4.00
	ベニマシコ					4	3								7	3.50
	シメ					1									1	0.50
	イカル	1		2	4			7	1.75	1.00	0.09	1.8	6.1			
	ホオジロ	6	4	7	3	14	14	20	5.00	2.86	0.25	5.0	17.4	B	28	14.00
50	カシラダカ					9	5								14	7.00
	アオジ					8	2								10	5.00
	コジュケイ	○	○	○	○			○						B		
	ガビチョウ	5	9	4	4	2	3	22	5.50	3.14	0.28	5.5	19.1	B	5	2.50
	カオジロガビチョウ	2	6	2	1			11	2.75	1.57	0.14	2.8	9.6			
計	個体数	119	107	93	81	87	81	400	100.00	57.14	5.00				168	84.00
	種 数	21	21	21	18	18	19	28							23	
	全 種 数	27	28	27	34	29	27	36							34	

調 査 地 の 概 況

市町村名	富岡市（旧富岡市）	地形図名	下仁田a	調 査 者	神宮 義憲
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	200 ～ 230 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	鐺川左岸の河岸段丘面の北縁に沿った調査コースである。コースの北側には広葉樹を主とする段丘崖があり、その麓に細い川が流れている。南側は田圃が主体の農耕地が広がり、一部に畑がある。この田園地帯がコースの大部分を占める。耕作されなくなった畑の一部に少し規模の大きな太陽光発電施設が設置され、その辺りは鳥がいなくなった様に感じる。コースの両端付近には林が少しあり、森林性の鳥も見られる。そのわずかな林でクロツグミの巣立ち雛が見られた。 今回の調査では、営巣中のハシボソガラスと、クロツグミとスズメの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
☐	針葉樹林（自然林）	
☐	植林地（人工林）	
☐	草地・草原・ヨシ原	
☒	農耕地（田・畑・果樹園）	
☐	里山・疎らな民家	
☐	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じである。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

下仁田a

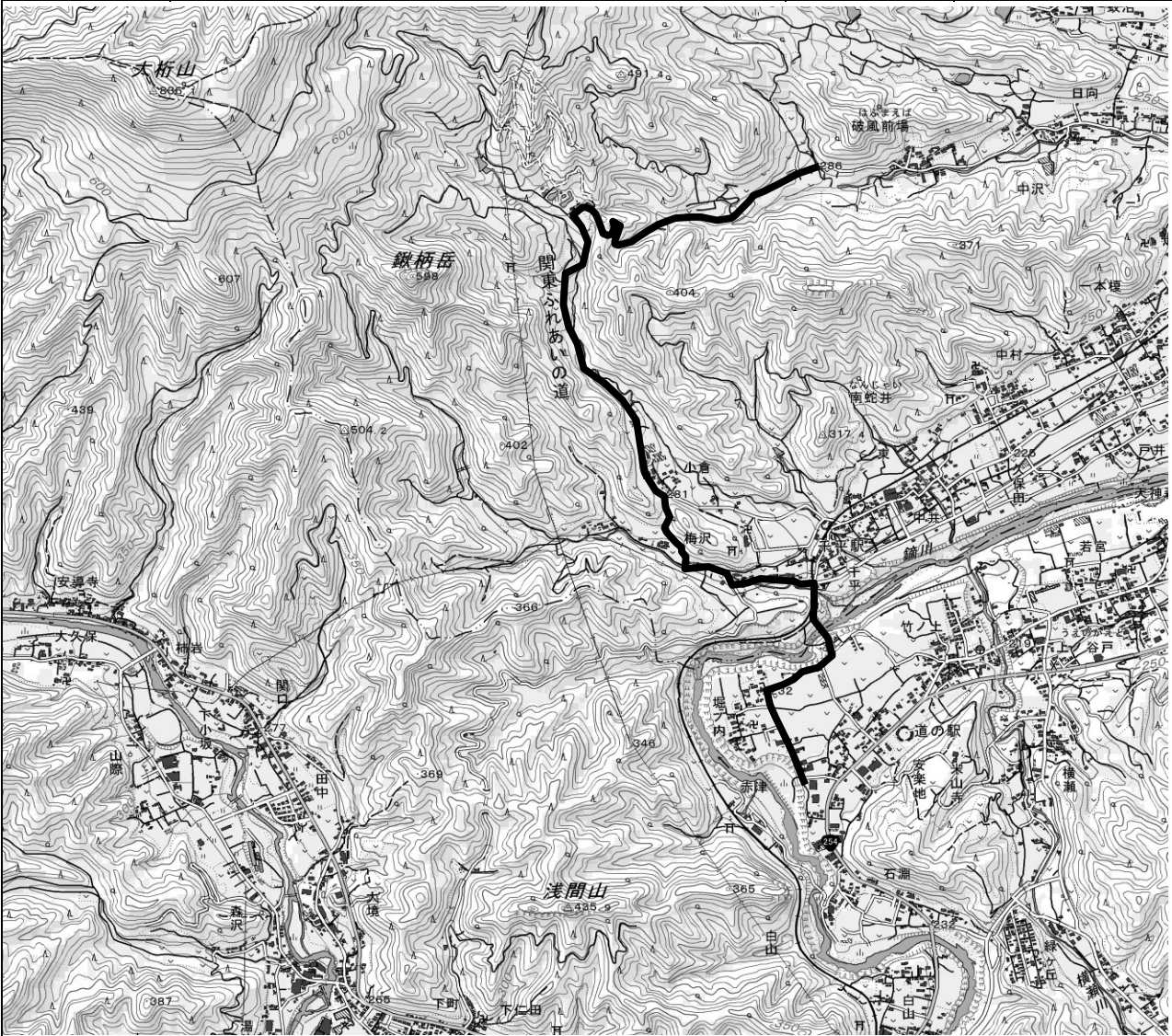
調査者

神宮 義憲

調 査 年 月 日		R4. 6. 4	R4. 6. 4	R4. 6. 27	R4. 6. 27	R4. 12. 19	R4. 12. 19	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 55 〃 6 : 55 (120分)	7 : 00 〃 9 : 00 (120分)	4 : 30 〃 6 : 30 (120分)	6 : 35 〃 8 : 25 (110分)	6 : 50 〃 8 : 50 (120分)	9 : 00 〃 11 : 10 (130分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)	B	Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
		①	②	③	④	⑤	⑥									
5	キジ	○	○	1	1			2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.2	B		
	カルガモ	2	1	7	1			11	2.75	1.40	0.14	2.1	6.6			
	キジバト	3	○	4	1	3	2	8	2.00	1.02	0.10	1.5	4.8	B	5	2.50
	アオサギ	1	○	6	○			7	1.75	0.89	0.09	1.3	4.2			
	ダイサギ			1	○			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6			
10	ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
	トビ						3								3	1.50
	コゲラ					1									1	0.50
	チョウゲンボウ		○				1	○							1	0.50
	モズ	8	4	8	2	2	5	22	5.50	2.81	0.28	4.2	13.3		7	3.50
15	カケス					○	○								○	
	オナガ	○	○	2	1			3	0.75	0.38	0.04	0.6	1.8			
	ハシボソガラス	15	5	11	11	8	13	42	10.50	5.36	0.53	7.9	25.3	A	21	10.50
	ハシブトガラス	1	1	6	2	2	2	10	2.50	1.28	0.13	1.9	6.0	B	4	2.00
	ヤマガラ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6			
20	シジュウカラ	1		1			1	2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.2		1	0.50
	ヒバリ	1	1	1	1			4	1.00	0.51	0.05	0.8	2.4	B		
	ツバメ	17	21	15	9			62	15.50	7.91	0.78	11.7	37.3			
	ヒヨドリ	7	11	11	4	17	13	33	8.25	4.21	0.41	6.2	19.9	B	30	15.00
	ウグイス	1	○	○	○			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6	B		
25	エナガ						2								2	1.00
	メジロ	1	2	1	○	1	4	4	1.00	0.51	0.05	0.8	2.4		5	2.50
	オオヨシキリ	1	2	2	2			7	1.75	0.89	0.09	1.3	4.2	B		
	セッカ			1	2			3	0.75	0.38	0.04	0.6	1.8			
	ムクドリ	12	11	9	2	3	2	34	8.50	4.34	0.43	6.4	20.5		5	2.50
30	クロツグミ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6	A		
	シロハラ						1								1	0.50
	ツグミ					1									1	0.50
	ジョウビタキ					1	2								3	1.50
	キビタキ	○	○		1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6	B		
35	スズメ	47	26	60	33	22	20	166	41.50	21.19	2.08	31.3	100.0	A	42	21.00
	キセキレイ			1			1	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6		1	0.50
	ハクセキレイ	3	5	10	8	4	11	26	6.50	3.32	0.33	4.9	15.7	B	15	7.50
	セグロセキレイ	3	6	4	3	4	12	16	4.00	2.04	0.20	3.0	9.6		16	8.00
	カワラヒワ	10	14	22	9	○	1	55	13.75	7.02	0.69	10.4	33.1		1	0.50
40	シメ						3								3	1.50
	イカル	○				1		○							1	0.50
	ホオジロ	○	○	○	○	1	1	○						B	2	1.00
	コジュケイ	○	○					○								
	カワラバト (ドバト)	1		○	○	16	21	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.6		37	18.50
45	ガビチョウ	1	○	○	1	1	○	2	0.50	0.26	0.03	0.4	1.2	B	1	0.50
	カオジロガビチョウ	1	○	2	1	1	1	4	1.00	0.51	0.05	0.8	2.4		2	1.00
50																
計	範囲内	個体数	137	111	186	96	89	122	530	132.50	67.66	6.63			211	105.50
	種 数	種 数	21	15	23	21	18	22	29						26	
	全 種 数	全 種 数	28	27	28	28	20	24	34						27	

調 査 地 の 概 況

市町村名	富岡市（旧富岡市）	地形図名	下仁田c	調 査 者	清水 伸彦
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	225 ～ 370 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○	広葉樹林（自然林・雑木林）
—	針葉樹林（自然林）
◎	植林地（人工林）
—	草地・草原・ヨシ原
○	農耕地（田・畑・果樹園）
○	里山・疎らな民家
—	市街地・工業団地
○	河川湖沼・河川敷

関東ふれあいの道に沿って進む調査コースである。コースの南端からしばらくは畑と人家である。その後は集落が点在し、車が一台通れるほどの道を進む。スギを中心とした植林地が多いが雑木林も見られる。水場としては、コース沿いに小川や沢があり冬場でも涸れない。不通橋下の鎗川には水鳥類が見られる。

今回の調査では、営巣中のハシボソガラス、コサメビタキ、キセキレイと、ヒヨドリの巣立ち雛が観察され、4種の繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名	下仁田c	調査者	清水 伸彦
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日	R4. 5. 23	R4. 5. 23	R4. 6. 13	R4. 6. 13	R4. 12. 23	R4. 12. 23	繁殖期							越冬期	
	5 : 00 〆 7 : 00 (120分)	7 : 15 〆 9 : 15 (120分)	5 : 00 〆 7 : 00 (120分)	7 : 10 〆 9 : 10 (120分)	8 : 15 〆 10 : 00 (105分)	10 : 10 〆 11 : 55 (105分)	合 計	平 均 (120分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (105分)
天 候	曇	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	〇		〇				〇						B		
マガモ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
カルガモ				〇			〇								
カイツブリ					1									1	0.50
5 キジバト	6	1	4	〇			11	2.75	1.38	0.14	4.6	24.4	B		
アオバト	〇	〇	〇				〇						B		
カワウ			〇	〇		〇	〇							〇	
アオサギ	1		1	1			3	0.75	0.38	0.04	1.2	6.7			
ホトトギス	〇		〇	〇			〇						B		
10 トビ					1									1	0.50
ノスリ			〇				〇								
コゲラ	2	1	2	1	1		6	1.50	0.75	0.08	2.5	13.3		1	0.50
アオゲラ		1	〇				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
ハヤブサ				〇			〇								
15 サンショウクイ		〇		〇			〇								
サンコウチョウ		1	1				2	0.50	0.25	0.03	0.8	4.4	B		
モズ					1									1	0.50
カケス		1		1			2	0.50	0.25	0.03	0.8	4.4			
ハシボソガラス	1	2	1		〇	2	4	1.00	0.50	0.05	1.7	8.9	A	2	1.00
20 ハシブトガラス	3	2	〇	2	2	2	7	1.75	0.88	0.09	2.9	15.6		4	2.00
ヤマガラ	2	2	1		1	4	5	1.25	0.63	0.06	2.1	11.1		5	2.50
ヒガラ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
シジュウカラ	4		2	2	4	3	8	2.00	1.00	0.10	3.3	17.8		7	3.50
ヒバリ	〇	2	〇	1			3	0.75	0.38	0.04	1.2	6.7	B		
25 ツバメ	2	2	5	5			14	3.50	1.75	0.18	5.8	31.1	B		
ヒヨドリ	9	11	11	14	10	9	45	11.25	5.63	0.56	18.7	100.0	A	19	9.50
ウグイス	7	8	5	5			25	6.25	3.13	0.31	10.4	55.6	B		
ヤブサメ	1		1	1			3	0.75	0.38	0.04	1.2	6.7	B		
エナガ					3									3	1.50
30 メジロ	4	2	3	3	2	1	12	3.00	1.50	0.15	5.0	26.7	B	3	1.50
ムクドリ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
ジョウビタキ					2									2	1.00
コサメビタキ	1		1	1			3	0.75	0.38	0.04	1.2	6.7	A		
キビタキ	2	2	3	2			9	2.25	1.13	0.11	3.7	20.0	B		
35 オオルリ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
スズメ	2	5	1	4	2		12	3.00	1.50	0.15	5.0	26.7		2	1.00
キセキレイ	5	2	2	1			10	2.50	1.25	0.13	4.1	22.2	A		
ハクセキレイ	3		1		4	2	4	1.00	0.50	0.05	1.7	8.9		6	3.00
セグロセキレイ	1	2		1	〇	1	4	1.00	0.50	0.05	1.7	8.9	B	1	0.50
40 カワラヒワ	5	3	8	4	2	8	20	5.00	2.50	0.25	8.3	44.4		10	5.00
ホオジロ	1	1	3	1	〇	1	6	1.50	0.75	0.08	2.5	13.3	B	1	0.50
アオジ					3	1								4	2.00
コジュケイ	1	〇					1	0.25	0.13	0.01	0.4	2.2			
カワラバト (ドバト)					1									1	0.50
45 ガビチョウ	4	3	5	5		1	17	4.25	2.13	0.21	7.1	37.8	B	1	0.50
50															
計	個 体 数	68	55	62	56	40	35	241	60.25	30.13	3.01			75	37.50
	種 数	23	21	21	20	16	12	30						20	
	全 種 数	27	24	29	26	19	13	38						21	

富岡市（旧妙義町）鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

富岡市（旧妙義町）に含まれる調査地は下表の 1 メッシュである。平地から低山帯に属し、植林地・雑木林のほか、農耕地や集落など、里山的環境を中心とした地域である。周辺の環境に大きな変化はなく、前回と同じコースで調査を実施した。

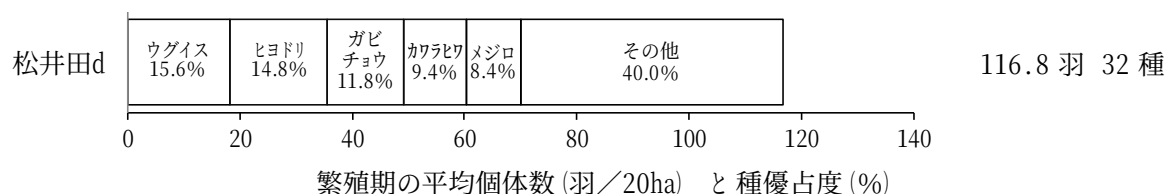
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
松井田d	250 ～ 370	○	○	◎	—	○	○	—	—	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、富岡市（旧妙義町）全体で繁殖期に 32 種、越冬期に 29 種、年間では 44 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 36 種、前回（平成 29 年度実施）は年間 43 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。調査地の環境を反映して、ウグイスやヒヨドリ、メジロなどが優占した。周辺の調査メッシュと比較して種数は平均的な値であったが、個体数は多かった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種のアオバトとサンコウチョウが記録された。このうちアオバトは周辺で繁殖している可能性がある（繁殖可能性 B ランク）。いずれも良好な環境の指標として重要である。一方、今回も特定外来生物のガビチョウとカオジロガビチョウが記録された（ガビチョウは繁殖可能性 A ランク）。県内にガビチョウ類が定着して久しいが、現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていない。ただし、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様、調査コースの環境を反映して、ヒヨドリやメジロなど人里の種が優占した。周辺の調査メッシュと比較して、種数・個体数ともにやや多かった。また、県 RDB 掲載種のアカハラとカシラダカが記録され、特定外来生物のガビチョウは越冬期にも複数個体が記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
松井田d	カララビワ	ヒヨドリ	メジロ	カケス	ウグイス	116.5	29

^{*}同率の場合は分類順に5種まで掲載

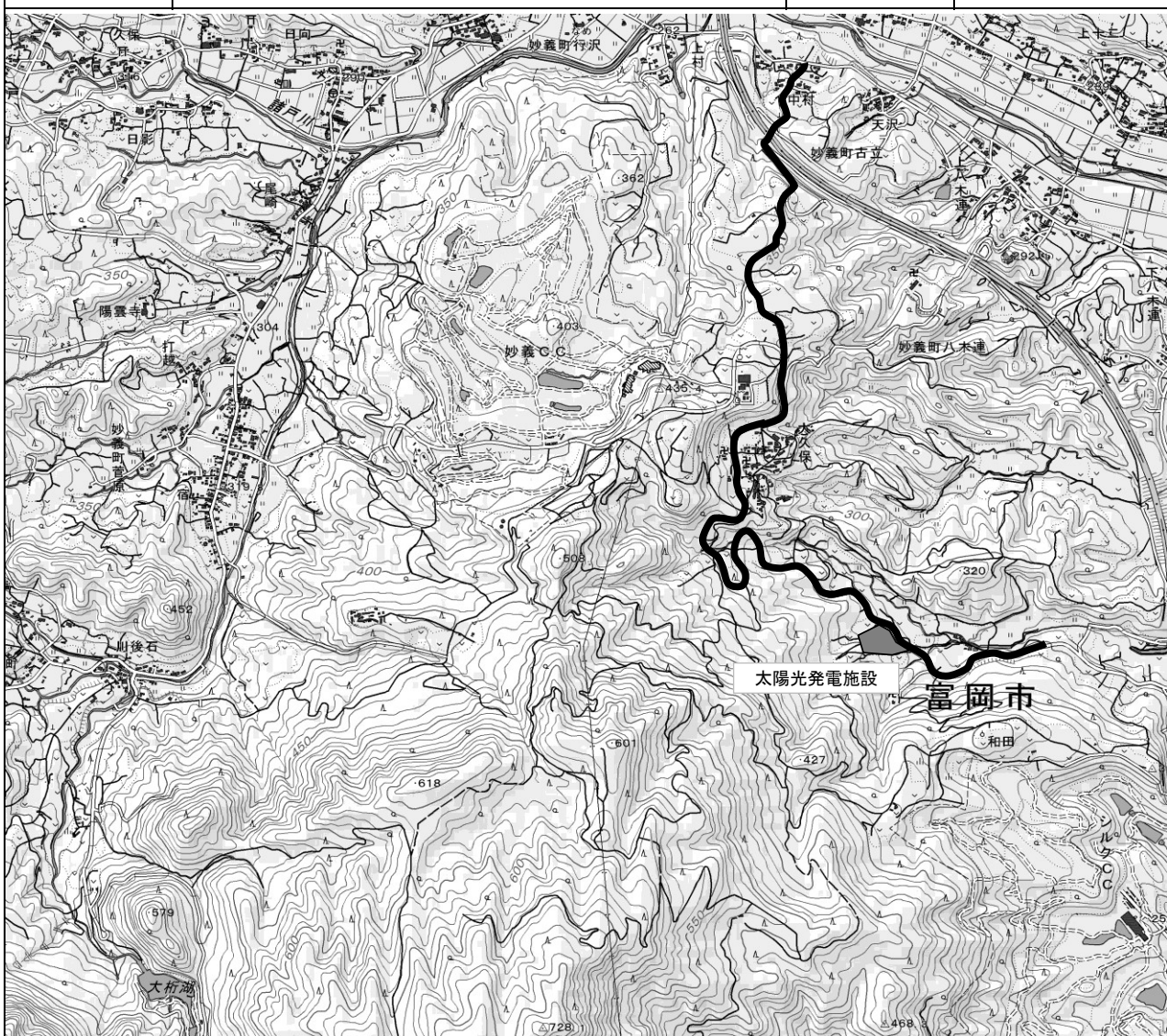
(3)過去の調査結果との比較

最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。種数・個体数ともに増減があるものの、大きな変化はみられなかった。外来種のガビチョウ類 2 種、特にガビチョウは個体数が増加傾向にあると思われた。この 2 種が同所的に生息する場所はあまり多くないため、両種の生息状況が今後どう変化するのか興味深い。また、現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていないが、生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、今後も注目していく必要がある。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、カワウ、サンコウチョウ、イワツバメ、ムクドリ、ミヤマホオジロの 5 種であった。カワウとミヤマホオジロは過去の調査では記録がなく、本調査では今回が初めての記録となった。ミヤマホオジロは県内では個体数が少ない種である。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはアカゲラとツグミの 2 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)			種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
松井田d	21	31	32	120.8	109.3	116.8	31	30	29	133.5	91.0	116.5

市町村名	富岡市（旧妙義町）	地形図名	松井田d	調 査 者	田澤 一郎
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	250 ～ 370 m



-84-

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

松井田d

調査者

田澤 一郎

調 査 年 月 日			R4. 6. 1	R4. 6. 1	R4. 6. 29	R4. 6. 29	R4. 12. 27	R4. 12. 27	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			4 : 55 6 : 40 (105分)	7 : 10 8 : 55 (105分)	4 : 55 6 : 50 (115分)	7 : 05 9 : 05 (120分)	6 : 35 8 : 35 (120分)	9 : 00 10 : 45 (105分)	合 計	平 均 (111分)	密 度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (113分)	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦								
	キジ			2	2	1				5	1.25	0.67	0.06	1.1	6.8			
	キジバト			4	2	6	5	2	2	17	4.25	2.29	0.21	3.6	23.3	4	2.00	
	アオバト			○		○				○						B		
	カワウ				○					○								
	ホトトギス			3	3	1	1			8	2.00	1.08	0.10	1.7	11.0	B		
	トビ				3					3	0.75	0.40	0.04	0.6	4.1			
	コゲラ				1	1		2	2	2	0.50	0.27	0.03	0.4	2.7	4	2.00	
	アオゲラ				○		1	2	1	1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.4	3	1.50	
	サンコウチョウ					○	1			1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.4			
10	モズ					2	3	4	2	5	1.25	0.67	0.06	1.1	6.8	6	3.00	
	カケス							7	5							12	6.00	
	ハシボソガラス			5	7	2	1	1	○	15	3.75	2.02	0.19	3.2	20.5	1	0.50	
	ハシブトガラス			1	3	3	4	3	2	11	2.75	1.48	0.14	2.4	15.1	5	2.50	
	ヤマガラ			1		1				2	0.50	0.27	0.03	0.4	2.7	B		
	シジュウカラ			3	2	3	3	7	2	11	2.75	1.48	0.14	2.4	15.1	B	9	4.50
	ツバメ			8	7	5	10			30	7.50	4.04	0.38	6.4	41.1	A		
	イワツバメ			1	1					2	0.50	0.27	0.03	0.4	2.7			
	ヒヨドリ			17	18	19	15	20	24	69	17.25	9.30	0.86	14.8	94.5		44	22.00
	ウグイス			20	15	18	20	5	4	73	18.25	9.84	0.91	15.6	100.0	B	9	4.50
20	ヤブサメ			1	2	2				5	1.25	0.67	0.06	1.1	6.8	B		
	エナガ					5		9		5	1.25	0.67	0.06	1.1	6.8	9	4.50	
	メジロ			6	13	6	14	10	2	39	9.75	5.26	0.49	8.4	53.4	B	12	6.00
	ムクドリ			○						○								
	クロツグミ					○				○								
	シロハラ								1							1	0.50	
	アカハラ							1								1	0.50	
	ルリビタキ							7	1							8	4.00	
	ジョウビタキ							5	3							8	4.00	
	キビタキ			○	1	1	3			5	1.25	0.67	0.06	1.1	6.8	B		
30	カヤクグリ							1	1							2	1.00	
	スズメ			3	2	6	2	1		13	3.25	1.75	0.16	2.8	17.8	1	0.50	
	ハクセキレイ								2							2	1.00	
	セグロセキレイ					1			1	1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.4	1	0.50	
	カワラヒワ			13	10	20	1	68	2	44	11.00	5.93	0.55	9.4	60.3	B	70	35.00
	ベニマシコ							1	○							1	0.50	
	シメ							2	1							3	1.50	
	イカル				1			1		1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.4	1	0.50	
	ホオジロ			8	11	10	8	2	1	37	9.25	4.99	0.46	7.9	50.7	A	3	1.50
	カシラダカ								1							1	0.50	
40	ミヤマホオジロ								1							1	0.50	
	アオジ							2	1							3	1.50	
	コジュケイ			3	2	1				6	1.50	0.81	0.08	1.3	8.2			
	ガビチョウ			13	10	19	13	5	3	55	13.75	7.42	0.69	11.8	75.3	A	8	4.00
	カオジロガビチョウ			1						1	0.25	0.13	0.01	0.2	1.4			
50																		
	計	範囲内	個体数	113	116	133	105	168	65	467	116.75	62.97	5.84				233	116.50
			種 数	19	21	22	17	24	23	28							29	
		全 種 数	22	23	25	17	24	25	32							29		

下仁田町鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

下仁田町に含まれる調査地は下表の 6 メッシュである。いずれも低山帯から山地帯下部に属する。神ヶ原 c は山の中腹の林道、その他は沢沿いの調査コースである。いずれも雑木林と植林地を中心に、農耕地や集落を含む里山的環境を有する。調査コースは全メッシュとも前回と同じコースで実施した。

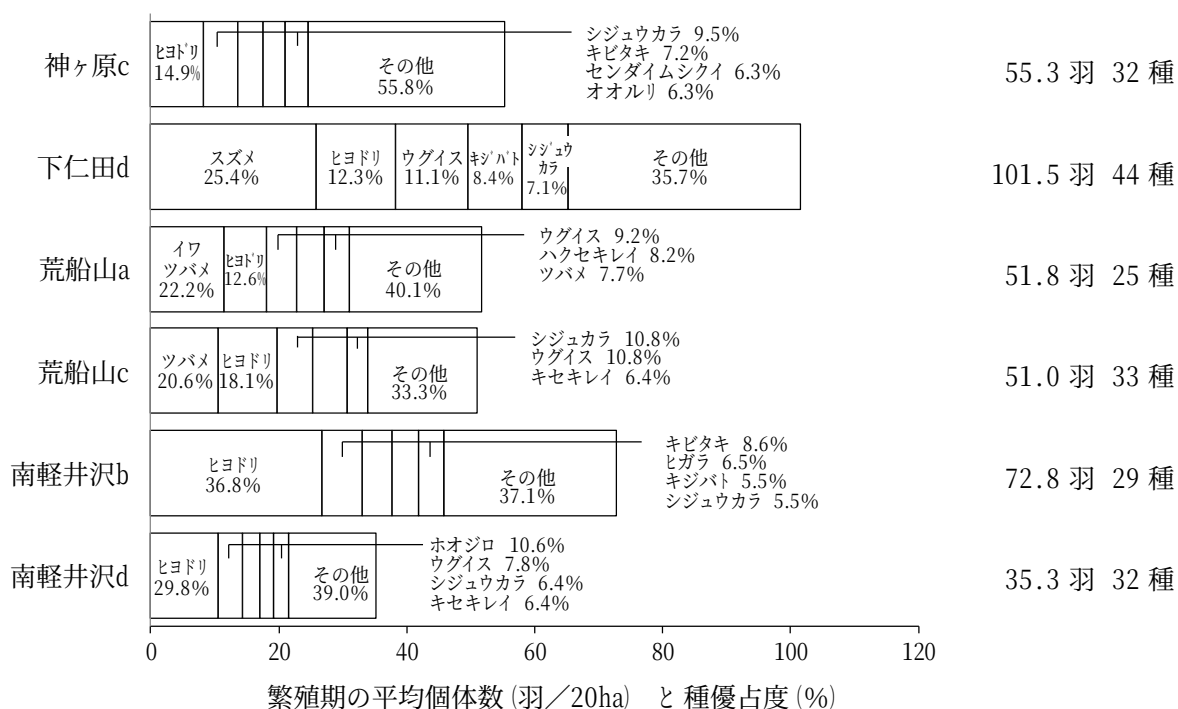
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
神ヶ原c	640 ～ 950	◎	○	◎	—	○	—	—	—	前回と同じ
下仁田d	270 ～ 470	○	—	◎	—	○	○	—	◎	前回と同じ
荒船山a	330 ～ 550	○	○	◎	—	○	◎	—	○	前回と同じ
荒船山c	430 ～ 680	○	—	◎	—	○	◎	—	○	前回と同じ
南軽井沢b	450 ～ 700	◎	○	○	—	○	—	—	○	前回と同じ
南軽井沢d	590 ～ 800	○	—	◎	○	◎	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、下仁田町全体で繁殖期に 61 種、越冬期に 49 種、年間では 76 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 70 種、前回（平成 29 年度実施）は年間 65 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。いずれのメッシュも環境を反映して、スズメやヒヨドリ、ツバメといった里山に生息する種が優占した。近隣の調査メッシュと比較すると、下仁田 d は個体数・種数ともにやや多かったが、他のメッシュは平均的な値であっ



た。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種が、アオバト、コサギ、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、ヤマセミ、サンショウクイ、サンコウチョウ、キバシリ、マミジロ、アカハラ、コサメビタキ、ビンズイ、ノジコの 14 種記録された。このうち、サンショウクイは環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に、ノジコは準絶滅危惧に指定されている。いずれも良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物のガビチョウが全メッシュで記録され、下仁田 d では繁殖が確認された。前回記録されたソウシチョウは、今回は記録されなかった。

(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様に、ヒヨドリやシジュウカラ、ホオジロ、スズメなど、人里の種が優占したほか、冬鳥のカシラダカが上位に入った。また、県 RDB 掲載種のウズラ、ゴイサギ、ハイタカ、クマタカ、キバシリ、カシラダカが記録された。生態系の食物連鎖の上位種である猛禽類が 2 種記録され、個体数の少ないウズラが複数記録されたことから、当地の環境が良好な状態にあることが示唆された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
神ヶ原c	コガラ	シジュウカラ	エナガ	カケス	コゲラ	44.5	22
下仁田d	スズメ	ヒガラ	カシラダカ	シジュウカラ	キジバト	102.5	29
荒船山a	スズメ	カシラダカ	ヒヨドリ	シジュウカラ	セグロセキレイ	75.0	19
荒船山c	スズメ	ヒヨドリ	ハシブトガラス	カシラダカ	ウグイス	25.5	15
南軽井沢b	ヒガラ	シジュウカラ	ヒヨドリ	エナガ	カシラダカ	48.0	18
南軽井沢d	ヒヨドリ	シジュウカラ	ウズラ	ジョウビタキ	カシラダカ	24.0	14

＊同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

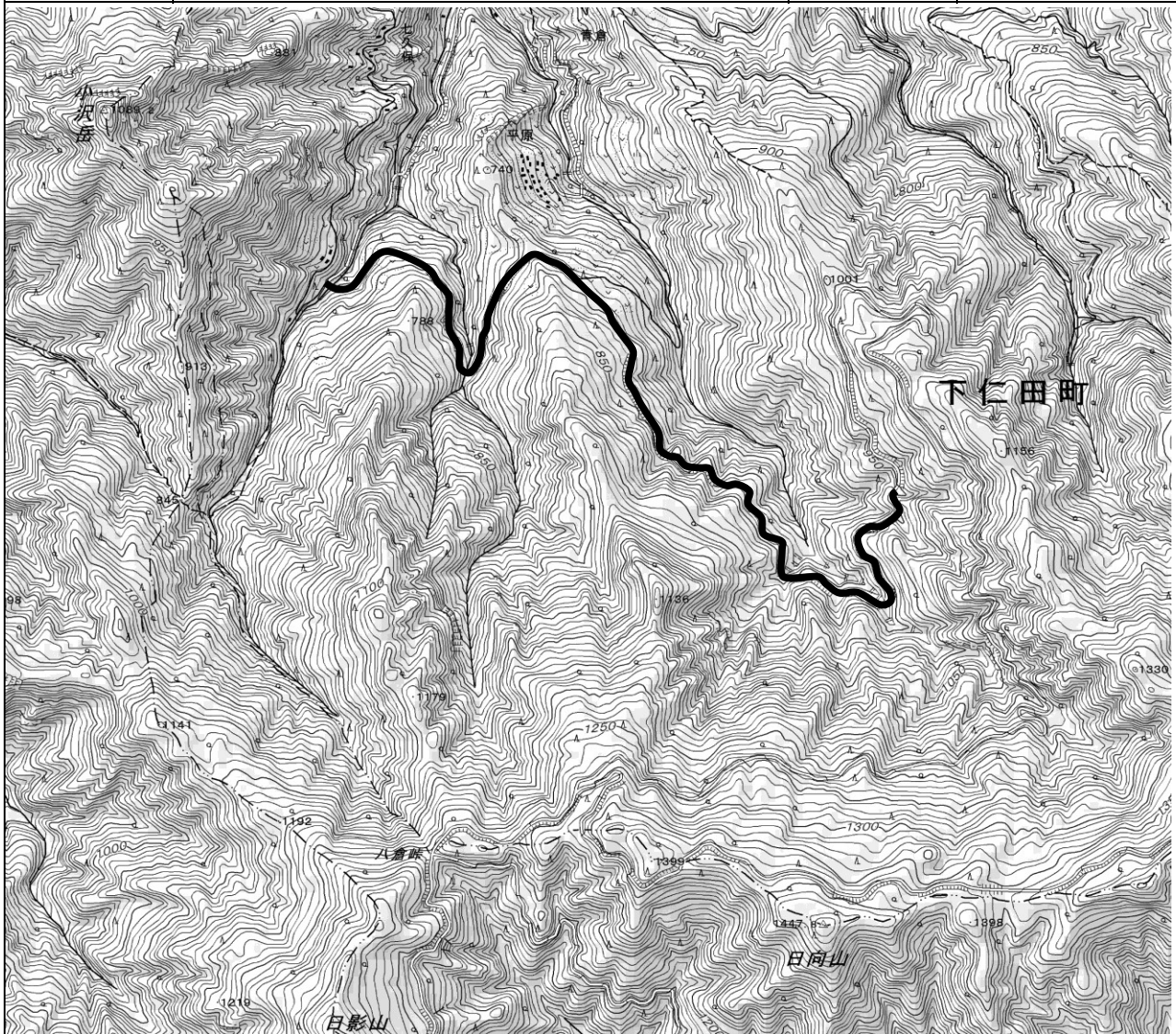
最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。南軽井沢 b の繁殖期の個体数が増加傾向を示し、荒船山 c の越冬期の個体数が減少したが、下仁田町全体では大きな変化はなかった。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、カワウ、ヤマセミ、オオヨシキリ、キバシリ、マミジロ、アカハラ、ビンズイ、ミヤマホオジロ、ノジコの 9 種であった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはオナガ、シロハラ、マヒワの 3 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
神ヶ原c	28	36	32	61.3	54.3	55.3	21	19	22	67.5	27.5	44.5
下仁田d	35	40	44	91.8	116.8	101.5	28	28	29	98.0	84.5	102.5
荒船山a	33	28	25	80.3	59.0	51.8	33	18	19	147.5	28.0	75.0
荒船山c	36	33	33	81.5	50.8	51.0	27	20	15	64.5	58.0	25.5
南軽井沢b	21	22	29	37.0	56.3	72.8	16	13	18	23.5	24.0	48.0
南軽井沢d	35	37	32	46.5	46.0	35.3	19	12	14	74.5	24.5	24.0

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	神ヶ原c	調 査 者	一倉 行雄
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	640 ～ 950 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎	広葉樹林（自然林・雑木林）	コースは山の中腹を走る舗装された林道で、周囲の植生はスギ、ヒノキなどの人工林と落葉広葉樹の自然林が混生しており、一部に農耕地もある。水量の豊富な沢が3本流れている。ムラサキシキブなどの食餌植物もあるが、多くはない。自然林が比較的多く、環境は良好である。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
○	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
—	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
—	河川湖沼・河川敷	

<備考>

調査コースは前回と同じ。繁殖期1回目前半は霧雨の中で実施。コース沿いの林床は以前より下草が少なく、シカの食害と思われる。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

神ヶ原c

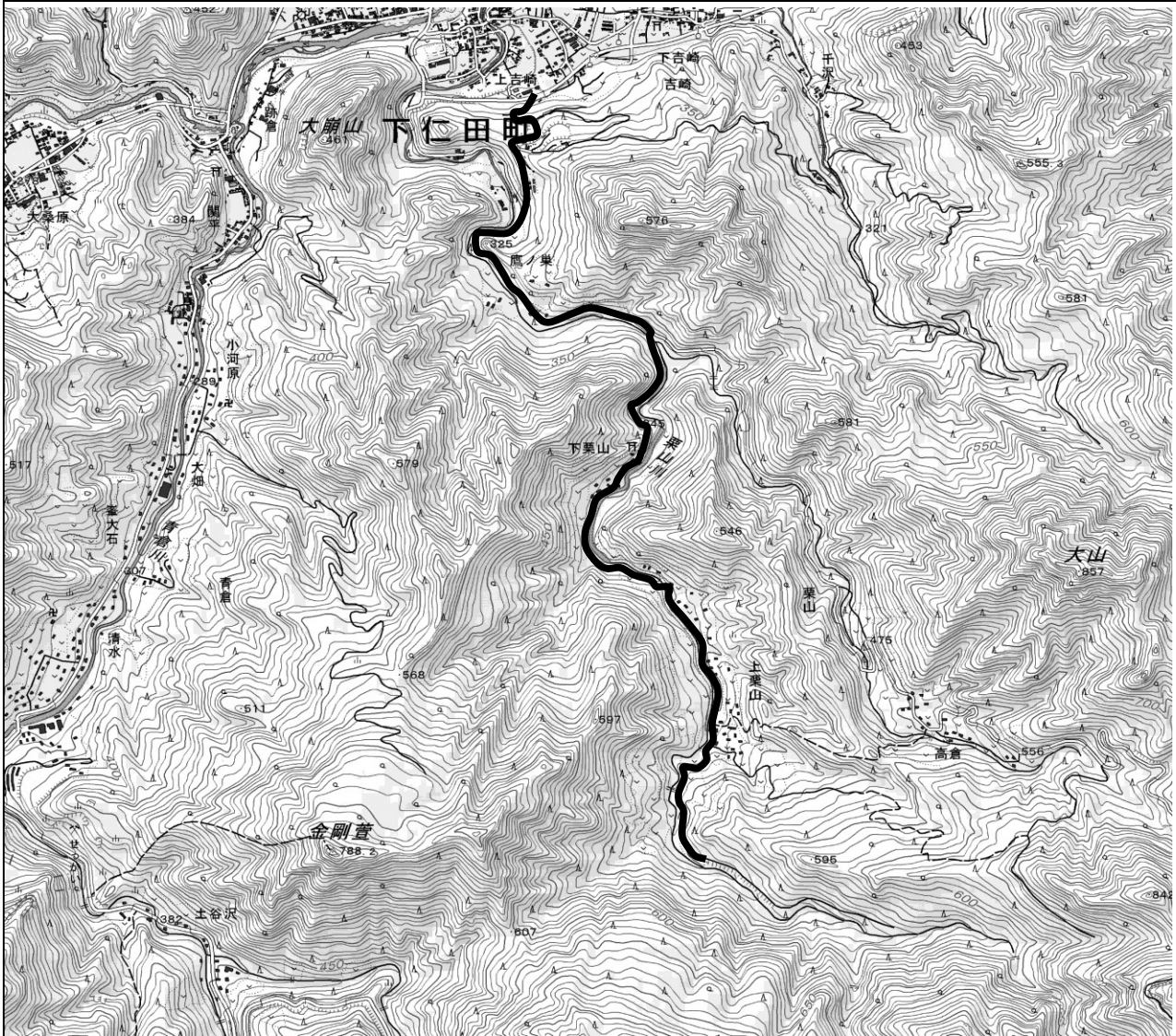
調査者

一倉 行雄

調 査 年 月 日	R4.5.22	R4.5.22	R4.6.3	R4.6.3	R4.12.3	R4.12.3	繁殖期							越冬期	
	6:55 9:10 (135分)	9:15 11:00 (105分)	6:45 8:40 (115分)	8:45 10:20 (95分)	7:40 9:10 (90分)	9:15 11:00 (105分)	合計	平均	密度		種優 占度	相対出 現頻度	繁殖 可能性 ランク	合計	平均
天 候	曇	曇	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦/4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧/2
種類 / 結果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
ヤマドリ	2	2	1				5	1.25	0.67	0.06	2.3	15.2	B		
キジバト	3		2				5	1.25	0.67	0.06	2.3	15.2	B		
アオバト	○	1	1	○			2	0.50	0.27	0.03	0.9	6.1			
ジュウイチ			1	1			2	0.50	0.27	0.03	0.9	6.1			
5 ツツドリ	○		○	1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.0	B		
コゲラ		1		1	2	3	2	0.50	0.27	0.03	0.9	6.1		5	2.50
アカゲラ	2			1	1		3	0.75	0.40	0.04	1.4	9.1		1	0.50
アオゲラ	1	4	2	1	2		8	2.00	1.07	0.10	3.6	24.2		2	1.00
サンショウクイ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.0			
10 カケス	5		3	2	5		10	2.50	1.33	0.13	4.5	30.3		5	2.50
ハシブトガラス	1	○	1	1	○	1	3	0.75	0.40	0.04	1.4	9.1		1	0.50
キクイタダキ						3								3	1.50
コガラ		2	2	1	10	7	5	1.25	0.67	0.06	2.3	15.2	B	17	8.50
ヤマガラ	1	2	1	1	3		5	1.25	0.67	0.06	2.3	15.2	B	3	1.50
15 ヒガラ	5	3	2	3	1	3	13	3.25	1.73	0.16	5.9	39.4	B	4	2.00
シジュウカラ	4	5	5	7	9	7	21	5.25	2.80	0.26	9.5	63.6	B	16	8.00
ヒヨドリ	9	5	6	13	2		33	8.25	4.40	0.41	14.9	100.0		2	1.00
ウグイス	3	2	2	3			10	2.50	1.33	0.13	4.5	30.3	B		
ヤブサメ		1	2	1			4	1.00	0.53	0.05	1.8	12.1	B		
20 エナガ				2		8	2	0.50	0.27	0.03	0.9	6.1		8	4.00
センダイムシクイ	3	5	2	4			14	3.50	1.87	0.18	6.3	42.4	B		
メジロ	2	3	4	4		4	13	3.25	1.73	0.16	5.9	39.4	B	4	2.00
ゴジュウカラ					1	1								2	1.00
ミソサザイ	1	3	1	1	1	1	6	1.50	0.80	0.08	2.7	18.2	B	2	1.00
25 マミジロ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.0			
アカハラ				1			1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.0			
ルリビタキ					1									1	0.50
ジョウビタキ					1									1	0.50
キビタキ	4	5	5	2			16	4.00	2.13	0.20	7.2	48.5	B		
30 オオルリ	5	3	3	3			14	3.50	1.87	0.18	6.3	42.4	B		
カヤクグリ					2									2	1.00
キセキレイ	1	2					3	0.75	0.40	0.04	1.4	9.1			
ビンズイ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	3.0			
カワラヒワ		3	1			1	4	1.00	0.53	0.05	1.8	12.1		1	0.50
35 イカル	1		1	1			3	0.75	0.40	0.04	1.4	9.1	B		
ホオジロ		2	2	2	4		6	1.50	0.80	0.08	2.7	18.2	B	4	2.00
カシラダカ					2									2	1.00
ミヤマホオジロ					3									3	1.50
ガビチョウ	1	1	2				4	1.00	0.53	0.05	1.8	12.1	B		
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	55	57	52	57	50	39	221	55.25	29.47	2.76		89	44.50
		種 数	20	22	23	23	17	11	32					22	
		全 種 数	22	23	24	24	18	11	32					22	

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	下仁田d	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	270 ~ 470 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

◎ 河川湖沼・河川敷

栗山川沿いのコースで、両側の斜面はスギ、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹とコナラ、サワグルミ、トチノキ、カエデ等の広葉樹に被われている。鳥類の生息環境としては良好であるが、上栗山の集落では川が三面護岸されており、溪流にすむ鳥類には良い環境とはいえない。

今回の調査では、営巣中のキジバト、シジュウカラ、ヒヨドリなど、9種の繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

下仁田d

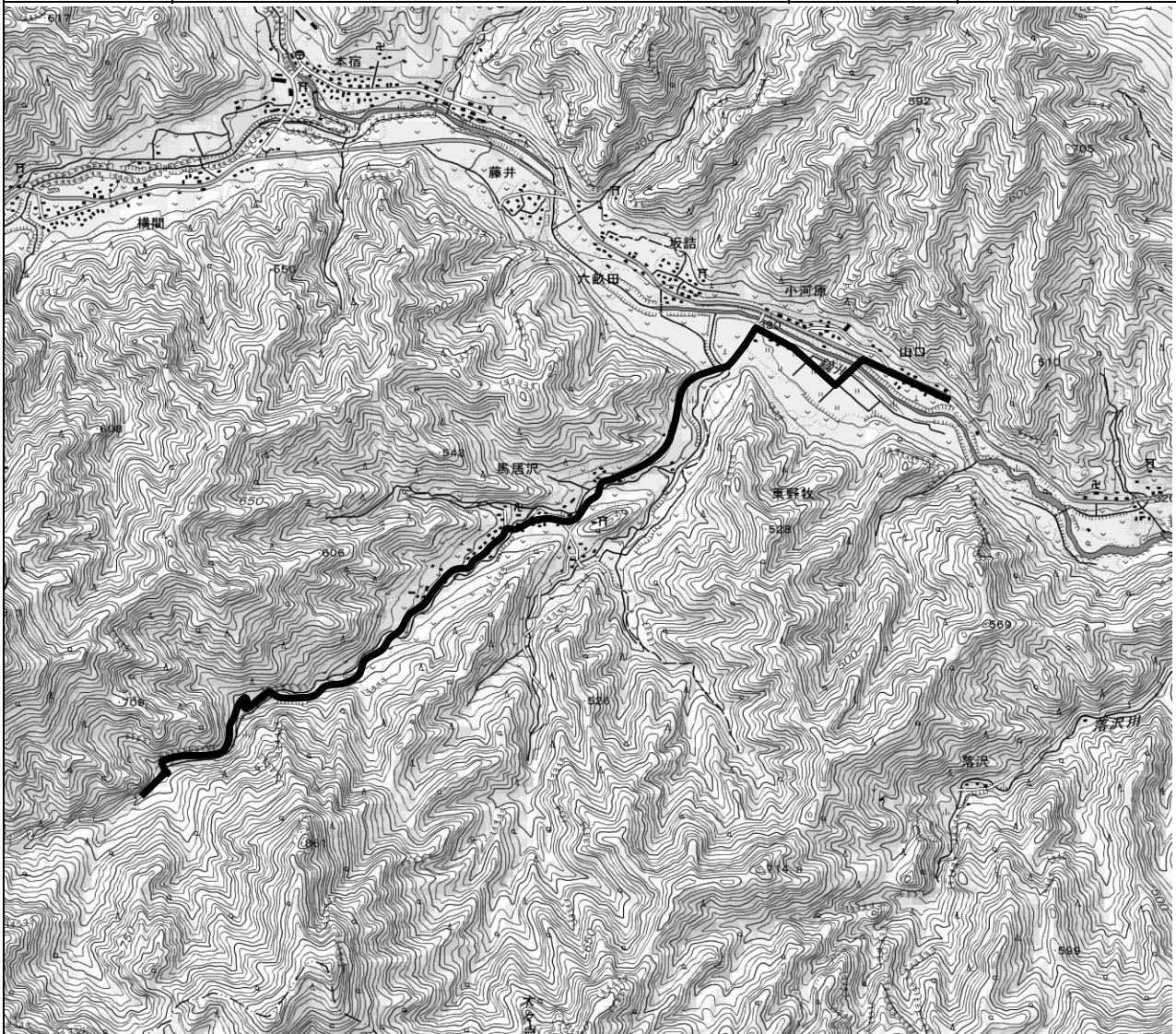
調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日		R4. 5. 28	R4. 5. 28	R4. 7. 3	R4. 7. 3	R4. 12. 4	R4. 12. 4	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 00 〃 6 : 00 (120分)	6 : 30 〃 8 : 35 (125分)	4 : 00 〃 6 : 05 (125分)	6 : 30 〃 8 : 40 (130分)	7 : 00 〃 9 : 10 (130分)	9 : 30 〃 11 : 35 (125分)	合 計	平 均 (125分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (128分)
天 候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	キジ	3	3	1		〇	2	7	1.75	0.84	0.09	1.8	6.8		2	1.00
	カルガモ	〇				4	5	〇							9	4.50
	キジバト	12	8	8	6	4	6	34	8.50	4.08	0.43	8.6	33.0	A	10	5.00
	アオバト	〇	〇	〇				〇						B		
	カワウ						〇								〇	
10	ゴイサギ					3									3	1.50
	アオサギ	〇	〇		〇	1		〇							1	0.50
	コサギ	〇		〇				〇								
	ホトトギス	〇	〇	〇	〇			〇						B		
	ツツドリ	〇		〇	〇			〇						B		
15	カッコウ	〇	〇	〇	〇			〇						B		
	トビ			〇		〇	〇	〇							〇	
	ノスリ	〇	〇					〇								
	ヤマセミ			1				1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.0			
	コゲラ	1		1		1	1	2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9		2	1.00
20	アカゲラ	1	1	1				3	0.75	0.36	0.04	0.8	2.9			
	サンショウクイ	2	1	2	2			7	1.75	0.84	0.09	1.8	6.8	B		
	モズ	1			1	1		2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9		1	0.50
	ハシボソガラス	1	〇	〇	〇	〇	〇	1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.0		〇	
	ハシブトガラス	〇	〇	2				2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9			
25	ヤマガラ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.0			
	ヒガラ					8	15								23	11.50
	シジュウカラ	6	6	8	9	4	13	29	7.25	3.48	0.36	7.3	28.2	A	17	8.50
	ツバメ	3	4	8	8			23	5.75	2.76	0.29	5.8	22.3	B		
	ヒヨドリ	13	11	12	14	2	6	50	12.50	6.00	0.63	12.6	48.5	A	8	4.00
30	ウグイス	7	8	17	13	3	6	45	11.25	5.40	0.56	11.3	43.7	B	9	4.50
	ヤブサメ		1		1			2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9	B		
	エナガ		2	9			6	11	2.75	1.32	0.14	2.8	10.7	B	6	3.00
	センダイムシクイ	2	2	1	1			6	1.50	0.72	0.08	1.5	5.8	B		
	メジロ	1		1			3	2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9	B	3	1.50
35	オオヨシキリ				1			1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.0			
	キバシリ						1								1	0.50
	ミソサザイ	2	2	2	1	2	3	7	1.75	0.84	0.09	1.8	6.8	B	5	2.50
	ムクドリ	3	2	2	2			9	2.25	1.08	0.11	2.3	8.7	A		
	カワガラス	2	2	2	2	3	2	8	2.00	0.96	0.10	2.0	7.8		5	2.50
40	クロツグミ	1	1					2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9			
	ツグミ					6	3								9	4.50
	コルリ			1	1			2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9			
	ルリビタキ					2									2	1.00
	ジョウビタキ					2	2								4	2.00
45	コサメビタキ				1			1	0.25	0.12	0.01	0.3	1.0			
	キビタキ	3	2	1	1			7	1.75	0.84	0.09	1.8	6.8	A		
	オオルリ	2	2	2	3			9	2.25	1.08	0.11	2.3	8.7	A		
	スズメ	28	28	23	24	24	29	103	25.75	12.36	1.29	25.9	100.0	A	53	26.50
	キセキレイ	2	1	2	1	1	1	6	1.50	0.72	0.08	1.5	5.8	A	2	1.00
50	カワラヒワ				2			2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9			
	ベニマシコ					2	2								4	2.00
	シメ						2								2	1.00
	イカル		1	1				2	0.50	0.24	0.03	0.5	1.9	B		
	ホオジロ	3	2	2	3			10	2.50	1.20	0.13	2.5	9.7	B		
計	個体数	100	90	110	97	73	108	397	99.25	47.64	4.96				181	90.50
	種 数	23	21	24	21	18	19	32							23	
	全 種 数	32	28	31	26	21	22	41							26	

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	荒船山a	調 査 者	土屋 等
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	330 ~ 550 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース ☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☒ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☐ 農耕地（田・畑・果樹園）☒ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

国道沿いの小集落から西牧川を渡り、馬居沢の集落を通過して奥の林道へ続く調査コースである。コース上には雑木林や農耕地があり、山あいの里山的環境となっている。コースの西側約1kmの区間はスギを主とした植林地である。馬居沢は冬でも涸れることはない。ガビチョウが増え、ヒヨドリやツバメは周辺を含めても少ないように思われた。

今回の調査では、営巣中のカワラヒワが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。沢沿いでカジカガエルの声が聞こえた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

荒船山a

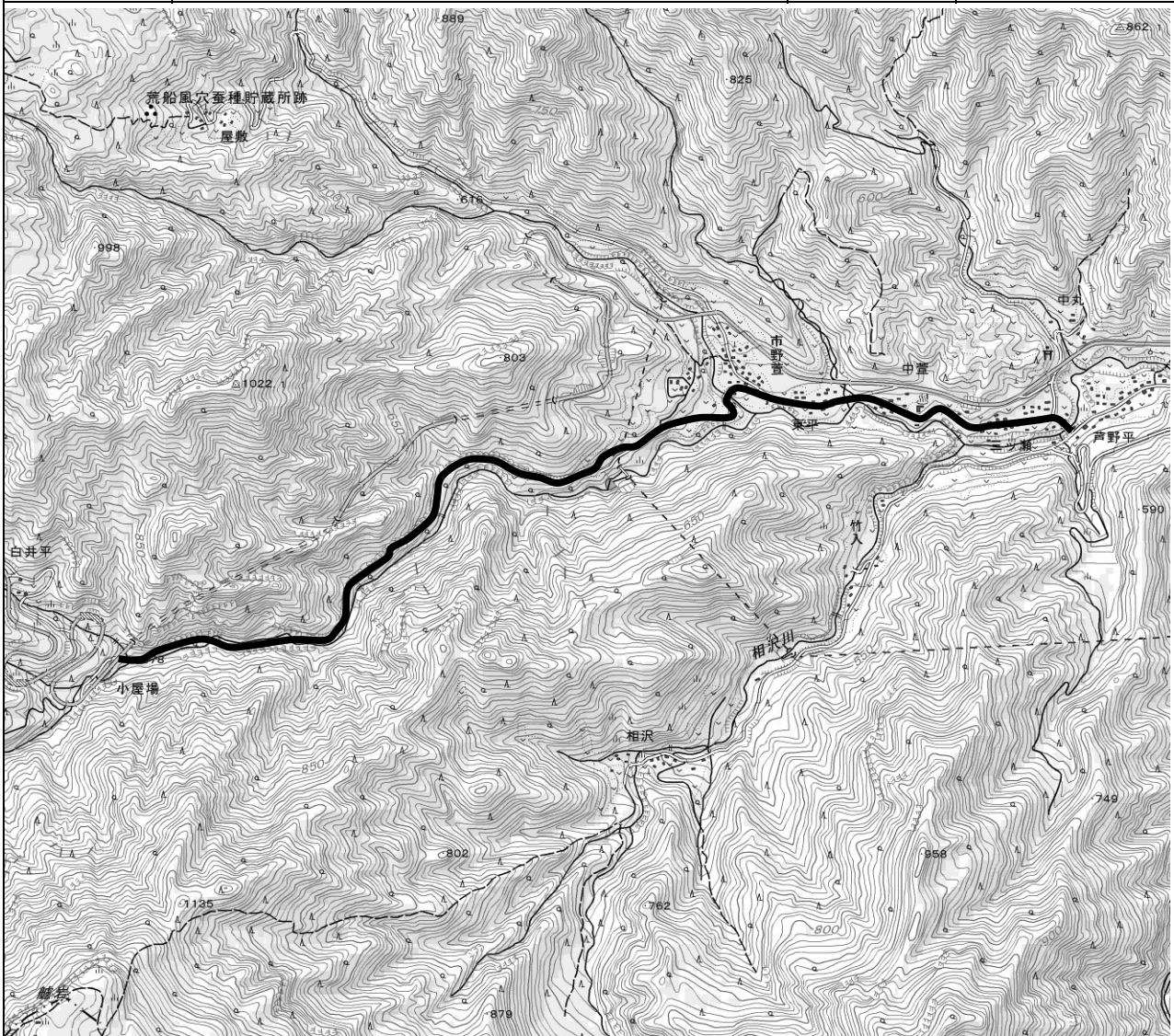
調査者

土屋 等

調査年月日									繁殖期							越冬期	
調査時間		R4. 5. 22	R4. 5. 22	R4. 6. 11	R4. 6. 11	R4. 12. 18	R4. 12. 18	合計	平均	密度		種優占度	相対出現頻度	繁殖可能性ランク	合計	平均	
		6 : 40 ＼ 8 : 40 (120分)	8 : 50 ＼ 10 : 40 (110分)	7 : 10 ＼ 9 : 10 (120分)	9 : 20 ＼ 11 : 05 (105分)	7 : 15 ＼ 9 : 05 (110分)	9 : 20 ＼ 11 : 10 (110分)										(114分)
天 候		曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種類 / 結果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
5	キジ	2	1	2	1			6	1.50	0.79	0.08	2.9	13.0	B			
	カルガモ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
	キジバト	3	2	5	2	2		12	3.00	1.58	0.15	5.8	26.1	B	2	1.00	
	アオサギ	1						1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
	ダイサギ					1	1								2	1.00	
10	トビ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
	コゲラ			1				1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
	アカゲラ			1		1	2	1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2		3	1.50	
	アオゲラ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
	モズ					1									1	0.50	
15	カケス	3					2	3	0.75	0.40	0.04	1.4	6.5		2	1.00	
	ハシボソガラス	2	3	3	2	1		10	2.50	1.32	0.13	4.8	21.7		1	0.50	
	ハシブトガラス	1				1	3	1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2		4	2.00	
	シジュウカラ	3			1	2	11	4	1.00	0.53	0.05	1.9	8.7		13	6.50	
	ツバメ	4	4	2	6			16	4.00	2.11	0.20	7.7	34.8	B			
20	イワツバメ	10	4	20	12			46	11.50	6.07	0.58	22.2	100.0				
	ヒヨドリ	3	8	10	5	12	5	26	6.50	3.43	0.33	12.6	56.5		17	8.50	
	ウグイス	6	4	4	5			19	4.75	2.51	0.24	9.2	41.3	B			
	カワガラス					1									1	0.50	
	トラツグミ		1					1	0.25	0.13	0.01	0.5	2.2				
25	スズメ	2	7		4	3	50	13	3.25	1.71	0.16	6.3	28.3		53	26.50	
	キセキレイ		2	3			1	5	1.25	0.66	0.06	2.4	10.9		1	0.50	
	ハクセキレイ	5	5	5	2		1	17	4.25	2.24	0.21	8.2	37.0		1	0.50	
	セグロセキレイ		2			2	2	2	0.50	0.26	0.03	1.0	4.3		4	2.00	
	カワラヒワ	1		2			1	3	0.75	0.40	0.04	1.4	6.5	A	1	0.50	
30	ベニマシコ						2								2	1.00	
	ホオジロ	2	2	3	2		2	9	2.25	1.19	0.11	4.3	19.6	B	2	1.00	
	カシラダカ					35	4								39	19.50	
	アオジ					1									1	0.50	
	コジュケイ	1			1			2	0.50	0.26	0.03	1.0	4.3	B			
35	ガビチョウ	1	2		3			6	1.50	0.79	0.08	2.9	13.0				
40																	
45																	
50																	
計	範囲内	個体数	50	49	62	46	63	87	207	51.75	27.30	2.59			150	75.00	
		種 数	17	16	14	13	13	14	25						19		
		全 種 数	17	16	14	13	13	14	25							19	

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	荒船山c	調 査 者	大島 孝之
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	430 ~ 680 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

◎ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

国道沿いの旧道を三ッ瀬橋北詰から白井橋西詰まで進む調査コースである。コースの約半分は集落だが、旧道なので交通量は少ない。スギやヒノキの植林地が多いが、市野萱川の周辺には広葉樹林もある。

今回の調査では、営巢中のシジュウカラ、ツバメ、ウグイスなど、5種の繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。スギ林の奥から二ホンジカの声が聞こえた。

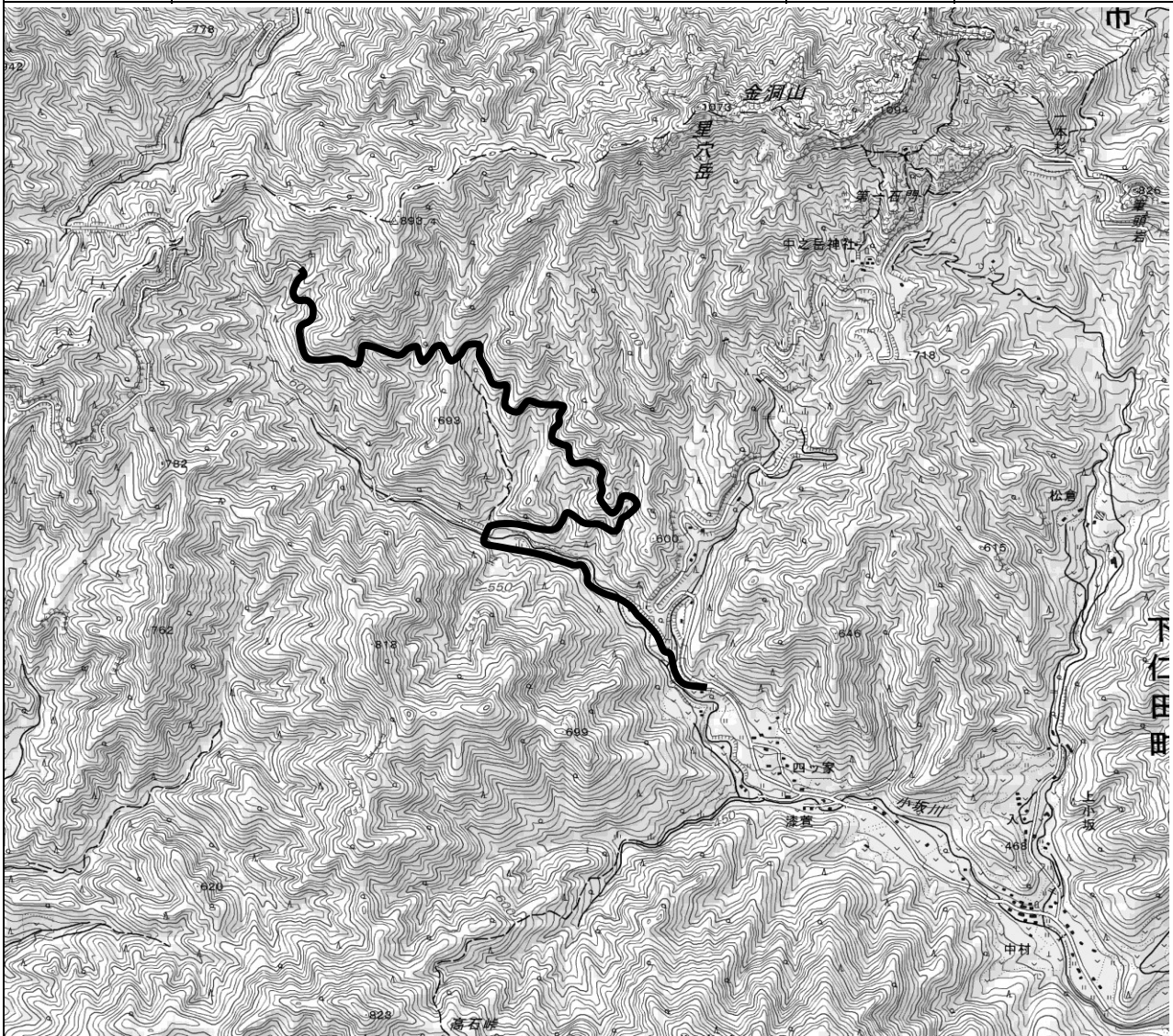
生 息 調 査 集 計 表

地形図名	荒船山c	調査者	大島 孝之
------	------	-----	-------

調 査 年 月 日	R4. 5. 29	R4. 5. 29	R4. 6. 19	R4. 6. 19	R4. 12. 18	R4. 12. 18	繁殖期							越冬期	
	5 : 00 5 6 : 45 (105分)	6 : 50 5 8 : 30 (100分)	4 : 45 5 6 : 30 (105分)	6 : 40 5 8 : 20 (100分)	7 : 00 5 8 : 40 (100分)	8 : 50 5 10 : 30 (100分)	合 計	平 均 (103分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (100分)
天 候	晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジ	3	○	○	○			3	0.75	0.44	0.04	1.5	7.1			
キジバト	○	1	2	○			3	0.75	0.44	0.04	1.5	7.1	B		
アオバト	○	○	1	○			1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4	B		
トビ				○			○								
5 クマタカ						○								○	
コゲラ			1				1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4			
アカゲラ	○		○	1			1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4			
アオゲラ		○		1			1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4			
サンショウクイ				1			1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4			
10 サンコウチョウ			○				○								
モズ	2	1					3	0.75	0.44	0.04	1.5	7.1			
カケス	○	○	○	○		○	○							○	
ハシボソガラス	○						○								
ハシブトガラス	○	○	1	1	○	3	2	0.50	0.29	0.03	1.0	4.8		3	1.50
15 シジュウカラ	2	2	9	9			22	5.50	3.22	0.28	10.8	52.4	A		
ツバメ	6	6	17	13			42	10.50	6.15	0.53	20.6	100.0	A		
イワツバメ		1	1	○			2	0.50	0.29	0.03	1.0	4.8			
ヒヨドリ	7	8	8	14	12	1	37	9.25	5.41	0.46	18.1	88.1		13	6.50
ウグイス	6	5	6	5	2		22	5.50	3.22	0.28	10.8	52.4	A	2	1.00
20 メジロ		2		2			4	1.00	0.59	0.05	2.0	9.5	B		
ミソサザイ	2	2	1	2			7	1.75	1.02	0.09	3.4	16.7	B		
カワガラス	○			○			○								
トラツグミ		○					○								
クロツグミ			1	1			2	0.50	0.29	0.03	1.0	4.8			
25 ツグミ						1								1	0.50
ルリビタキ					1									1	0.50
ジョウビタキ					1									1	0.50
キビタキ	○		1	○			1	0.25	0.15	0.01	0.5	2.4	B		
オオルリ	1	○	1	○			2	0.50	0.29	0.03	1.0	4.8	B		
30 スズメ	3	1	3		22		7	1.75	1.02	0.09	3.4	16.7		22	11.00
キセキレイ	1	2	5	5			13	3.25	1.90	0.16	6.4	31.0	A		
セグロセキレイ	2	1	1			1	4	1.00	0.59	0.05	2.0	9.5	A	1	0.50
カワラヒワ	3	2	2			1	7	1.75	1.02	0.09	3.4	16.7		1	0.50
イカル		○			2		○							2	1.00
35 ホオジロ	2	3	3	3		1	11	2.75	1.61	0.14	5.4	26.2	B	1	0.50
カシラダカ						3								3	1.50
コジュケイ	○	○	○	○			○						B		
ガビチョウ	○	○	3	2	○		5	1.25	0.73	0.06	2.5	11.9	B	○	
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	40	37	67	60	40	11	204	51.00	29.85	2.55		51	25.50
		種 数	13	14	19	14	6	7	25					12	
		全 種 数	23	24	24	24	8	9	33					15	

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	南軽井沢b	調 査 者	岡野 弘行
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	450 ~ 700 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

— 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースの樹木が大きくなっており、繁殖期の調査では鬱蒼としていて暗く、目視による鳥の確認は難しかった。繁殖期1回目の調査では、ほとんどが調査範囲外ながら各地でアオバトの鳴き声を聞くことができた。繁殖期3回目の調査では3羽のトラツグミが観察され、そのうちの1羽は餌をくわえて歩き回り、別の2羽は行動をともにしていたことから、繁殖の可能性が考えられた。越冬期の調査では、囀るルリビタキが記録された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。調査コースの南半分では、繁殖期にカジカガエルの鳴き声が聞こえた。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

南軽井沢b

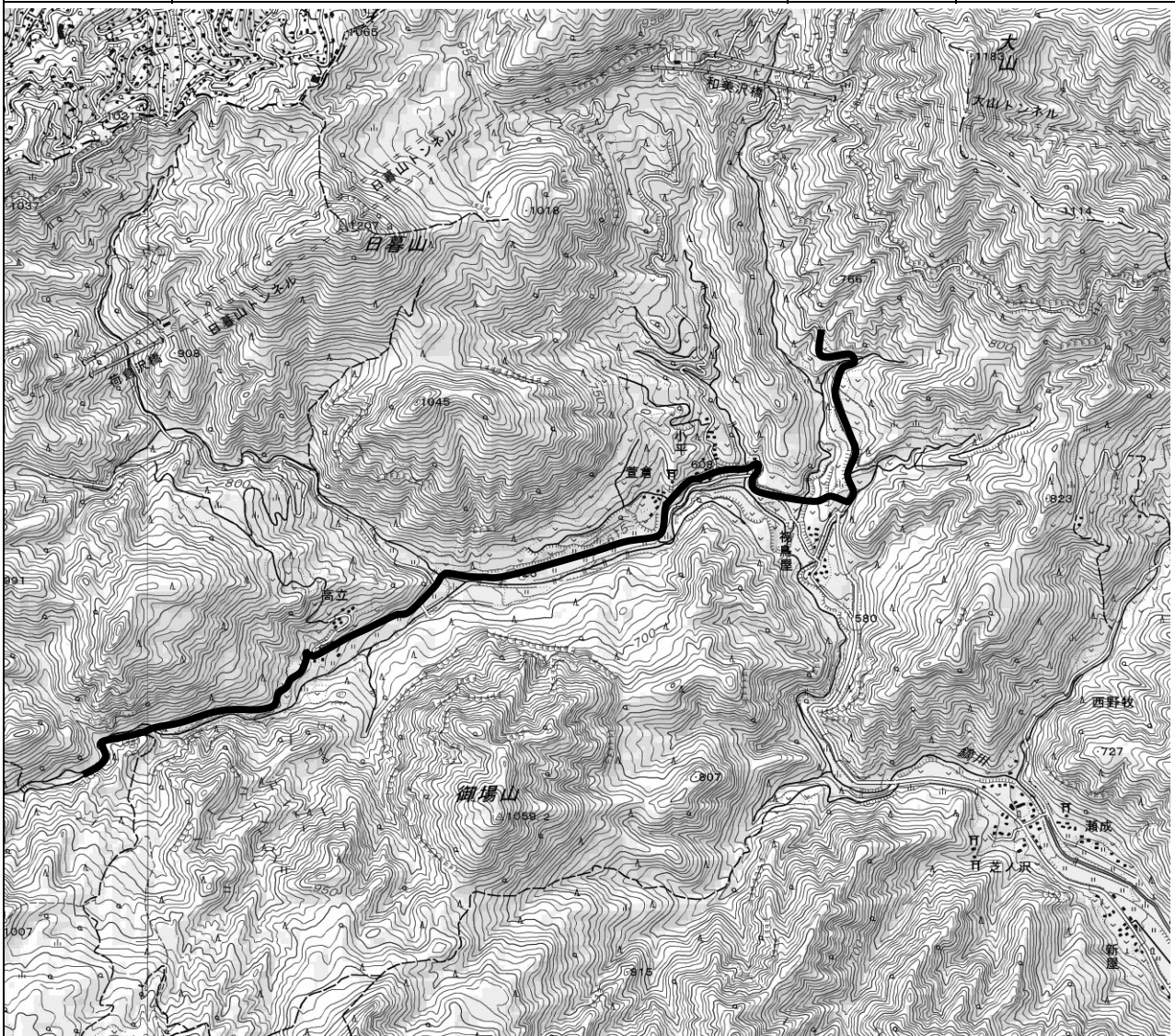
調査者

岡野 弘行

調 査 年 月 日			R4. 5. 30	R4. 5. 30	R4. 6. 20	R4. 6. 20	R4. 12. 12	R4. 12. 12	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			4 : 40 5 6 : 25 (105分)	6 : 30 5 8 : 45 (135分)	4 : 40 5 6 : 40 (120分)	6 : 45 5 8 : 35 (110分)	8 : 00 5 9 : 45 (105分)	9 : 50 5 12 : 00 (130分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑧							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦									
5	キジバト			5	2	2	7	2	1	16	4. 00	2. 04	0. 20	5. 5	15. 0		3	1. 50
	アオバト			○	4	○				4	1. 00	0. 51	0. 05	1. 4	3. 7			
	ホトトギス			○			1			1	0. 25	0. 13	0. 01	0. 3	0. 9	B		
	ツツドリ			○			○			○						B		
	トビ				2					2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 7	1. 9			
10	コゲラ			1		1				2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 7	1. 9			
	アカゲラ			1	3					4	1. 00	0. 51	0. 05	1. 4	3. 7			
	アオゲラ			3	1					4	1. 00	0. 51	0. 05	1. 4	3. 7			
	カケス			1	2	1	6			10	2. 50	1. 28	0. 13	3. 4	9. 3			
	ハシボソガラス						2			2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 7	1. 9			
15	ハシブトガラス				3	2	3	2	3	8	2. 00	1. 02	0. 10	2. 7	7. 5		5	2. 50
	コガラ								1							1	0. 50	
	ヤマガラ							1	1							2	1. 00	
	ヒガラ			1	1	5	12	12	6	19	4. 75	2. 43	0. 24	6. 5	17. 8		18	9. 00
	シジュウカラ			4	9	1	2	2	15	16	4. 00	2. 04	0. 20	5. 5	15. 0		17	8. 50
20	ヒヨドリ			22	28	17	40	3	10	107	26. 75	13. 66	1. 34	36. 8	100. 0	B	13	6. 50
	ウグイス			3	3	2	2		1	10	2. 50	1. 28	0. 13	3. 4	9. 3	B	1	0. 50
	ヤブサメ			3						3	0. 75	0. 38	0. 04	1. 0	2. 8			
	エナガ						2		13	2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 7	1. 9		13	6. 50
	メジロ			2	6		1			9	2. 25	1. 15	0. 11	3. 1	8. 4			
25	ゴジュウカラ			2	1	1	2		1	6	1. 50	0. 77	0. 08	2. 1	5. 6		1	0. 50
	キバシリ			1		1				2	0. 50	0. 26	0. 03	0. 7	1. 9			
	トラツグミ					3				3	0. 75	0. 38	0. 04	1. 0	2. 8	B		
	クロツグミ			1	1	3	5			10	2. 50	1. 28	0. 13	3. 4	9. 3	B		
	ルリビタキ							1	5								6	3. 00
30	キビタキ			2	7	5	11			25	6. 25	3. 19	0. 31	8. 6	23. 4	B		
	オオルリ			1	1	2	1			5	1. 25	0. 64	0. 06	1. 7	4. 7	B		
	カヤクグリ							1									1	0. 50
	キセキレイ			1		2			1	3	0. 75	0. 38	0. 04	1. 0	2. 8	B	1	0. 50
	カワラヒワ								1								1	0. 50
35	シメ							1									1	0. 50
	ホオジロ			5	2	1		2	2	8	2. 00	1. 02	0. 10	2. 7	7. 5		4	2. 00
	カシラダカ							4	3								7	3. 50
	アオジ			1					1	1	0. 25	0. 13	0. 01	0. 3	0. 9		1	0. 50
	コジュケイ			1		1	1			3	0. 75	0. 38	0. 04	1. 0	2. 8			
40	ガビチョウ			2	1	2	1			6	1. 50	0. 77	0. 08	2. 1	5. 6			
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	63	77	52	99	31	65	291	72. 75	37. 15	3. 64				96	48. 00	
		種 数	21	18	18	17	11	16	28							18		
		全 種 数	24	18	19	18	11	16	29							18		

調 査 地 の 概 況

市町村名	下仁田町	地形図名	南軽井沢d	調 査 者	大島 孝之
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	590 ~ 800 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース ☐ 広葉樹林（自然林・雑木林）☐ 針葉樹林（自然林）☒ 植林地（人工林）☐ 草地・草原・ヨシ原☒ 農耕地（田・畑・果樹園）☐ 里山・疎らな民家☐ 市街地・工業団地☐ 河川湖沼・河川敷

県道下仁田軽井沢線、女傑の滝から高立の一本岩付近までのコース。初鳥屋、小平、高立の集落を通り田畑もあるが、スギなどの植林地が多い。また、クワやナツグミ、キイチゴなど実のなる植物も多い。

今回の調査では、営巣中のシジュウカラとキセキレイが観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じ。ニホンジカの群れが観察された。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

南軽井沢d

調査者

大島 孝之

調 査 年 月 日			R4. 5. 25	R4. 5. 25	R4. 6. 13	R4. 6. 13	R4. 12. 14	R4. 12. 14	繁殖期								越冬期	
調 査 時 間			5 : 00 ＼ 6 : 55 (115分)	7 : 00 ＼ 8 : 50 (110分)	5 : 00 ＼ 6 : 50 (110分)	7 : 00 ＼ 8 : 45 (105分)	7 : 20 ＼ 9 : 10 (110分)	9 : 20 ＼ 11 : 00 (100分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均	
天 候			晴	晴	曇	晴	曇	雪	Σ①～④	⑦／ 4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／ 2	
種 類 　／　 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧		
			①	②	③	④	⑤	⑥								③	1. 50	
ウズラ								3								3	1. 50	
ヤマドリ				1					1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
キジ			○	1	○				1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
カルガモ			○						○									
5	キジバト			4	○	2	1		7	1. 75	0. 95	0. 09	5. 0	16. 7	B			
アオバト			1			○			1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4	B			
ホトトギス						○			○									
トビ					○				○									
ハイタカ							○									○		
10	クマタカ							2								2	1. 00	
コゲラ			1				1		1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4		1	0. 50	
アオゲラ			○		1				1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
モズ			1	○		1	1		2	0. 50	0. 27	0. 03	1. 4	4. 8	B	1	0. 50	
カケス			1		1	1	2		3	0. 75	0. 41	0. 04	2. 1	7. 1		2	1. 00	
15	ハシブトガラス				1	○			1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4		1	0. 50	
ヤマガラ				1				1	1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4		1	0. 50	
ヒガラ					2	1			3	0. 75	0. 41	0. 04	2. 1	7. 1				
シジュウカラ			5	○	3	1	5	2	9	2. 25	1. 23	0. 11	6. 4	21. 4	A	7	3. 50	
ツバメ			1	1	1	1			4	1. 00	0. 55	0. 05	2. 8	9. 5				
20	ヒヨドリ			9	12	14	7	10	12	42	10. 50	5. 73	0. 53	29. 8	100. 0	B	22	11. 00
ウグイス			2	3	5	1			11	2. 75	1. 50	0. 14	7. 8	26. 2	B			
センダイムシクイ			○						○									
メジロ				1	○				1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
ミソサザイ			○	○	1	2			3	0. 75	0. 41	0. 04	2. 1	7. 1	B			
25	ムクドリ			1					1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
カワガラス						2			2	0. 50	0. 27	0. 03	1. 4	4. 8				
クロツグミ				○	○	○			○						B			
ルリビタキ							1									1	0. 50	
ジョウビタキ							1	2								3	1. 50	
30	キビタキ			3	3	○			6	1. 50	0. 82	0. 08	4. 3	14. 3	B			
オオルリ			2	1	1	1			5	1. 25	0. 68	0. 06	3. 5	11. 9	B			
キセキレイ			1	1	4	3			9	2. 25	1. 23	0. 11	6. 4	21. 4	A			
セグロセキレイ				1					1	0. 25	0. 14	0. 01	0. 7	2. 4				
イカル			3	2	1				6	1. 50	0. 82	0. 08	4. 3	14. 3	B			
35	ホオジロ			2	5	6	2		15	3. 75	2. 05	0. 19	10. 6	35. 7	B	1	0. 50	
カシラダカ							3									3	1. 50	
コジュケイ			○						○									
ガビチョウ			3	○	1	○			4	1. 00	0. 55	0. 05	2. 8	9. 5	B			
45																		
50																		
計	範 囲 内	個 体 数	40	34	43	24	26	22	141	35. 25	19. 23	1. 76				48	24. 00	
		種 数	16	14	14	13	9	7	26							13		
		全 種 数	22	20	20	17	10	7	32							14		

南牧村鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

南牧村に含まれる調査地は下表の 4 メッシュである。いずれも低山帯から山地帯下部に属し、植林地や雑木林、農耕地や集落を含む沢沿いの里山的環境を有するコースである。荒船山 b は寺の開門時刻の関係で 300m ほど東側にスライドして調査を実施したが、それ以外の 3 メッシュは前回と同じコースで実施した。

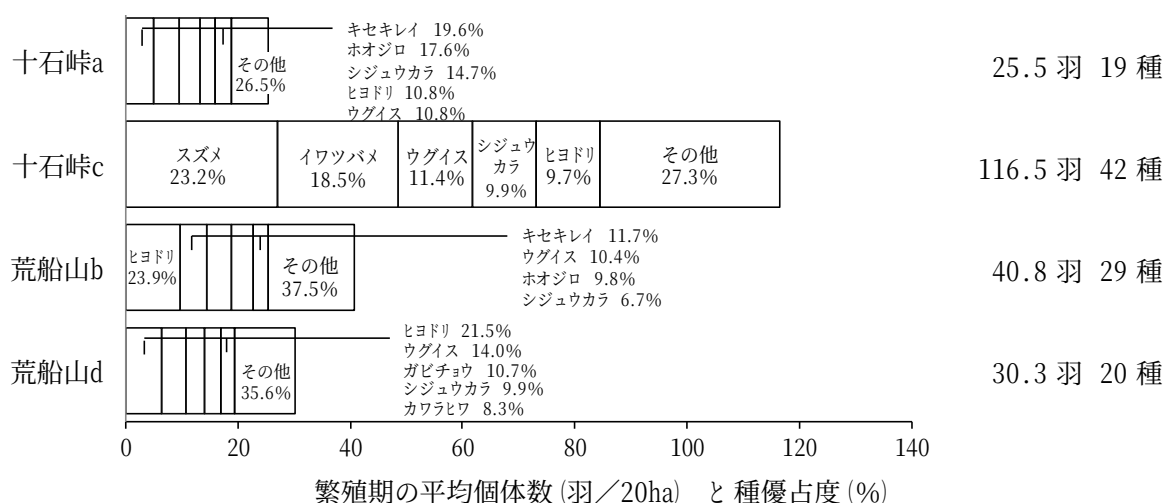
調査 メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
十石峠a	400 ～ 650	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ
十石峠c	420 ～ 500	○	—	◎	—	○	○	—	○	前回と同じ
荒船山b	340 ～ 630	◎	○	○	—	○	○	—	○	前回とほぼ同じ
荒船山d	525 ～ 730	○	—	◎	○	○	◎	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、南牧村全体で繁殖期に 53 種、越冬期に 37 種、年間では 65 種が記録された。なお、前々回（平成 24 年度実施）は年間 64 種、前回（平成 29 年度実施）も年間 64 種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。調査地の環境を反映して、ヒヨドリやキセキレイ、ウグイスなどが優占したほか、十石峠では人家周辺のスズメ、繁殖コロニーがあるイワツバメなどが優占した。近隣の調査メッシュと比較して、十石峠 c は個体数・種数ともに多く、その他のメッシュは個体数が少なかった。特筆すべき種としては、群馬県レッドデータブック（県 RDB）掲載種が、アオバト、ジュウイチ、ツツドリ、カッコウ、オオタカ、サンショウクイ、マミジロ、コサメビタキ、ノジコの 9 種記録された。このうちサンショウクイは環境省のレッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類に、オオタカとノジコは準絶滅危惧に指定されている。いずれも良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物のガビチョウが記録されたが、前回記録のあったソウシチョウは、今回は記録されなかった。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。繁殖期と同様に、ヒヨドリやシジュウカラなどが優占したほか、冬鳥のカシラダカやジョウビタキが上位に入った。県 RDB 掲載種はクマタカ、イワヒバリ、カシラダカが記録された。このうち、イワヒバリは高山帯で繁殖し、山地帯で越冬する。かつては裏妙義などで大きな越冬群が観察されていたが、近年は大きな群れは観察されなくなっている。また、本県で越冬する個体の中には、乗鞍岳で繁殖した個体がいることが標識足環の調査で判明している。谷川岳などで繁殖する個体があるまま県内で越冬しているのかどうかは不明である。

調査メッシュ	優占種（上位5種 [*] ）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
十石峠a	シジュウカラ	エナガ	ヒヨドリ	ハシボソガラス	キセキレイ	18.0	8
十石峠c	スズメ	シジュウカラ	カシラダカ	キジバト	ヒガラ	97.5	31
荒船山b	ヒヨドリ	ホオジロ	キセキレイ	ハシボソガラス	ジョウビタキ	29.0	21
荒船山d	ヒヨドリ	アオジ	ハシボソガラス	カワラヒワ	カワガラス	16.5	14

*同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

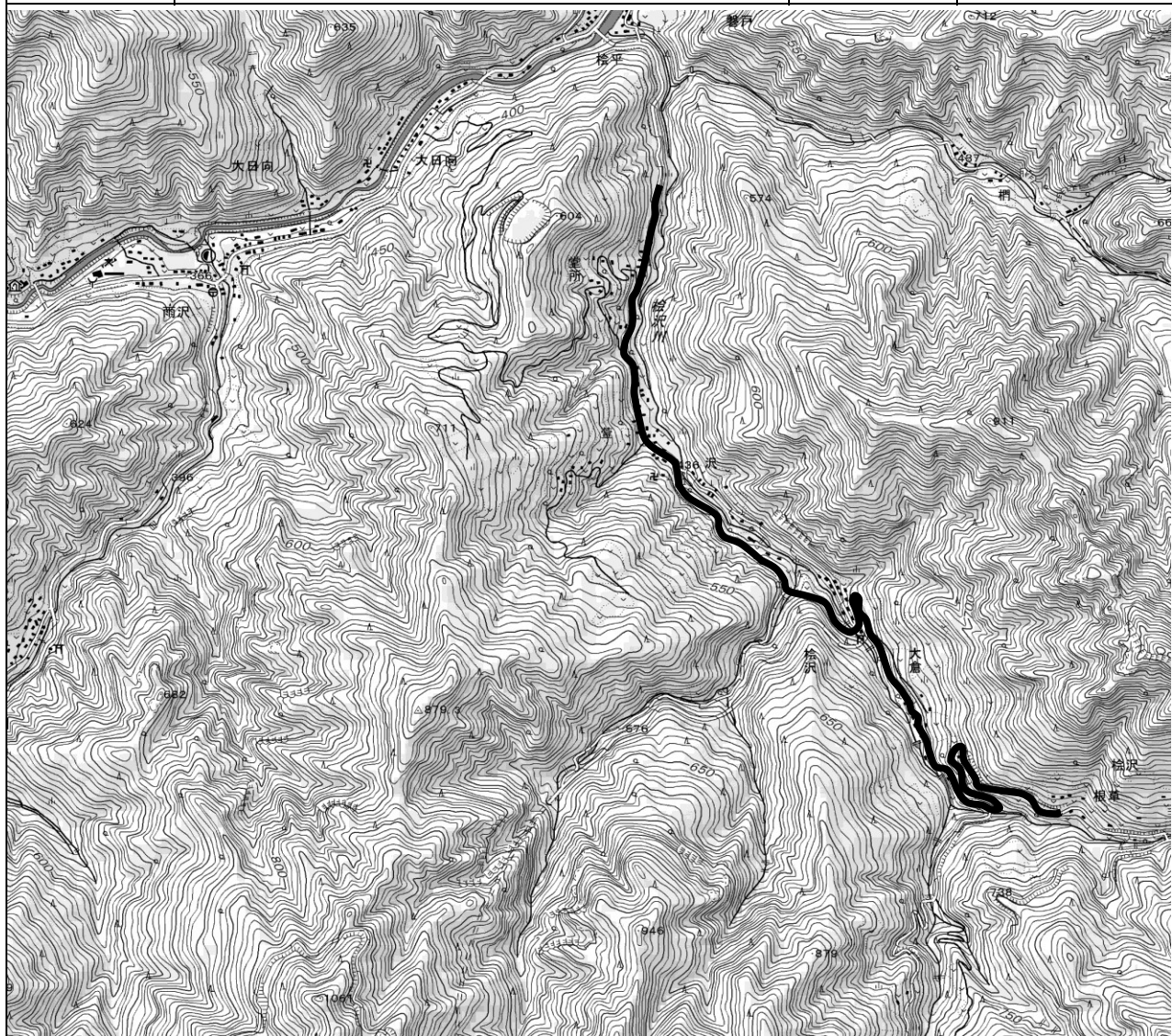
最近3回分の調査結果は下表のとおりである。4メッシュの中では、荒船山b・dの越冬期の個体数が減少傾向にあるが、カラ類やカワラヒワ、マヒワなど、冬季に群れで生活する種が減少したのが一因である。これらの種は群れが調査範囲内で確認されるかどうかで記録数が変動するため、冬季の個体数の減少がすぐに環境の悪化を示唆するものではない。他のメッシュでは種数・個体数に変動があるものの、南牧村全体では特に大きな変化はみられなかった。

過去2回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、クマタカ、カワセミ、マミジロ、コサメビタキ、ノジコの5種であった。一方、過去2回とも記録があるのに今回記録されなかったのはヤブサメ、ゴジュウカラ、アトリ、ウソ、ソウシチョウの5種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数(種)			平均個体数(羽/20ha)			種数(種)			平均個体数(羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
十石峠a	21	21	19	26.0	28.3	25.5	16	10	8	25.5	15.0	18.0
十石峠c	37	35	42	96.3	101.0	116.5	28	31	31	97.5	96.0	97.5
荒船山b	28	28	29	62.5	59.0	40.8	23	20	21	65.5	41.5	29.0
荒船山d	25	29	20	47.0	33.5	30.3	25	21	14	100.0	39.5	16.5

調査地の概況

市町村名	南牧村	地形図名	十石峠a	調 査 者	塚越 徹
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50m (幅) = 20ha			調査地の標高	400 ~ 650 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
○	広葉樹林（自然林・雑木林）	調査コースは、県道４５号主要地方道下仁田上野線の堂所を起点に根草までの区間である。県道の塩沢トンネルに向かう区間までは一般車両の交通量が多い。そこから上の区間はほとんど地元車両の利用で交通量は少ない。コース沿いの環境は、傾斜地に人家や農耕地（畑）が点在している。主な植生はスギの人工林と雑木林の混合林が両岸にみられる。桧沢川の水量は年間を通じて豊富に流れている。 ツバメの記録数が減少しており、今回の調査では営巣が観察されなかった。
－	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
－	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
－	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じである。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

十石峠a

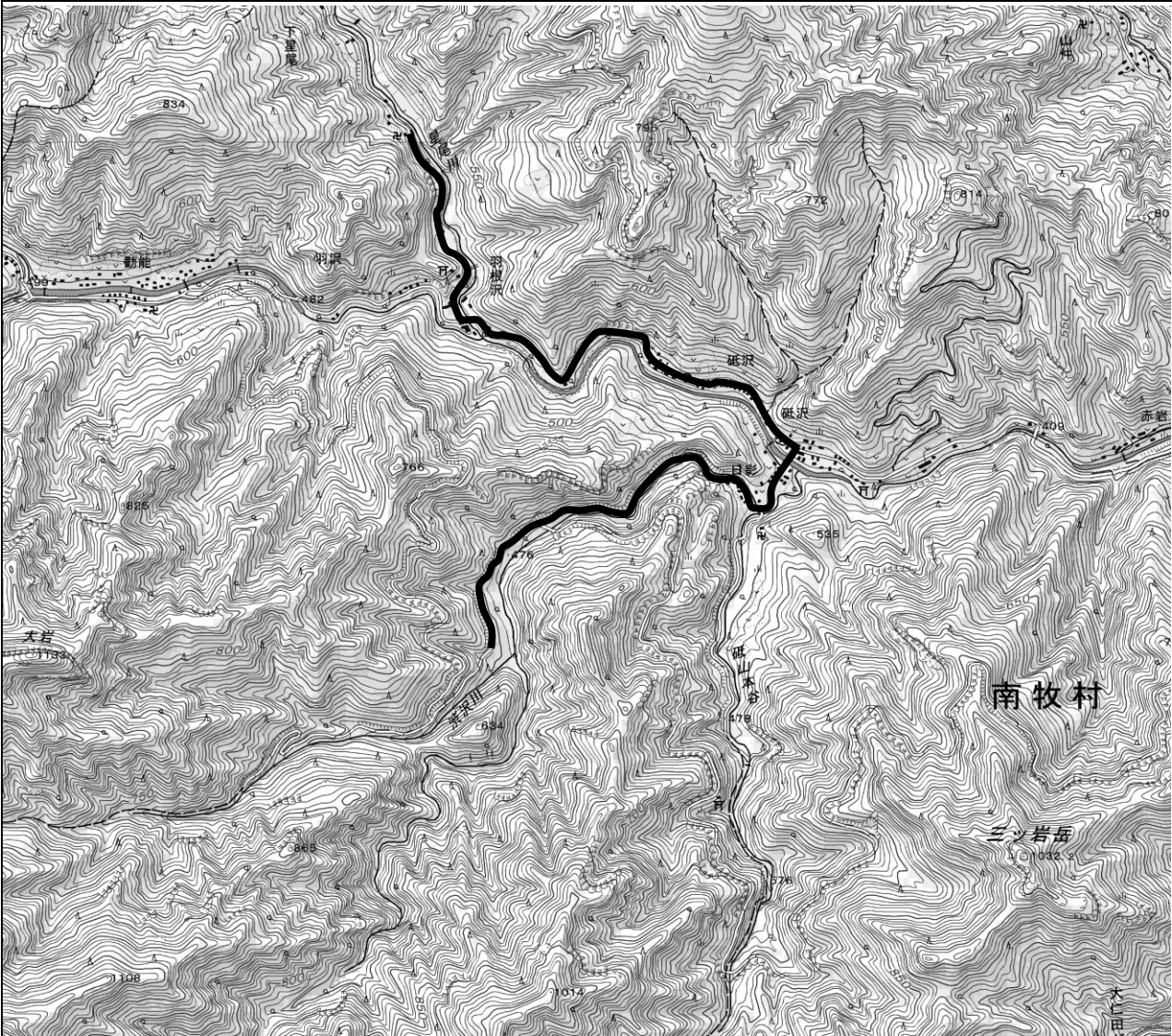
調査者

塚越 徹

調 査 年 月 日	R4. 5. 20	R4. 5. 20	R4. 6. 22	R4. 6. 22	R4. 12. 9	R4. 12. 9	繁殖期							越冬期	
	5 : 25 5 : 35 (130分)	8 : 00 9 : 50 (110分)	5 : 35 7 : 45 (130分)	8 : 05 9 : 55 (110分)	8 : 15 10 : 25 (130分)	10 : 45 12 : 35 (110分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候	曇	曇	曇	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
キジバト	2	1	2	1			6	1.50	0.75	0.08	5.9	30.0			
アオバト		○	○				○								
コゲラ		1	1				2	0.50	0.25	0.03	2.0	10.0			
アカゲラ		1	○				1	0.25	0.13	0.01	1.0	5.0			
5 モズ				1			1	0.25	0.13	0.01	1.0	5.0			
カケス		1		2			3	0.75	0.38	0.04	2.9	15.0			
ハシボソガラス			3	○	3	1	3	0.75	0.38	0.04	2.9	15.0		4	2.00
ヤマガラ						2								2	1.00
シジュウカラ	5	4		6	6	4	15	3.75	1.88	0.19	14.7	75.0		10	5.00
10 ツバメ		○	1				1	0.25	0.13	0.01	1.0	5.0			
ヒヨドリ	3	3		5	3	2	11	2.75	1.38	0.14	10.8	55.0		5	2.50
ウグイス	2	3	3	3		1	11	2.75	1.38	0.14	10.8	55.0	B	1	0.50
エナガ					4	6								10	5.00
ミソサザイ				○			○								
15 カワガラス		○	○	1			1	0.25	0.13	0.01	1.0	5.0			
オオルリ	2	1	1	1			5	1.25	0.63	0.06	4.9	25.0			
キセキレイ	5	5	5	5	1	1	20	5.00	2.50	0.25	19.6	100.0	B	2	1.00
カワラヒワ		2					2	0.50	0.25	0.03	2.0	10.0			
ホオジロ	6	3	5	4	1	1	18	4.50	2.25	0.23	17.6	90.0	B	2	1.00
20 コジュケイ			○				○								
ガビチョウ	1		1				2	0.50	0.25	0.03	2.0	10.0			
25															
30															
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	26	25	22	29	18	18	102	25.50	12.75	1.28		36	18.00
		種 数	8	11	9	10	6	8	16					8	
		全 種 数	8	14	13	12	6	8	19					8	

調 査 地 の 概 況

市町村名	南牧村	地形図名	十石峠c	調 査 者	卯木 達朗
調査範囲	4 k m（調査距離）× 50 m（幅）＝ 20 ha			調査地の標高	420 ～ 500 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース 
☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	河川の両側は急峻な地形だが、下星尾の集落から砥沢までは雑木林で、所々に段々畑の農耕地がある。日影から渋沢沿いは林道となり人家はない。各小沢は水量豊富で冬も涸れることはない。全体的に鳥類の生息に良好な環境であると思われる。 今回の調査では、営巣中のキジバト、シジュウカラ、イワツバメなど、8種の繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
◎	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
○	農耕地（田・畑・果樹園）	
○	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
○	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じである。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

十石峠c

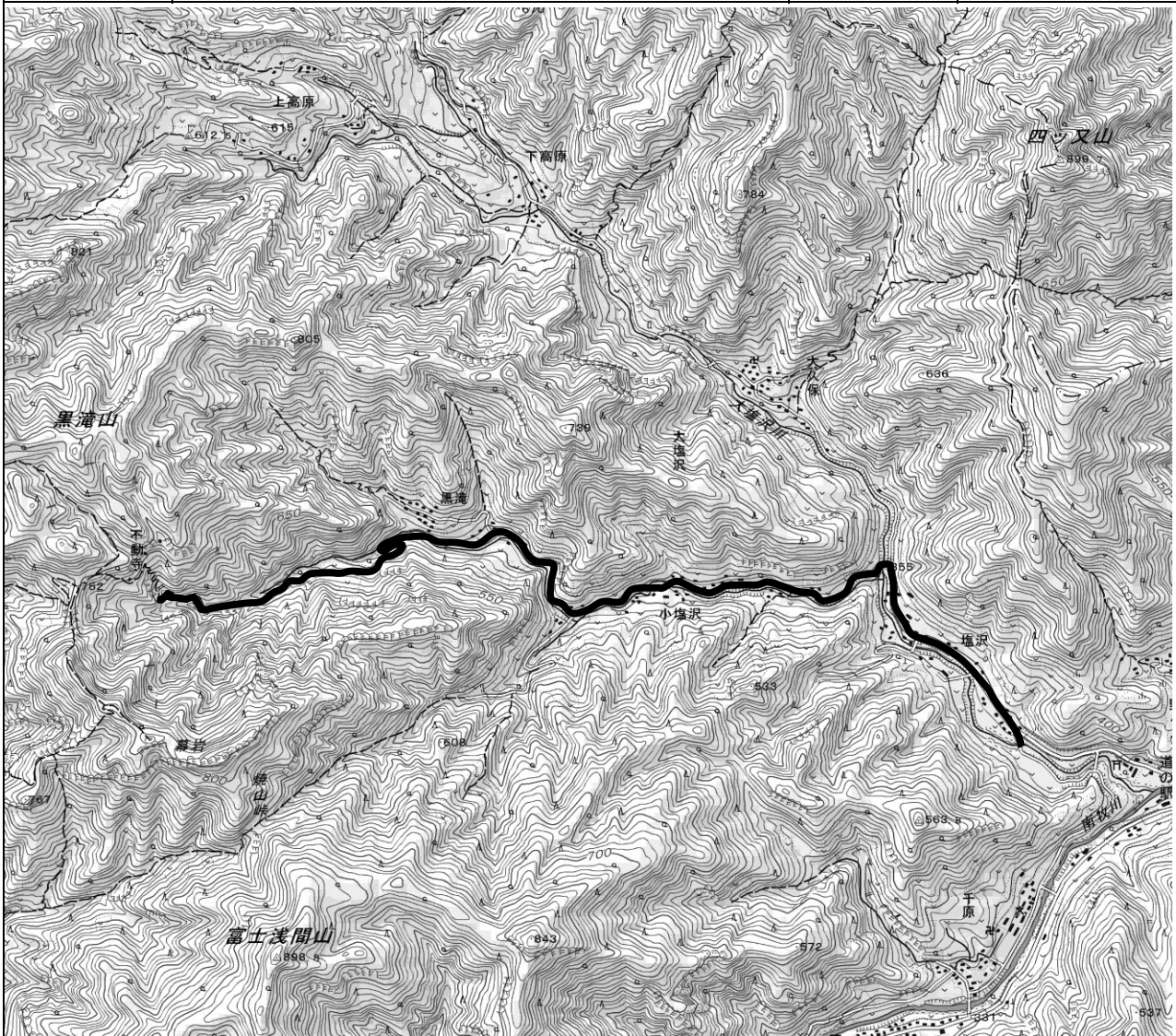
調査者

卯木 達朗

調 査 年 月 日			R4. 6. 5	R4. 6. 5	R4. 7. 9	R4. 7. 9	R4. 12. 17	R4. 12. 17	繁殖期							越冬期		
調 査 時 間			4：00 ＼ 6：05 (125分)	6：30 ＼ 8：35 (125分)	4：00 ＼ 6：10 (130分)	6：30 ＼ 8：35 (125分)	7：00 ＼ 9：00 (120分)	9：10 ＼ 11：20 (130分)	合 計	平 均 (126分)	密度		種 優 占 度 (%)	相 対 出 現 頻 度 (%)	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (125分)	
天 候			晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①～④	⑦／4	1h当り	1ha当り				Σ⑤～⑥	⑧／2	
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数			⑦							⑧
5				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦						⑧		
	ヤマドリ			1		○		1		1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.9	1	0.50	
	キジ			○						○								
	キジバト			4	6	9	6	7	4	25	6.25	2.97	0.31	5.5	23.1	A	11	5.50
	アオバト			○	○					○								
	ジュウイチ				○					○								
	ホトトギス			○	○	○	○			○						B		
	ツツドリ			○	○	○				○						B		
	カッコウ			○		○	○			○						B		
	トビ				○	○	○			○								
10	オオタカ			○						○								
	ノスリ			○	○			○	○	○						○		
	コゲラ			1		1		1	1	2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.9	2	1.00	
	アカゲラ			1	1		1	2	2	3	0.75	0.36	0.04	0.7	2.8	4	2.00	
	サンショウクイ			2	1	2				5	1.25	0.59	0.06	1.1	4.6	B		
	モズ			1	1			1		2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.9	1	0.50	
	カケス							3	4							7	3.50	
	ハシボソガラス			○	2	○	○	○	○	2	0.50	0.24	0.03	0.4	1.9	○		
	ハシブトガラス			1	○	2		○		3	0.75	0.36	0.04	0.7	2.8	○		
	キクイタダキ							1	1							2	1.00	
20	コガラ							1	2							3	1.50	
	ヤマガラ				1					1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.9			
	ヒガラ							4	7							11	5.50	
	シジュウカラ			16	12	9	9	7	14	46	11.50	5.47	0.58	10.1	42.6	A	21	10.50
	イワツバメ			18	18	26	24			86	21.50	10.22	1.08	18.9	79.6	A		
	ヒヨドリ			17	8	11	9	3	3	45	11.25	5.35	0.56	9.9	41.7	A	6	3.00
	ウグイス			14	18	12	9	2	3	53	13.25	6.30	0.66	11.6	49.1	B	5	2.50
	エナガ				8					8	2.00	0.95	0.10	1.8	7.4			
	エゾムシクイ			1	1		1			3	0.75	0.36	0.04	0.7	2.8	B		
	センダイムシクイ			2	1	1				4	1.00	0.48	0.05	0.9	3.7	B		
30	メジロ							2								2	1.00	
	ミソサザイ			2	3	3	2		1	10	2.50	1.19	0.13	2.2	9.3	B	1	0.50
	ムクドリ			3			2			5	1.25	0.59	0.06	1.1	4.6	A		
	カワガラス			1	2	2	2	1	1	7	1.75	0.83	0.09	1.5	6.5		2	1.00
	マミジロ					1				1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.9			
	クロツグミ			1	1	1	1			4	1.00	0.48	0.05	0.9	3.7	B		
	シロハラ								1								1	0.50
	ツグミ							3	4								7	3.50
	コルリ			2	2	2	1			7	1.75	0.83	0.09	1.5	6.5	B		
	ルリビタキ							1	1								2	1.00
40	ジョウビタキ							2	2								4	2.00
	コサメビタキ						1			1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.9			
	キビタキ			3	1	1				5	1.25	0.59	0.06	1.1	4.6	B		
	オオルリ			3	3	2	3			11	2.75	1.31	0.14	2.4	10.2	A		
	イワヒバリ								1								1	0.50
	カヤクグリ							1									1	0.50
	スズメ			34	23	27	24	27	31	108	27.00	12.83	1.35	23.7	100.0	A	58	29.00
	キセキレイ			2	1	2	1	2	1	6	1.50	0.71	0.08	1.3	5.6	A	3	1.50
	セグロセキレイ			1						1	0.25	0.12	0.01	0.2	0.9			
	マヒワ								8								8	4.00
50	ベニマシコ							1	2								3	1.50
	計	範囲内	個体数	131	114	114	96	73	94	455	113.75	54.06	5.69				167	83.50
		種 数	23	21	18	16	21	21	28							25		
		全 種 数	31	28	24	20	24	23	37							28		

調 査 地 の 概 況

市町村名	南牧村	地形図名	荒船山b	調 査 者	清水 伸彦
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20ha			調査地の標高	340 ~ 630 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは、塩沢川に架かる壽橋から黒滝山第2駐車場までの河川、沢に沿ったコースである。終点の上部は不動寺で、スギの巨木が多く、県の天然記念物に指定されているものもある。コースに沿って人家、畑、人工林、雑木林がある。

今回の調査では、営巢中のキセキレイが観察され、繁殖が確認された。第2駐車場でノスリが低くとび調査者を警戒しているようであった。越冬期に範囲外で記録されたクマタカは、大きさが異なる2羽で、雌雄と思われる。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

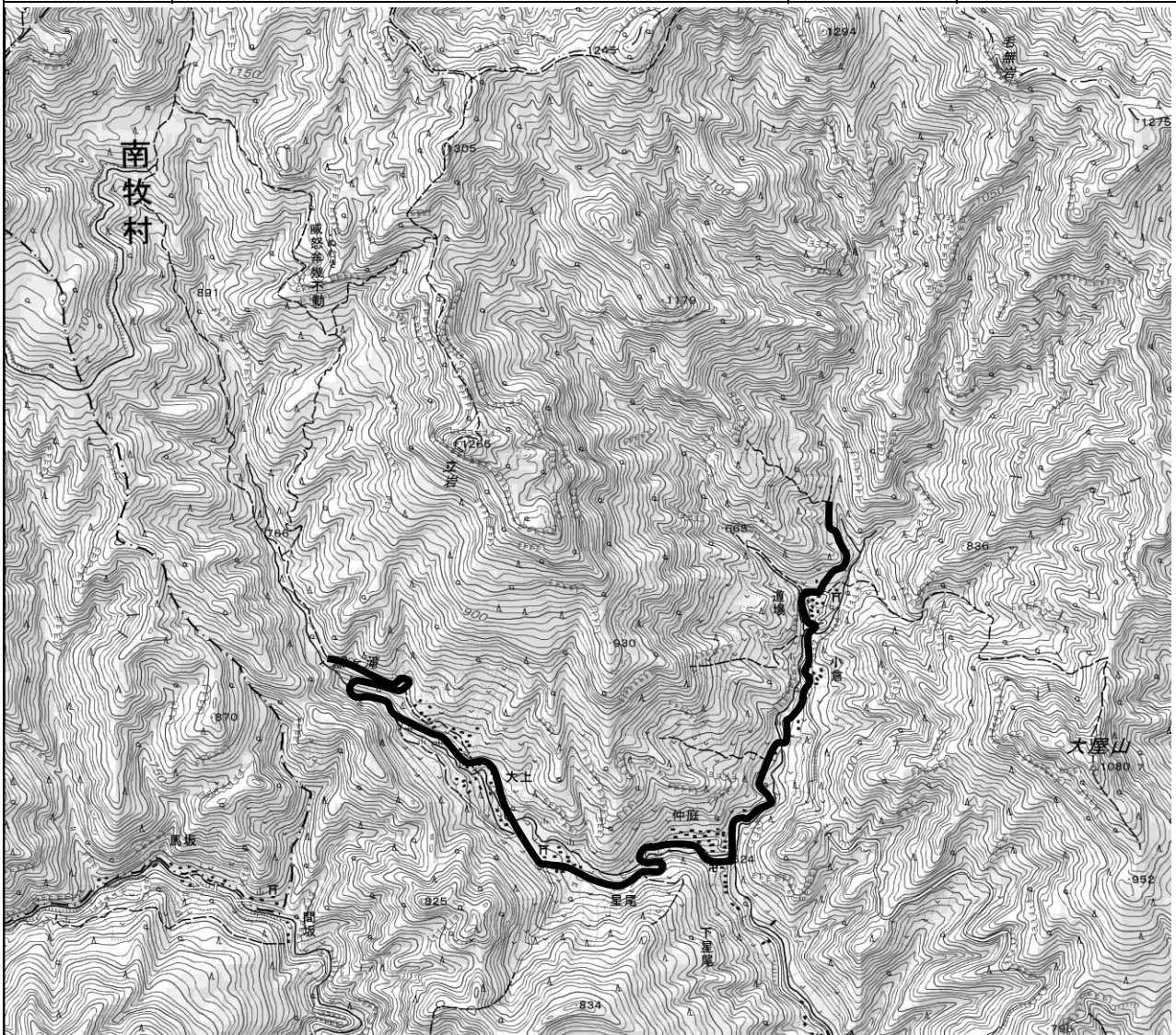
調査コースは前回とほぼ同じ。黒滝山不動寺の開門時間が午前8時からとなり、早朝に馬の背方向に行けなくなったため、黒滝山第2駐車場を終点とし、コースを下流側へ300mほどスライドして実施した。

清水 伸彦

-111-

調 査 地 の 概 況

市町村名	南牧村	地形図名	荒船山d	調 査 者	黒澤 正明
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50m (幅) = 20ha			調査地の標高	525 ~ 730 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース

○ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

◎ 植林地（人工林）

○ 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

◎ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

調査コースは星尾川沿いにあり、スギ等の植林地が4割、畑と民家、原野が各2割程度で、耕作されている畑は少ない。川の水量は少なくないが、冬期にはわずかとなる。
今回の調査では、巣内雛と思われるヒヨドリの雛の声が記録され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

荒船山d

調査者

黒澤 正明

調 査 年 月 日	R4. 5. 30	R4. 5. 30	R4. 7. 2	R4. 7. 2	R4. 12. 12	R4. 12. 12	繁殖期							越冬期	
	5 : 10 5 7 : 15 (125分)	7 : 50 5 9 : 55 (125分)	5 : 50 5 7 : 45 (115分)	8 : 30 5 10 : 30 (120分)	7 : 30 5 9 : 40 (130分)	10 : 00 5 12 : 10 (130分)	合 計	平 均	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候	晴	晴	晴	晴	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦							⑧	
キジバト	4	2	2				8	2.00	0.99	0.10	6.6	30.8			
アオバト	○	○	○				○								
アオゲラ	1						1	0.25	0.12	0.01	0.8	3.8			
カケス			1	○	○		1	0.25	0.12	0.01	0.8	3.8		○	
5 ハシボソガラス	1						1	0.25	0.12	0.01	0.8	3.8			
ハシブトガラス		1	1		2	1	2	0.50	0.25	0.03	1.7	7.7		3	1.50
シジュウカラ	6	2	1	3	○		12	3.00	1.48	0.15	9.9	46.2		○	
ヒヨドリ	7	7	7	5	9	4	26	6.50	3.22	0.33	21.5	100.0	A	13	6.50
ウグイス	5	7	2	3		1	17	4.25	2.10	0.21	14.0	65.4	B	1	0.50
10 メジロ	1	○	1	1		○	3	0.75	0.37	0.04	2.5	11.5	B	○	
カワガラス			1	○	1	1	1	0.25	0.12	0.01	0.8	3.8		2	1.00
トラツグミ			○	○			○								
ジョウビタキ					1	1								2	1.00
キビタキ	2	○	2	○			4	1.00	0.49	0.05	3.3	15.4	B		
15 キセキレイ		4	2				6	1.50	0.74	0.08	5.0	23.1			
セグロセキレイ	2		3	1			6	1.50	0.74	0.08	5.0	23.1			
カワラヒワ		3	1	6		2	10	2.50	1.24	0.13	8.3	38.5		2	1.00
ベニマシコ						2								2	1.00
イカル		1					1	0.25	0.12	0.01	0.8	3.8			
20 ホオジロ		4	3	2		1	9	2.25	1.11	0.11	7.4	34.6	B	1	0.50
カシラダカ						2								2	1.00
アオジ					5									5	2.50
コジュケイ				○			○								
ガビチョウ	4	4	4	1	○		13	3.25	1.61	0.16	10.7	50.0		○	
25															
30															
35															
40															
45															
50															
計	範囲内	個体数	33	35	31	22	18	15	121	30.25	14.97	1.51		33	16.50
		種 数	10	10	14	8	5	9	17					10	
		全 種 数	11	13	16	13	8	10	20					14	

甘楽町鳥類生息密度調査結果

1. 調査地の環境

甘楽町に含まれる調査地は下表の3メッシュである。下仁田bは山地帯下部に属するが、その他の2メッシュは低山帯に属する。上野吉井cは大塩湖を起点としてゴルフ場とサファリパークに隣接する丘陵の里山集落と農耕地、上野吉井dは雑木林と植林地、集落を中心とした沢沿いのルート、下仁田bも雑木林と植林地、集落を中心としているが、斜面の中腹のルートである。周辺の環境に大きな変化はなく、3メッシュとも前回と同じコースで実施した。

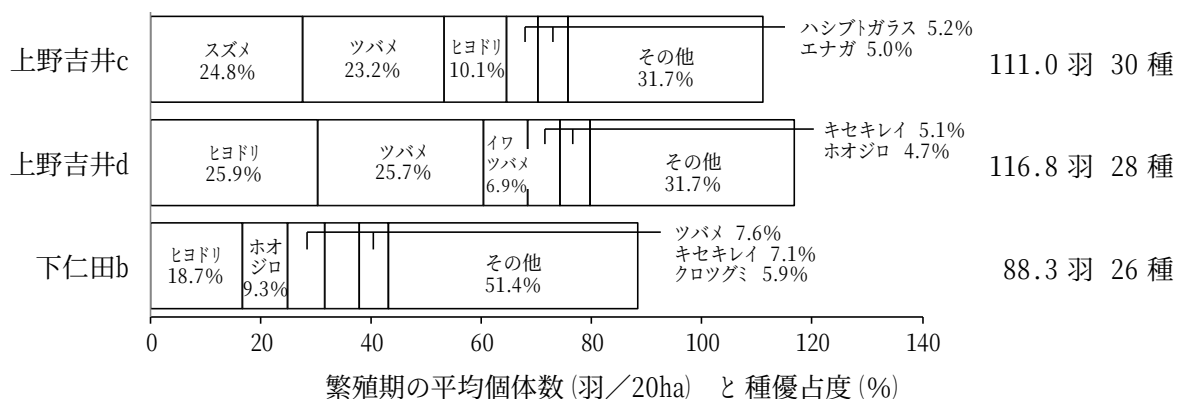
調査メッシュ	標高	環境要素								調査コース
		広葉樹林	針葉樹林	植林地	草地草原	農耕地	里山集落	市街地	河川湖沼	
上野吉井c	170 ～ 260	○	—	○	—	○	◎	—	○	前回と同じ
上野吉井d	240 ～ 380	◎	—	○	—	—	○	—	○	前回と同じ
下仁田b	470 ～ 700	◎	○	○	○	○	○	—	○	前回と同じ

2. 調査結果と考察

今年度の調査では、甘楽町全体で繁殖期に42種、越冬期に47種、年間では62種が記録された。なお、前々回（平成24年度実施）は年間64種、前回（平成29年度実施）は年間65種が記録されている。

(1) 繁殖期

繁殖期の調査結果は下図のとおりである。環境を反映して、スズメやヒヨドリ、ツバメなどの人里に生息する種とイワツバメが優占した。近隣の調査メッシュと比較して上野吉井c・dの個体数がやや多かったが、他は平均的な値であった。特筆すべき種として、群馬県レッドデータブック（県RDB）掲載種のアオバト、ツツドリ、サシバが記録された。このうちサシバは環境省のレッドリストでも絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。サシバはカエルやヘビなどを主に捕食するため、谷津田のような里山的環境を代表する種である。近年、県内でもこのような環境が減少していることから、県内の生息数は少ない。生態系食物連鎖における上位種であることから、良好な環境の指標として重要である。一方、特定外来生物のガビチョウが全メッシュで記録され、甘楽町全域で定着していることが確実である。現時点ではガビチョウ類による在来種への顕著な影響は確認されていないが、今後は生息数の増加に伴う影響が懸念されるため、注目していく必要がある。



(2) 越冬期

越冬期の優占種は下表のとおりであった。湖沼を含む上野吉井 c ではオオバンとキンクロハジロが優占種に入ったが、その他は繁殖期と同様にヒヨドリやスズメのほか、カワラヒワやホオジロ、カラス類など人里の種が優占した。また、冬鳥のジョウビタキも上位に入った。上野吉井 c は調査コースに湖沼を含むためカモ類の記録が多く、周辺の調査メッシュより種数が多かったが、個体数および他の 2 メッシュの種数と個体数は平均的な値であった。県 RDB 掲載種はコガモ、アオバト、クマタカ、アカハラ、カシラダカの 5 種が記録された。また、特定外来生物のガビチョウは越冬期にも記録された。

調査メッシュ	優占種（上位 5 種）					平均個体数 (羽/20ha)	種数 (種)
	1位	2位	3位	4位	5位		
上野吉井c	ヒヨドリ	スズメ	オオバン	キジバト	キンクロハジロ	81.5	36
上野吉井d	ヒヨドリ	シジュウカラ	カワガラス	ホオジロ	ジョウビタキ	57.5	19
下仁田b	ヒヨドリ	メジロ	カワラヒワ	エナガ	ハシブトガラス	51.5	21

＊同率の場合は分類順に5種まで掲載

(3)過去の調査結果との比較

最近 3 回分の調査結果は下表のとおりである。全メッシュとも増減があるものの、大きな変化はみられなかった。前回、繁殖期の個体数減少の一因としてスズメの減少があげられた。繁殖期のスズメは、上野吉井 c では最優占種であるが、上野吉井 d と下仁田 b では継続的に減少しており、今回もさらに減少した。他の市町村ではスズメが記録されなくなったメッシュもある。全国的な減少傾向にあるスズメの動向に今後も注目したい。

過去 2 回の調査で記録が無く今回新たに記録された種は、マガモ、コガモ、ダイサギ、クマタカの 4 種であった。このうち、ダイサギとクマタカは本調査では過去の記録がなく、今回が初めての記録となった。一方、過去 2 回とも記録があるのに今回記録されなかったのはオナガガモ、コガラ、マヒワ、ベニマシコの 4 種であった。

調査メッシュ	繁殖期						越冬期					
	種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)			種数 (種)			平均個体数 (羽/20ha)		
	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4	H24	H29	R4
上野吉井c	28	36	30	120.0	97.5	111.0	35	36	36	126.0	141.0	81.5
上野吉井d	26	29	28	97.8	183.3	116.8	22	21	19	93.5	64.5	57.5
下仁田b	32	30	26	56.0	90.3	88.3	22	26	21	51.5	90.0	51.5

調 査 地 の 概 況

市町村名	甘楽町	地形図名	上野吉井c	調 査 者	二川 真士
調査範囲	4 k m（調査距離）×50m（幅）=20ha			調査地の標高	170 ～ 260 m

調査地の環境（調査コースの植生、地形など）		調査コース
☐	広葉樹林（自然林・雑木林）	大塩湖から恩田集落までは、下川を挟んでわずかな畑が続く。南北の丘陵地は自然林と人工林が混在し、竹林もみられる。恩田地区から県道までは、道の両側に農耕地、道の西側に豚舎がある。下川の水量は多くないが、冬も涸れることはない。雑木林は下草も含めて手が入っておらず、食餌植物は十分にある。 今回の調査では、営巣中のツバメが観察され、繁殖が確認された。 ← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。
—	針葉樹林（自然林）	
☐	植林地（人工林）	
—	草地・草原・ヨシ原	
☐	農耕地（田・畑・果樹園）	
◎	里山・疎らな民家	
—	市街地・工業団地	
☐	河川湖沼・河川敷	
<備考> 調査コースは前回と同じ。繁殖期の2回目は小雨が降りだし、鳥の姿や声が少なくなった。		

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野吉井c

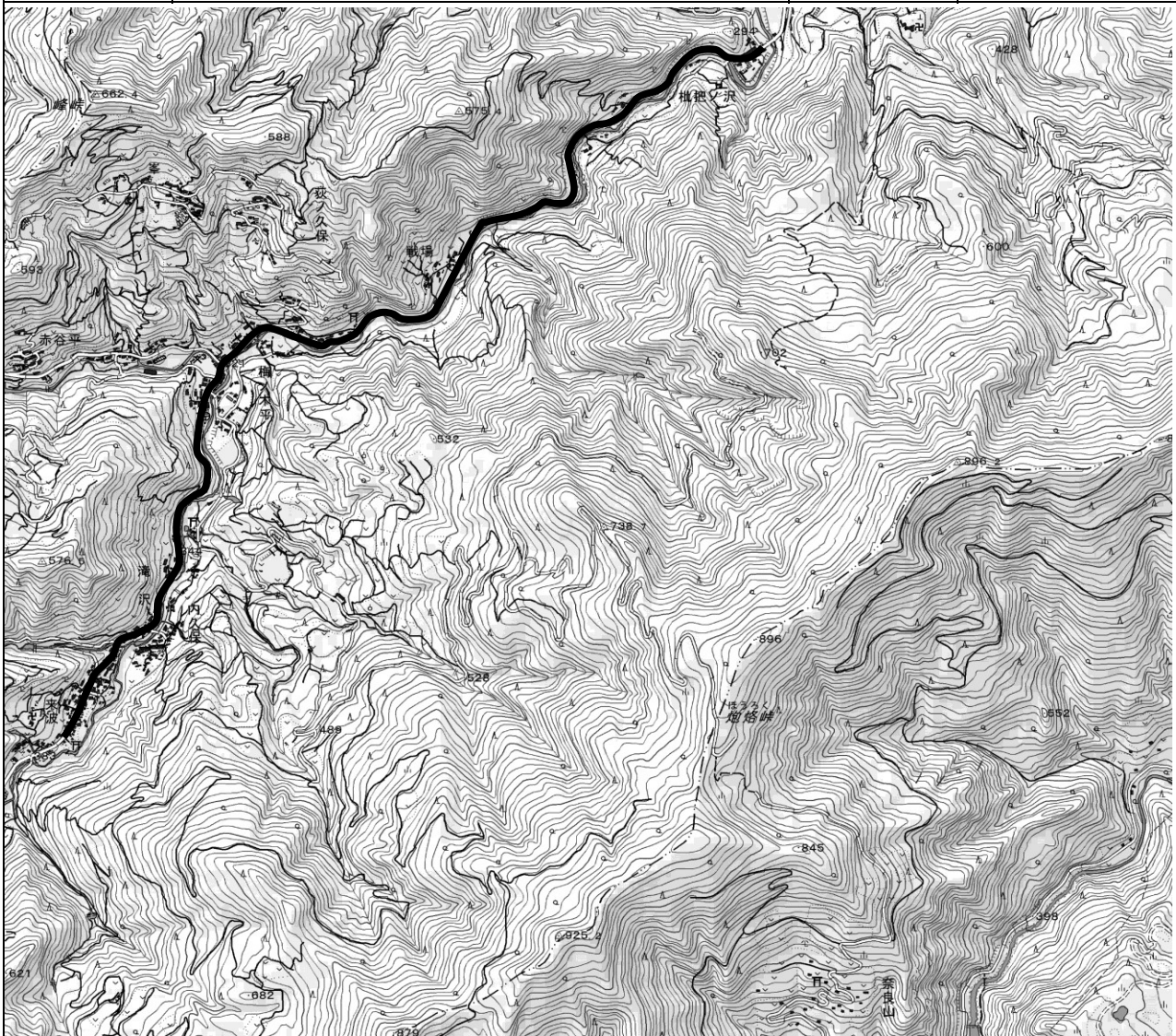
調査者

二川 真士

調 査 年 月 日		R4. 6. 10	R4. 6. 10	R4. 6. 24	R4. 6. 24	R4. 12. 21	R4. 12. 21	繁殖期							越冬期	
調 査 時 間		4 : 30 5 6 : 20 (110分)	6 : 30 5 8 : 10 (100分)	4 : 30 5 6 : 35 (125分)	6 : 45 5 8 : 35 (110分)	7 : 00 5 9 : 05 (125分)	9 : 10 5 11 : 10 (120分)	合 計	平 均	密 度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均
天 候		曇	雨	霧	曇	晴	晴	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2
種 類 / 結 果		羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	⑦							⑧	
5	キジ	○	○					○								
	ヒドリガモ					7	○								7	3.50
	マガモ						○								○	
	カルガモ	1	1		1	7	2	3	0.75	0.40	0.04	0.7	2.7		9	4.50
	コガモ						3								3	1.50
10	ホシハジロ					1	1								2	1.00
	キンクロハジロ					6	4								10	5.00
	カイツブリ		○		○		2	○							2	1.00
	キジバト	7	6	5	3	9	2	21	5.25	2.83	0.26	4.7	19.1		11	5.50
	アオバト					○									○	
15	カワウ					1	1								2	1.00
	アオサギ	1		○	1	1		2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.8		1	0.50
	ダイサギ					1									1	0.50
	オオバン					10	5								15	7.50
	ホトトギス	○	○	○	○			○						B		
20	トビ			1			2	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		2	1.00
	サシバ				○			○								
	コゲラ		○	1			○	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		○	
	アカゲラ						○								○	
	アオゲラ					1									1	0.50
25	モズ					2	2								4	2.00
	カケス			○	○	1	1	○							2	1.00
	ハシボソガラス	1	1				2	2	0.50	0.27	0.03	0.5	1.8		2	1.00
	ハシブトガラス	3	9	5	6	4	5	23	5.75	3.10	0.29	5.2	20.9		9	4.50
	ヤマガラ	1				1	3	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		4	2.00
30	シジュウカラ	14	1	6	○		8	21	5.25	2.83	0.26	4.7	19.1	B	8	4.00
	ヒバリ	3	1	2	1			7	1.75	0.94	0.09	1.6	6.4	B		
	ツバメ	19	17	30	37			103	25.75	13.89	1.29	23.2	93.6	A		
	ヒヨドリ	16	9	6	14	12	12	45	11.25	6.07	0.56	10.1	40.9		24	12.00
	ウグイス	3	○	1	1	2	1	5	1.25	0.67	0.06	1.1	4.5	B	3	1.50
35	エナガ			22				22	5.50	2.97	0.28	5.0	20.0			
	メジロ	2		○	2	○	2	4	1.00	0.54	0.05	0.9	3.6		2	1.00
	ムクドリ		2	1				3	0.75	0.40	0.04	0.7	2.7			
	ツグミ					2	○								2	1.00
	ジョウビタキ					1	1								2	1.00
40	キビタキ		○	○	○			○						B		
	スズメ	45	14	26	25	10	6	110	27.50	14.83	1.38	24.8	100.0		16	8.00
	キセキレイ			2	2			4	1.00	0.54	0.05	0.9	3.6			
	ハクセキレイ	2		5	2	4	3	9	2.25	1.21	0.11	2.0	8.2		7	3.50
	セグロセキレイ	2	1	2	1	2	3	6	1.50	0.81	0.08	1.4	5.5	B	5	2.50
45	カワラヒワ	5	5	6	5	○		21	5.25	2.83	0.26	4.7	19.1	B	○	
	ホオジロ	11		2	4	○	5	17	4.25	2.29	0.21	3.8	15.5	B	5	2.50
	カシラダカ						1								1	0.50
	コジュケイ	○		1	○		○	1	0.25	0.13	0.01	0.2	0.9		○	
	ガビチョウ	5	2	3	2	1	○	12	3.00	1.62	0.15	2.7	10.9		1	0.50
50																
計	個体数	141	69	127	107	86	77	444	111.00	59.87	5.55				163	81.50
	種 数	18	13	19	16	22	24	24							30	
	全 種 数	21	19	24	23	26	31	30							36	

調 査 地 の 概 況

市町村名	甘楽町	地形図名	上野吉井d	調 査 者	葛生 淳一
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	240 ～ 380 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

— 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

— 草地・草原・ヨシ原

— 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

雄川に沿う県道46号線を辿るルート。やや開けた場所には人家と農耕地が見られ、急傾斜地を拓いた段々畑はほとんど耕作放棄されている。川沿いのため水場は豊富で、食餌植物も少なくない。

今回の調査では、営巣中のツバメとイワツバメが観察され、繁殖が確認された。ツバメは、木造の地域センターに多数が営巣していた。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

生 息 調 査 集 計 表

地形図名

上野吉井d

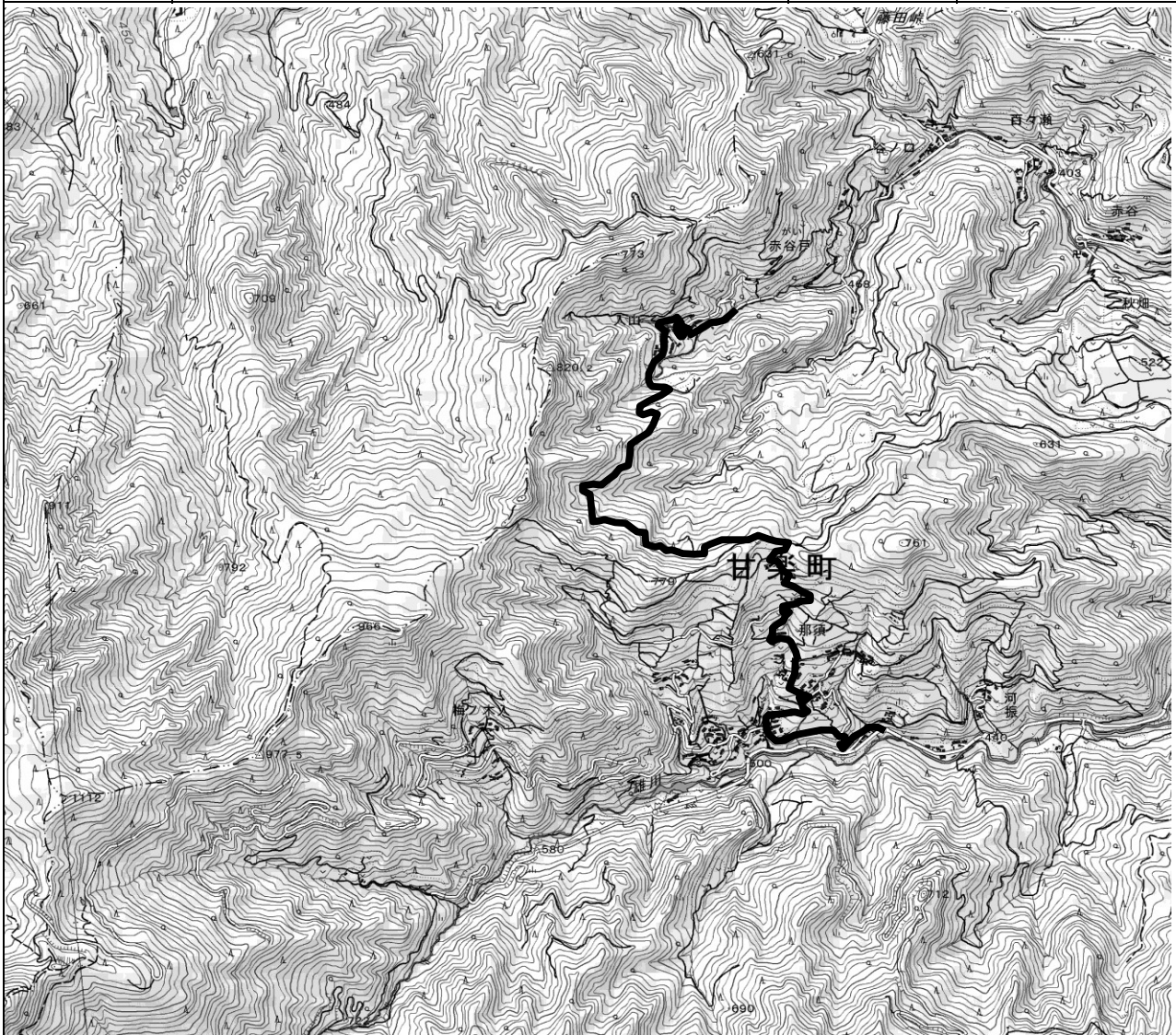
調査者

葛生 淳一

調 査 年 月 日									繁殖期								越冬期		
調 査 時 間			R4. 5. 26	R4. 5. 26	R4. 6. 25	R4. 6. 25	R4. 12. 5	R4. 12. 5	合 計	平 均 (109分)	密度		種 優 占 度	相 対 出 現 頻 度	繁 殖 可 能 性 ラ ン ク	合 計	平 均 (108分)		
			5 : 10 ㄱ 7 : 00 (110分)	7 : 10 ㄱ 8 : 55 (105分)	4 : 50 ㄱ 6 : 40 (110分)	6 : 50 ㄱ 8 : 40 (110分)	7 : 55 ㄱ 9 : 40 (105分)	9 : 50 ㄱ 11 : 40 (110分)											
天 候			曇	曇	晴	晴	曇	曇	Σ①~④	⑦ / 4	1h当り	1ha当り	(%)	(%)		Σ⑤~⑥	⑧ / 2		
種 類 / 結 果			羽数	羽数	羽数	羽数	羽数	羽数								⑧			
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦										
5	カルガモ					2	1			3	0.75	0.41	0.04	0.6	2.5				
	キジバト			3	1		1	1		5	1.25	0.69	0.06	1.1	4.1	1	0.50		
	アオバト			1						1	0.25	0.14	0.01	0.2	0.8				
	アオサギ			1	3			3	2		4	1.00	0.55	0.05	0.9	3.3	5	2.50	
	ホトトギス			○						○									
10	ツツドリ			1						1	0.25	0.14	0.01	0.2	0.8				
	クマタカ							1								1	0.50		
	コゲラ			3	1	1	1	2	3		6	1.50	0.83	0.08	1.3	5.0	5	2.50	
	アオゲラ			1		1					2	0.50	0.28	0.03	0.4	1.7			
	カケス							1									1	0.50	
15	ハシブトガラス			3		9		2	3		12	3.00	1.66	0.15	2.6	9.9	5	2.50	
	ヤマガラ							1	2								3	1.50	
	シジュウカラ			9	4	6		13	5		19	4.75	2.62	0.24	4.1	15.7	B	18	9.00
	ツバメ			27	33	35	25				120	30.00	16.55	1.50	25.7	99.2	A		
	イワツバメ			2	5	13	12				32	8.00	4.41	0.40	6.9	26.4	A		
20	ヒヨドリ			32	28	38	23	15	19		121	30.25	16.69	1.51	25.9	100.0	B	34	17.00
	ウグイス			7	5	1	3	3	1		16	4.00	2.21	0.20	3.4	13.2	B	4	2.00
	ヤブサメ			1	1						2	0.50	0.28	0.03	0.4	1.7			
	エナガ			4		2	6	2			12	3.00	1.66	0.15	2.6	9.9	B	2	1.00
	メジロ							2	3									5	2.50
25	カワガラス			1	1			6	6		2	0.50	0.28	0.03	0.4	1.7		12	6.00
	ジョウビタキ							2	4								6	3.00	
	キビタキ			6	4	1					11	2.75	1.52	0.14	2.4	9.1	B		
	オオルリ					2	2				4	1.00	0.55	0.05	0.9	3.3			
	カヤクグリ								1									1	0.50
30	スズメ				1	1	1				3	0.75	0.41	0.04	0.6	2.5			
	キセキレイ			5	7	7	5		3		24	6.00	3.31	0.30	5.1	19.8		3	1.50
	ハクセキレイ			3	1			1			4	1.00	0.55	0.05	0.9	3.3		1	0.50
	セグロセキレイ				1	1	4	1	1		6	1.50	0.83	0.08	1.3	5.0		2	1.00
	カワラヒワ			2	2	1	3				8	2.00	1.10	0.10	1.7	6.6	B		
35	イカル			2	2						4	1.00	0.55	0.05	0.9	3.3			
	ホオジロ			6	8	2	6	4	2		22	5.50	3.03	0.28	4.7	18.2	B	6	3.00
	コジュケイ				1	1	2				4	1.00	0.55	0.05	0.9	3.3	B		
	ガビチョウ			5	3	6	5				19	4.75	2.62	0.24	4.1	15.7	B		
40																			
45																			
50																			
計	範囲内	個体数	125	112	130	100	60	55	467	116.75	64.41	5.84				115	57.50		
		種 数	22	20	19	16	17	14	27							19			
		全 種 数	23	20	19	16	17	14	28							19			

調 査 地 の 概 況

市町村名	甘楽町	地形図名	下仁田b	調 査 者	清水 英明
調査範囲	4 k m (調査距離) × 50 m (幅) = 20 ha			調査地の標高	470 ～ 700 m



調査地の環境（調査コースの植生、地形など）

調査コース 

◎ 広葉樹林（自然林・雑木林）

○ 針葉樹林（自然林）

○ 植林地（人工林）

○ 草地・草原・ヨシ原

○ 農耕地（田・畑・果樹園）

○ 里山・疎らな民家

— 市街地・工業団地

○ 河川湖沼・河川敷

雄川沿いの集落から南斜面を登り、鞍部を越えて北側の集落へ降りるコース。広葉樹の雑木林や針葉樹の植林地、農耕地が広がっている。南端と北端周辺に河川があるが、それ以外は水辺は少ない。

今回の調査では、ツバメの巣立ち雛が観察され、繁殖が確認された。

← ※主要な環境要素に◎、その他の要素に○。

<備考>

調査コースは前回と同じである。

清水 英明

-123-

